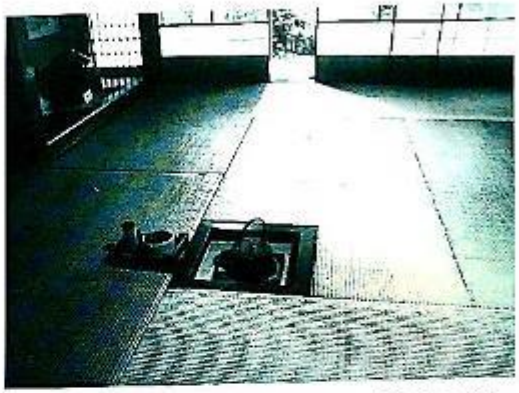
季節の実景

新春

撮影　武市通治

春雨



新春の朝

奈良の夜明け

近江の夜明け（琵琶湖）

京の夜明け（東寺）

千畳敷カールから宝剣山（中央アルプス）　　吉田　誠宏

雄山を望みながら一ノ越へ（立山）　　阪本　健治

残雪の三俣山の夕映え（九重連山）　　三浦　弘幸

新雪に輝く竜王山（立山）　　阪本　健治

新ハイキング 別冊 関西の山
96年1・2月 新春 第28号

●目次

表紙：松田敏男「藤原岳のフクジュソウ」（鈴鹿山地）

●作者プロフィール●1949年、京都市生まれ。京都市立芸術大学卒。1967年より山岳絵画、山岳誌の挿画多数制作。（京都中央画廊、南アルプス白水小屋、安曇野ギャラリー青彩、他）。京都山と野に親しむ会代表、日本山岳会会員、一号三角山岳会会員、水彩画・ペンの会会員

●グラビア
雪化粧……撮影 由井 収 文 松永 恵一
季節の実景（新春）……撮影 由井 収 文 武市 通治 4 2
随想（山のエッセイ）
日本の日本国……牛嶋 聲峰 11 10
里山からの山岳展望……舞見 守康

紀行
子ノ滝山……多際 雪雄
蝮蛇ヶ岳、西方ヶ岳縦走……斐磯 弘子 13
エリア別研究
天狗岳と経ヶ岳……浅野 学一 20
足尾山・渡谷山・稲辻山……松田 敏男 23
早春の沢地と西山湿地めぐり……泉 佐次盛一 28
近江側から登る鈴鹿の山々……遊津 米男 32
―鈴鹿の思い出・おもしろ話―（6）
連載 日本霊山紀行24 米山……岩野 明 36
●京都北山やぶ漕ぎ痛快山行記（24）
㉓㉔元越谷林道から白滝山・大洞ノ頭・水沢岳……52
㉕㉖清水谷林道から焼雪の雨乞岳……49
㉗㉘行者コバから真冬の釈迦山・北峰・鹿王山……47 44
洛北の里山、桂形山 バリエーションコース…京都北山グループ 39
●「記・紀」を歩く㉑ 長髄の道（その2）御所市域……中村 敏文 56
●文学歴史探訪ハイク㉚
飛鳥路に石造物を訪ねて……松永 恵一 60
コースガイド
1 野伏ヶ岳……箱根 克巳 64
2 西教山と高畑ノ峰……山形 豪之 66
3 高御位山と石の宝殿……安田 憲弘 68
4 白猪山……小山 ひろし 70
●ハイキング考「ハイキング」"源流は関西から"……小林 坡璃三 72
●関西・山域の古道を歩く ㉘生駒谷と日下道 ㉙千プ谷道……寺山 英男 38
●野の花讃歌（13）……市川 正次朗 36
●連載 きゃんとうキングの旅 ポカラからジョムソンとアンナプルナ（1）……山形 歳之 26
沿線ハイキングガイド……78
せせらぎ……80
サービスチェーン……78
新ハイ関西山行計画と報告……86
バス時刻（北部）……94
編集後記・広告案内……96

巻頭言

新たな年を迎えるというのはうれしいものです。希望や夢がふくらんできて、今年こそはと自分の目標とその計画を立てることができます。

家庭や仕事のことは、人とのつながりもあって、よく相談する必要があり、自分本位にはいきません。しかし、余暇活用や趣味のことは自分の事なので気ままにひとりで考えることができます。

「ハイキング」も今年はぜひこの山へ、あの季節はあの山へ、というようにカレンダーとにらめっこしながら、ガイドブックや地形図を見て計画するのは楽しいものです。山行計画は一ケ月ごとに発表していますが、リーダーの私としても、今年こそは年間計画をきっちり立て、円滑に実施できるよう考えてみたいと思っています。

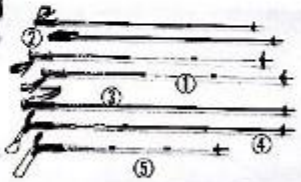
正月休みに、自分の行きたい山、歩いてみたいコースなど、本誌の記事も参考にされ、じっくりと計画を立てられてみてはいかがでしょうか。

今年も「新ハイキング別冊関西の山」をよろしくお願い致します。

新ハイキング関西（代表）村田 智哉

山をリズミカルに快適に。

ストックは下りで膝への負担を減らすと同時に、リズミカルに歩くことを可能にします。シングルストックよりもダブルストックを使えば、4本の足で歩く状態に近くなるので、足への負担も大変減少します。登坂のある所や滑りやすい所では特に有効で、今までより軽快にスピーディーに歩くことができます。



（ダブルストック）
①LEKI／スーパーマカルー アンチショック ¥19,000
コルクグリップの感触がよい高級モデル。
②LEKI／ハイカーアンチショック ¥12,400
プラスチックグリップのショックタイプで、価格は手ごろ。
（シングルストック）
③LEKI／シェラ ¥9,500
カメラの三脚にもなるシングルストック。カメラ好きの方に最適。
④LEKI／ワンダーファンド ¥9,600
「足ナップ」のシングルストックで、「足ナップ」のアンチショックの上級モデル。
⑤LEKI／マイクロアンチショック ¥8,800
軽タイプ（ゴムグリップ）のアンチショックで、シングルでも使用します。

なお、一部商品により価格が異なります。
ご購入の際、新ハイキング・メンバーズカードをご提示の方には、CO BOXメンバーズ使用で割引。
通信販売でもお承りいたします。お気軽にお問い合わせください。

通信販売システム
掲載商品はすべて当社の在庫品ですので、お手元への速やかな発送が可能です。万一、品切れの場合は、電話にてご連絡いたします。
（お支払方法）①代金引き換え
②銀行振込
③郵便為替
お申込の時は、お客様の郵便番号及び電話番号の確認をお願いいたします。詳しくはお近くの当社までお問い合わせください。

4F	MTB・ロードレーサー ランニングシューズ・ウェア
3F	テント・シュラフ・ザック 登山靴・山用品
2F	登山・アウトドアウェア
1F	スノーボード・インラインスケート アウトドアウェア・雑貨
B1	ダイビング・旅行カウンター

大阪店
心斎橋アメリカ村三角公園
東側南下数ブロック目より徒歩5分

大阪市西区 大阪市中央区西心斎橋2-10-24
☎06-212-3636 FAX06-212-5011
営業時間AM10:30～PM10:00

アウトドアのトータルショップ
遊 衣 登 食 CAMP 住
自然で暮らす。
OD BOX

日本の日本国（にっぽんこく）

生駒　資雄

皆さん日本国という山を知っていますか。

私がその名を初めて耳にしたのは、平成5年5月5日、標高555㍍のこの山が登山の対象としてとりあげられた時のことである。当日はたくさんの登山者で賑（にぎ）ったそうだ。

山名は「日本国山」ではなく、単に「日本国」となっていて、国土地理院の地形図にも山名が記載されている。新潟と山形の県境にあり、標高555・4㍍、2等三角点が設置されている。

現地の説明によれば、山名の起こりは諸説あり、定かではないとのこと。

第三十二代崇峻（すしゅん）天皇は在位五年にして、時の権力者蘇我氏に暗殺される。その第一皇子蜂子（はちこ）皇子は御年五歳であったが、聖徳太子は、皇子の身の上を案じて、皇子を都より落ち延びさせた。さすらいの身となった蜂子皇子は、越（こし）の国（北陸道）の最果てで大いに産業を興し、五十二歳で出羽国（山形県）羽黒山で没した。

皇子は晩年この高山に登り、故郷飛鳥のある未申の方角を指差して、「これより彼方は日本国」と仰せられた。これが「日本国」の始まりともいう。

皇子亡きあと、大和朝廷は大化の改新を行い、蝦夷地平定を進め、越の国の要害の地に柵を設けた。淳足柵、磐舟柵、そして幻の柵と言われる都岐沙羅柵は、日本国と一致するとの学説もある。

又、江戸後期、遠藤太郎次なる者が、この山の頂で見事な鷹を捕らえ、徳川十代将軍家治に献上したところ、将軍は「これに天下無双の鷹なるを以って、捕られた山を『日本国』と名付けよ」と賞したという言い伝えもある。

「まさに名峰『日本国』は、千古の謎を秘めた山である」と、山北町の説明にはあったが、どうも根拠は無いようだ。それにしても日本国とはよくも名付けたものだ。

関西からは遠く、日帰りできる所ではないが、その名前に魅かれて登山の機会をねらっていた。

平成7年9月、東北地方の山行の機会に立ち寄った。有名になり、登山道や道標も整備されて、簡単に登れる。

道は四方コースあり、山形県側は鼠ケ関より入った小名部から、新潟県側は府屋から入る小俣の集落からと二本の登山道が通じている。

今回は小俣の小学校から登って、蔵王堂に下山した。登り口には案内板もあり、四、五台分

随想（山のエッセイ）

の駐車場もある。説明板には登り2時間・下り1時間とあるが、どうも登り下りの差が大きすぎる。しかし、実際のタイムは登り1時間5分、下り45分であった。蔵王堂口からは駐車場まで10分あまり村中の道を歩くことになる。

山頂には2等三角点と小綺麗な休憩舎や展望台、ベンチ等があり、手入れされた公園になっている。

展望もまずまずで、日本海には粟島が浮かび、北には温海岳が形の良い姿を現し、朝日、飯豊の山々が霞んでいた。

これで日本国征服ということになるようだ。

山名辞典によると、日本と名の付く山は、日本ケ塚山・日本コバ・日本平・日本平山等の名を見るが、いずれも「にほん」となっていて、「にっぽん」と発音するのは「日本国」だけのようだ。

いずれにしても、登山に興味を持っている者としては、この珍しい名前の「日本国」に一度は登って、日本国を征服した気分になってみてはいかがですか。

（問い合わせ先）
山北町役場
（0254）77－3111

里山からの山岳展望

笹見　守康

水蒸気含有率の低い冬の大気は、日光の乱反射が少なくて遠くまで見晴らせ、山岳の展望を楽しむには絶好の季節だ。

昨年の1月8日(日)・16日(日)・21日(日)と福岡県可児市の里山、鳴吹山へ登った。登ったとはいっても、数ある登山道の中でも「真福寺コース」という最も短時間（1時間も要さない）で山頂に到達するコースだから、「山行」とは呼べないかも知れない。

しかし、私の目当ては山岳展望であり、プロミナー（地上望遠鏡）と三脚を担ぎ上げ、山頂に至れば、そこで山岳の展望を楽しみながらコーヒーを飲み、昼食をとり、数時間過ごして帰る、というものである。

幸いどの日もよく晴れた穏やかな日和で、山頂でじっと坐り込んでいても、それほど寒さは感じない。

山頂から遥かに山並みを眺めるのは、至福のひとときだ。

熱ばるおにぎりの旨さ、口に広がるコーヒーの味わいも、普段の生活の中では、まず感じられないのではないだろうか。

山を歩き始めて森林限界を超えた山岳景観の美しさや山頂からの山並みの壮観さに胸うたれ、それらが脳裏に焼きついてしまい、それ以来、職場で仕事をしていても、青空のきれいな日には無性に心が急く。

随想（山のエッセイ）

自分の中には、「山への憧れ」があるのだとしみじみ感じている。

「山への憧れ」と言葉で言ってしまえば簡単なのだが、それを抱く者にとっては、とても大きな意味を持っているのである。

昔、播隆上人に導かれ、励まされて笠ケ岳や槍ケ岳に登頂した庶民には、現実の暮らしの絶望的な貧しさ故に「山への憧れ」は命を賭した、「信仰」そのものだったのではないだろうか。

今、私の中にそれほどの深刻さはないにしても、日々の生活の中での大きな支えの一つであることは、疑いようのない事実である。

鳩吹山は、標高300㍍をわずかに超える低山ではあるが、岐阜市近郊では最も山岳展望に優れた山で、朝、目覚め青空を仰いでから急遽駆けつけても、十分間に合う近さである。

山頂からの見晴らしは360度の大展望であり、しいて欠点はと言えば、西に位置する「西山」（鳩吹山よりわずかに標高が高い）に遮られて伊吹山がそっくり見えないことぐらいだ。

1月8日の日曜日は、一年のうちでも数少ない絶好の展望日和だった。恵那山・笠置山・南アルプス南部・中央アルプスの全景。小秀山などの阿寺山地。御岳・乗鞍・北アルプス・川上岳などの飛騨の山。烏帽子岳・鷲ケ岳などの奥美濃の山。白山と並び、越美山地の荒波山・平家岳・冠風岳・能郷白山。その前には瓢ケ岳・高賀山・薬師山・日本岳・舟伏山・宮岳・西宮山・贄倉・花房山・小津権現山・蓮生山・天王山・法隆寺山などの美濃の山。西に伊吹北尾根の国見岳・鈴鹿山地の霊仙山・御池岳・藤原岳・竜ケ岳・釈迦ケ岳・御在所岳・鎌ケ岳。南には伊勢湾と尾張の山が望めた。

北アルプスの白い峰は、一つのかたまりは槍ケ岳・中岳・南岳だと思うのだが、もう少し北のもう一つのかたまりは立山なのか、薬師岳なのか、あるいは黒部源流の山岳なのかはっきりしない。

南アルプス南部の峰は、おそらく赤石岳と聖岳ではないだろうか。

これだけの山岳の連なりを目にすれば、一つ一つの山の名を知りたくなる。単によい景色だと言ってすませるのは、寂しすぎる。もっともっとこだわって、鳩吹山からの展望の山々を詳しく同定できたらと考えている。

南紀

子年子ノ山

子ノ泊山

多摩雪雄

子年に因んで

久しく忘れていた、というより関心が無かったが、来年の干支に因んで埼玉県の子ノ権現に初詣でに行こうと誘われた。足腰の神様でもあるし、近頃、頓に弱まった脚力を補強してもらわねばならぬ。それにわずかではあるが、私の干支にも関係がある。

子ノ権現は、京都の愛宕さんより山上平坦域がやや劣るが、社坊施設は充実し、参拝者の絶えることがない。

そこで思い出した。西方の子ノ泊山にも昨年2月に登っているが、今年が子年だとは、一向に気づいていない。ということは、私は十二支登山とか百名山とかには関係なく、登り残した山を順次探訪しているにすぎない。もっとも、その山が1等三角点設置峰であるという点に魅力は感じるし、あまり記録もなく、関東からはいささか辺鄙でもある。

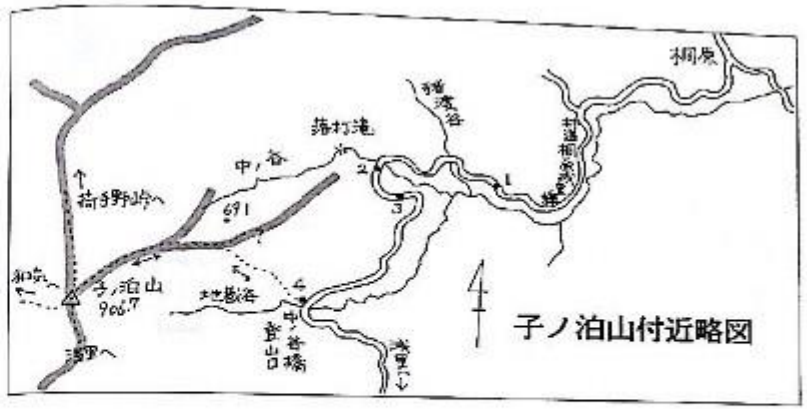
子ノ泊山とは、子ノ権現か役ノ小角か知らねども、泊まった（籠りした）ほどの霊山か、佳い山にはちがいない。

昭和53年刊『関西とその周辺の山』で坂井久光氏が紹介しているが、林道横原～浅里線開通以前のため、落打滝下方（東）の地区の破線始点（1）が登山口となっている。連続する滝や地蔵洞を辿り、地理院ルート（3）を合して頂上に達していて、なかなか素晴らしい探査ルートである。現在はそのまだ上流の登山口（4）まで車で登れる、五～六台は駐車可能の広場も前面にある。これは、「新ハイキング」459号（平成6年1月発行）に、市川静子さんが短い案内記を発表していたので、大いに参考になった。

子ノ泊山の山頂

新宮市の名所

前日、新宮市の名所を半日かけて巡行した。宿近くの徐福公園は拡張整備されて



子ノ泊山付近略図

面目を一新し、町の何処を歩いても徐福ゆかりの地となっていて、阿須賀神社の社伝には、「秦の始皇帝の苛政を逃れむと、不老不死の仙薬を求め祇に参らむと帝を欺き、童男童女三千を率ひ、五穀百工を携へて常世の国飛鳥（熊野）に来り、止りて子孫繁昌せり。」とあり、立派な社殿で社域も広い。

丹鶴城公園には塀や石垣が残り、新宮川に面した高台からの眺望は優れている。

八咫烏神社、手力男神社、恵比須神社を併祭する速玉神社の神域も広大なら、華麗な神殿に向かっては、自ずと敬虔な祈りを捧げる気持ちになる。

上田秋成『雨月物語』の一節の、浮島の森ノ沢の蛇淫の犠牲になった娘の物語を偲んで天然記念物の浮島の森を一巡してから、熊野三山の主神降臨の霊地、御神体山の神倉神社を下方から遥拝して明日への糧とした。

子ノ泊山

「浅里へ2時間30分、高岡へ3時間、和気へも3時間とした消えかけた古い指標が頂上の枯れ萱の中に倒れこんでいた」。

「南に熊野灘や新宮にそそぐ熊野川、烏帽子山をはじめ那智の山々、東に高峰山、西に大塔、法師、野竹法師などの熊野群山、北には玉置山をはじめ大峰、奥熊野の山がパノラマのように展開する」と、坂井さんは説明する。正に、その通りの大好望が得られた。風の無い晴れやかな山頂は、6度ながら暖かく、雲量は層積雲が3と、穏やかな静かさであった。

無くもがなの二、三の山頂表示板があり、その前面に障害の無い綺麗な1等三角点（906・72m）の標石が埋定されていて、磁北は東に5度外れている。北東部に細樹と針葉の一群がある。

休憩に入る前に、小広い頂上の清掃を全員で行う。昼食をすませた後は、持って来た時より荷が軽くなったはずだから、残屑は必ず持ち帰ろう。

枯れ萱の中で昼寝を愉しむ者もいるが、早昼にしては1時間半もの休憩、この山の良さを堪能した。

坂井さんは和気ルートをとって立間戸谷へ下ったが、危険箇所もあるから注意が肝要であるとされ、浅里ルートの西谷も危険であると記されているが、その浅里ルートは良く踏まれていた。

子ノ泊山新登路

新宮から車で50分、中ノ谷の深い切れ込みを見ると、その橋手前に小広い駐車地がある。林道開発のため山側を削り取った3m の垂直擁壁に鉄梯子がかかり、見落としそうな小さな指示標が添えてある。そこが桐原口の登山口であり、標高425m地点である。

すぐ始まる大岩を踏む急登も6～7分で杉林に入って、ウラジロ、サカキの多いジグザグ道となり、登り始めて50分、平坦になった所からさらに5分、600m辺りで右から平らな道が合する。そこの標示のひとつは桐原中ノ谷橋登山口、もうひとつには桐原地蔵谷林道とあり、登りは当然子ノ泊山とある。

中ノ谷橋の登山口

そこから15分、尾根に出ると右から地理院ルートが判然と合する。・691の南の670m地点で、休憩がてらSL（サブリーダー）に探査させると、道はすぐ左手の窪みに入って、密生藪に阻まれるという。もしかすると、先刻の600m で合した道が、坂井さんが辿った地理院のルートかも知れない。

西へ向きを変えた天然林の道はやや平坦にしばらく続き、ヒメシャラ、シャクナゲ、バイカオウレン（坂井記）群生帯の心和む静かな道程のできる所である。

再び現れた杉檜林を抜けると天然林の登りとなって、ツバキの口の左腹を急登して稜線上に出たところは800m 隠で、小憩によい。

わずかなコブを二つ越え、稜線と分かれて右の杉林へ下って、水の得られる沢を渡りそのまま右へ登る。この尾根のツバキ、シャクナゲ等の林相をゆっくり登り、最後の急登で子ノ泊山頂に着いたのは登り口から2時間後であった。

（平成7年2月初旬歩く）

△コースタイム▽（文中を参照）

△地形図▽2万5千＝大里

低山登山～本格トレッキングまで、
登山用品のことならおまかせ下さい。
新ハイの会員証で更に割引します。

とスキーのヨシミ
〒543 大阪市天王寺区南河堀4-70
TEL 06(772)7231

早春の敦賀湾を望む

蝶螺ケ岳、西方ケ岳縦走

妻鹿弘子

若狭

蝶螺ケ岳、難しい字である。海上から見た山容が、まるでサザエのようなので名付けられたそうだが、海から撮った写真を見た時、本当にサザエそっくりでビックリした。その時から登りたい山の一つになった。

それから二年目の3月、青春18きっぷを使って6人で念願の山に登った。

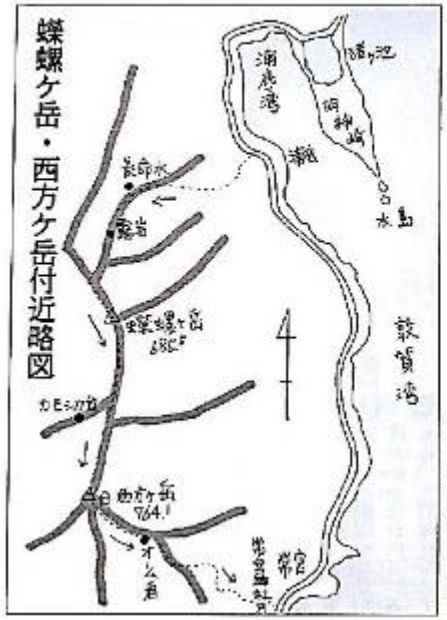
京都駅発7時07分の湖西線で近江今津着、福井行きに乗り換えて、8時45分敦賀駅到着。タクシーに乗り、美しい気比の松原が右に見えると、これから登る山裾が海に落ち込んでいる。狭い海岸線を、愛想のよい運転手さんと土地の話などしながら30分程走り、瀬戸に着いた。

装備を整え、9時40分に歩き始めた。わずか685㍍の低山とたかをくくっていたが、海からの登りは、どうしてどうして、しっかりと登りごたえがあった。

マンサクの花が盛りだった。少し青味を帯びた透きとおるような黄色が、チリチリと日に輝いて、あちこちに咲き競っている。「春にさきがけてまんず咲く」からマンサクと縁起を担いながら登ると、ピンクのマンサクが二本あった。一同、ああでもない、こうでもないと議論百出。あとで図鑑を調べることに落ち着いたが、単独行の、見かけお爺さん風の方が、こりゃうるさくてたまらん、という素ぶりで追い抜いて行った。

蝶螺ケ岳山頂にて

しばらく登ると、所々に残雪が現れ、やがて道はすっかり雪に埋まった。眼下に明神崎の首飾り、水島が見えて来た。数年前、まるで南の島のような写真を見た時は、単なる写真のトリックだと思っていたが、今眼下に見る水島は、遠浅のエメラルドグリーンの水が徐々に白味を増し、やがて真っ白な海岸線を持つ南の小さな珊瑚礁そのものに見える。とても早春の日本海とは思えなく、写真で見るよりはるかに美しい。ふり返り、ふり返り、水島の美しさを称賛しながら登るうち、急登が一段落して小広場に出た。わずかに下った所に長命水と名付けられた沢がある。雪を融かした甘く冷たい流れだ。この川が伏流水となり、明神崎の突端の猪ケ池に湧き出ているという。小鳥の囀りも聞こえず、サラサラとせせらぎの音だけが一酒酔けさを誘う。この谷をつめてみたいと目論でみたが、雪が引き上げるので、未練タップリ、止むなくその場を離れた。



雪はどんどん深くなり、先程の人の足跡を頼りに登るがザラメ雪は足元で崩れ、時には膝上まで潜り非常に歩きにくい。雪中に咲くマンサクや銀鼠色の柳の新芽に励まされ、展望のよい尾根上の露岩を巻き、いくつかのピークを越え、12時に蝶螺ケ岳山頂に立つことができた。360度の展望、眼下に敦賀、美浜の原発、そして明神崎に続く水島、青い敦賀湾をはさんで真っ白に雪をかぶった三周ケ岳、金糞岳、赤坂山、黒いシルエットの野坂岳と福井・近江・若狭の山々が延々と連なり、見る者を圧倒する。

山頂に、「夢」と刻まれた新しい小さなモニュメントが置かれていた。ここを愛した故人を偲んで仲間達が設置したと思われるが、きっとよい仲間に恵まれ慕われていた人なのだろう。その人柄を思い浮かべながら西方ケ岳に向かった。私もいつかモニュメントを置きたいと思える程の、気に入った場所に出会えるだろうか？　あまりに気が多すぎて？

先行者は蝶螺ケ岳から引き返したらしい。タクシーの運転手は、昨日は12人登った、と話していたが、踏み跡は全くついていない。雪に足をとられながら、苦労してカモシカ台分岐まで来た。魅力的なカモシカ台の大岩が手招きしているが、予想以上の残雪があり、わずか30分の往復なのだが、今回は見送った。藪部では雪はまだ1㍍30～40㌢はある。聞けばゴールデンウィークまでは消えないという。やはり敦賀は雪深い所だ。

周りがブナの林に変わり、傾斜が緩んできた頃、やっと西方ケ岳の青い避難小屋が見えた。長かった。疲を落とした明るいブナ林の中から見上げると、丸い頂にある青い小屋は見る者にホッとする安らぎを与えてくれる。標高764㍍とはいえ、真冬のこの場所での避難小屋はどんなに心強く有難いことだろう。丸く広い頂は360度の展望だが、ここからは水島も美浜原発も入りくんだ海岸線も見えず、眺望は蝶螺ケ岳に一歩譲る。

ひと息入れて14時15分、常宮神社への下

山にかかった。下山道には大勢の踏み跡がついていたので、ここから引き返したグループがあったのだろう。踏み跡をたどると、やがて急斜面をなだれるように下っているので、私達はそれとは別の道と思われる窪みをゆっくりと下った。雪のため気づかなかったのか、道標の極めて少ない山である。そのわりには「植物採集禁止」の立て札をかなり見かけた。雪の多い山は花も見事なので、今この雪の下でたくさんの花が春を待っているにちがいない。ブナの芽吹きの頃や花の季節も楽しみな山だ。

西方ケ岳山頂にて

下るにつれて、雪はグズグズに腐け出し、うかつに足を踏み入れると中は水溜りだったりして大騒ぎしながら下る。やがてオーム岩に出た。ここから西の山を眺めると、深山幽谷の趣きがある。こだまもさぞかしと思うが、そろそろ帰りの電車の時刻が気にかかり、そうそうゆっくりもしていられない。登山道が雪の下から少し姿を現し始める頃、銀明水に着いた。伏流水が小さな窪みから流れ出ている所にコップが置いてある。一同味見をしてから一気に下る。ここまで来ると急に俗世に戻り、あわよくば敦賀の新鮮な魚をと、欲が出てくる。

しっかりした道がたんたんと続いている。全コース、こんな道が続いているのなら道標も要らないし、タクシーの運転手が「家族向きのコースですな」と言っていたのもうなずける。しかし言うまでもなく山は、季節や天候により全く別のものになる。最高点764㍍、歩行距離7㌔足らずのコースだが、海抜0㍍からの登り、主なピークだけでも八つは越えること等を考え併せれば、そんなに楽観的に考えないほうがよい。

赤松の多くなってきた道を歩き15時20分常宮に下山。予約しておいたタクシーが待っていたので、16時52分発の電車に間に合った。もちろん、おいしい魚と冷たいビールもOK。海辺の山は余韻が多く、食いしんぼうにはこたえられない。ただ一つの心残りは、常宮神社脇の飼犬、ジョンに会えなかったことだ。地元では有名な登山犬で登山者を見ると先頭に立って案内するという。知人が西方ケ岳から縦走した時も、二階から飼主が呼び止めるのも無視して共に縦走したそうだ。

その知人に会った時に、「姿もなかった」と言うと、「あたりまえだ。犬だっておいしいものをくれそうかどうか、人相を見るわなあ」と笑われた。そうか、餌でつったのか。次回は私もおいしいものをタップリ持って、常宮から登ってみよう。

（平成7年3月21日歩く）

《参考タイム》
浦底9・40－蝶蝶ケ岳12・00～12・45－西方ケ岳14・00～14・15－常宮15・20

《地形図》2万5千＝杉津・竹波
5万＝今庄・竹波

風景に囲まれて素晴らしい旅との出逢い。

ネパール ヒマラヤの旅

東京 大阪 福岡 札幌発着

ロイヤルネパール航空 直行便利用（毎週水・日）

創業26年目を迎え、経験に裏づけされた信頼できるヒマラヤの旅をご提供させていただきます。

ホテル・エベレスト・ビュー

ホテル・エベレスト・ビューとポカラ7日間8日間

世界一の絶景、世界一の静寂、世界一の想い出

①日本～カトマンズ泊②カトマンズ～ホテル・エベレスト・ビュー泊③ホテル・エベレスト・ビュー滞在④ホテル・エベレスト・ビュー～カトマンズ泊⑤カトマンズ～ポカラ泊⑥ポカラ～カトマンズ泊⑦カトマンズ～⑧日本

毎週 木 出発 お一人様……329,000円ヨリ
毎週 水・日 出発 お一人様……305,000円ヨリ

ホテル・エベレスト・ビューとアンナプルナハイキング7日間8日間

お客さまからのご希望で生まれたツアー

①日本～カトマンズ泊②カトマンズ～ホテル・エベレスト・ビュー泊③ホテル・エベレスト・ビュー～カトマンズ泊④カトマンズ～サランコット泊⑤サランコット～ポカラ滞⑥ポカラ～カトマンズ泊⑦カトマンズ～⑧日本

毎週 木 出発 お一人様……309,000円ヨリ
毎週 水・日 出発 お一人様……294,000円ヨリ

世界最高峰とシェルパの里9日間

ホテルまで2泊3日のトレッキング

①日本～カトマンズ泊②カトマンズ滞在③カトマンズ～ルクラ～パグディンマ泊④パグディンマ～ナムチェバザール泊⑤ナムチェバザール～ホテル・エベレスト・ビュー泊⑥ホテル・エベレスト・ビュー～カトマンズ泊⑦カトマンズ滞在⑧カトマンズ～⑨日本

毎週 土 出発 お一人様……399,000円ヨリ

エベレスト・ハイランドトレッキング12日間

ゲーンプトマールの秀峰群を仰ぐ

①日本～カトマンズ泊②カトマンズ滞在③カトマンズ～ルクラ泊④ルクラ～パグディンマ泊⑤パグディンマ～ナムチェバザール泊⑥ナムチェバザール滞在⑦ナムチェバザール～タンボチェ泊⑧タンボチェ～ホテル・エベレスト・ビュー泊⑨ホテル・エベレスト・ビュー～カトマンズ泊⑩カトマンズ滞在⑪カトマンズ～⑫日本

毎週 土・水 出発 お一人様……321,000円ヨリ

ホテル・エベレスト・ビューの休日8日間

写真撮影、スケッチにも十分な滞在をお約束

①日本～カトマンズ泊②カトマンズ滞在③カトマンズ～ホテル・エベレスト・ビュー泊④⑤ホテル・エベレスト・ビュー滞在⑥ホテル・エベレスト・ビュー～カトマンズ泊⑦カトマンズ～⑧日本

毎週 日 出発 お一人様……294,000円ヨリ

世界の山々を歩く ニュージーランド ハイキング

ミルフィードトラック10日間

世界一美しい散歩道を歩く

①日本～②クィーンズタウン泊③クィーンズタウン～ティアナウ泊④ティアナウ～グレイドハウス泊⑤グレイドハウス～ポンポロナ泊⑥ポンポロナ～クインテイン泊⑦クインテインミルフィードマウンド泊⑧ミルフィードクィーンズタウン泊⑨クィーンズタウン～オークランド泊⑩オークランド～日本

'96年1／13(日)～1／22(月) お一人様 473,000円
2／5(日)～2／17(土) お一人様 483,000円
3／10(日)～3／29(月) お一人様 473,000円

ルートバーントラックとマウントクック10日間

ニュージーランドで人気No.1のスカイラインコース

'96年1／4(日)～1／13(土) お一人様 475,000円
2／3(日)～2／12(月) お一人様 485,000円
3／14(日)～3／23(土) 480,000円

旅行説明会

ニュージーランドのビデオを見ながら、持ち物等の細かい点についてまで詳しくご説明いたします。

東京本社内 11／29(水) 12／13(水)
大阪支店内 11／30(木) 12／8(金)
（時間）18：30～20：00
お電話にて御予約下さい。
（お客さまのご希望に合わせたオリジナル・ツアーもお手配致します）

キナバル山登頂8日間・7日間

東南アジア最高峰の4,000m峰に登頂する

大阪発 12／27(水)発～1／2(水)着
12／30(土)発～1／5(金)着
毎週(木)・(土)出発7日間 お一人様 198,000円ヨリ
東京発 毎週(木) 出発6日間 お一人様 198,000円ヨリ

チョモランマBC・ラサからカトマンズ13日間

東京 大阪発着

高原の大地をゆく チベット高原からのヒマラヤ

'96年3／28(木) 4／30(土) 5／21(木)
お一人様 849,000円ヨリ

キリマンジャロ登頂11日間

東京／大阪発着

アフリカ最高峰はサバンナにひときわ聳える

'96年1／14(日) 2／11(土) 3／24(日)
お一人様 880,000円ヨリ

マウンテントラベルツアーデスク

主催 ヒマラヤ観光開発株式会社

運輸大臣登録一般旅行業1014号

0120-777802

東京／〒105 東京都港区新橋3-26-3 ☎03-3574-8880
大阪／〒530 大阪市北区梅田1-11-4-500 ☎06-346-0360

連載

日本霊山紀行 24

米山

992・6メートル

浅野孝一

三蔵節のメロディはよく口ずさんでいたが、うかつにも米山に薬師さまが祀られていることを忘れていた、というよりも知らなかった。「米山拾句」には

「行こか参らんしょか　米山の薬師
一つは身のため　ササ主のため」

とある。

親しい山の友人から、米山のことを聞いてぜひ登ってみたいと思い、8月上旬、山仲間を誘って登った。

まず『日本山岳志』の米山の説明を記してみる。

「米山　越後國中頸城・刈羽ノ二郡ニ跨ル、中頸城郡青海川停車場ヨリ二里十町、黒川村大字米山寺ヨリ凡一里（或曰二里）ニシテ其山頂ニ達ス、標高三千二百十八尺」

又『越後名寄』には「頂ニ堂宇ヲ生ス、上品ナリ、常山縁起云、人王四十三代、元明帝帝和銅五年、越前泰澄禅師登是嶺、安置薬師佛、時ニ出羽國ノ住人神部清定ト云者上炎ヲ積テ北海ヲ渡ル、泰澄ノ沙彌鉢ヲ飛シテ供米ヲ乞フ、清定曰、是ハ敷定有ルユヘ供養シ難シト、沙彌怒シク山ニ歸ル、時ニ船中ノ米雛ノ飛知クニ相連テ山ニ飛来ル、此山初シメ五輪山ト云シヲ、是時ヨリ米山ト改名ス、」と山名の由来を記しているが、異説もある。

米山は昔、女人禁制の山であった。米山薬師は雨乞いの山として知られていた。また里人は数え年で十二歳になると、十二薬師の加護を求めて登山したという。そして帰りには、悪草の当帰を採取して、家の軒先に吊し厄除けにするという風習があった。

米山の登山コースとしては、南に柿崎コース、西に大平コース、東に野田コース、北方には谷根と西尾の二つのコースがある。

私達は当番18きっぷを利用して上野駅を朝7時台の列車に乗り、高崎、水上、宮内と乗り継いで15時すぎ、日本海側の柿崎駅に着いた。この日は柿崎の民宿に泊まった。町の表通りからは米山が見えないが、日本海の海岸に出ると正三角錐の山が見えた。

翌日、晴れてはいたが米山は雲に隠れていた。タクシーで山に向かった。柿崎コースの登山口には、廃校となった建物と、冬期参詣者のための薬師堂がある。コンクリートで舗装された急な坂道が終わると平地となり、左から平沢の登山道が合うと右手に石仏が一基ある。

登山道は樹林帯の中に、凹状にえぐれた急坂がジグザグに続く。少し展望が広がり、水野からの登山道が合流する。再び登山道はナベりやすい凹状が続く。やがて平らな歩きやすい尾根になり駒ノ小屋の休憩所にでる。この一帯は「駒ケ岳」と呼ばれている地点で、ホッとひと息入れる。

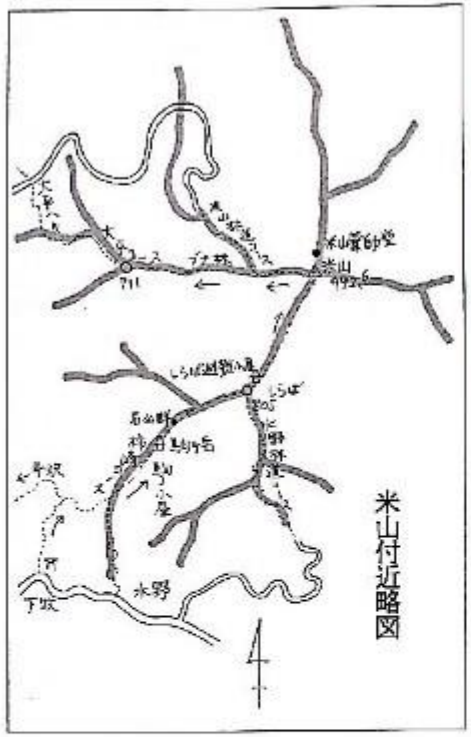
小屋のすぐ上に西国三十三番札所の石仏群があり、相変わらずのすべりやすい凹状のき山道が続く。途中出会った下山する人のザックには、この山の特産品の当帰の葉が詰まれ、あたり一面に実母散の匂いが立ちこめていた。

805㍍のピーク一帯は「しらば」と呼ばれている頂点で、右手から水野林道コースと合流し一基の石仏がある。その先にしらばの避難小屋がある。

登山道はいったん眺めのよい笹部に下り、クサリのある岩尾根を通って樹林帯となるが、登りはずいぶん楽になる。樹林帯を抜けると山頂の直地に出る。目の前に二階建の避難小屋があり、三角点の前には米山薬師の大きなお堂がある。

晴れていれば山頂からは360度の展望

米山山頂の薬師堂



柿崎コースにある石仏群

があるが、今回私達にはその機会が与えられなかった。

下山路は西方の大平コースをたどる。山頂直下は樹林帯で柿崎コースより歩きやすい。米山林道コースを右に分け、ブナ林の間を下ってゆくが、所々にある木の段は狭くて歩きにくい。7―1岩辺りでゆるい尾根を挟んで広場に出る。下方に日本海が見え、指導標には大平まで20分とあるが、大平上部の米山林道までは長い。

私達は車道で迎えの車に乗り、柿崎の民宿に戻った。16時少し前、柿崎発の臨時列車「青海川」号に乗り柳通に着いた。

（平成7年5月5日～6日歩く）

△参考タイム△

下牧・柿崎登山口7・30―水野登山口に分岐8・35―駒ノ小屋9・00―六曽林道分岐10・00―米山10・50～11・20―7―1岩手前の鞍部12・10―米山林道13・20

△地形図△　2万5千1柿崎

山の本紹介

安藤　正義著

『焼跡派の山歩き』

焼土と化した廃墟の中から始まった少年の人生。清澄な自と多感な心をザックにつめ歩いた40年の山旅と人生、その思い出の軌跡。

●自由現代社　定価1800円

ワンポイントアドバイス

『雪山を歩く

この季節、関西の低山といえども雪が積もっています。白銀の雪山を歩き、樹氷を見るのは楽しいものです。しかし、雪道に、相当な困難が伴います。

コースタイムは普段の五割増で計画しましょう。思わぬラッセルを強いられたり、急坂が凍てついていて倍以上かかることもあります。

装備としてはピッケルとアイゼンは必携です。滑らないように安心して歩くことが第一です。滑落してもピッケルで止めることができます。アイゼンは下手につけると歩きづらくなるばかりか、アイゼンのバンドやツメで足元を取られ転倒の原因になります。山行の前に自分の靴にピッタリ合っているか、ひもは長すぎないかなど点検しましょう。また手際よく脱着できるよう何回も練習しておきましょう。またカンジキも雪の深い所では威力を発揮します。

その他、帽子、手袋、下着、ソックスなども体を冷やさない工夫を。サングラスで目の保護もしましょう。（編集部より）

雪深い北山深部の山々

天狗峠と経ケ岳

松田敏男

京都北山

私は小さい頃から地図を見るのが好きだった。『児童年鑑』の絵地図には、都市に人が何人か描かれていたり、名所旧跡は朱色の鳥居やキラリと光る隧道などが配されていたが、南アルプスあたりはひっそりとしていて、色濃い緑色の中に頂上部だけが赤味がかった茶色で印刷されていた。

中学生になると地図は格段と美麗なアート紙に印刷されており、山の高さに合わせて茶色が濃くなっていく所に、よく目がいったものである。近畿地方を開けてみると、全体が淡い茶色におおわれていて、いかにものどかな印象を受けた。それはまた、他の地方に比べて縮尺が小さいことにも起因したと思う。

その中の頁の上部中央には京都府が縦長にある訳だが、京都市のすぐ北に比叡山、鞍馬山、愛宕山が並んでいて、そのはるか北の、薄い茶色の中に大悲山と三国岳、そして三国岳にくっつくように、南西すぐの所に天狗峠928㍍というのがあった。鞍馬山の北の方の天狗峠だからよく覚えている。何人も侵入できない厳粛な所といったイメージを、天狗峠に対して私は抱いていたように思う。

近郊の山に登り始めた頃は、天狗峠（峠（この地域の山に峠という字をあてることが多く、これより天狗峰という表記を使う）は、とても奥深くて初心者が行ける山ではないという思いを持っていた。なぜこんなにも人里から無縁のように思われる山が、中学校の地図に載っていたのか。その昔、人の生活に密着した歴史があったのだろうか。

天狗峠山頂（後方はブナノ木峠方面）

山の会に入り、雪の山にも慣れてきて、道のないヤブコギがおもしろくなってくると、天狗峠は私の心の中でだんだん身近かな存在に感じられるようになってきた。

一昨年の冬は、10年ぶりに京都の北山にも雪がどっさりと積もり、長年想い描いて

いた、この奥深い天狗峰に登る機会がやってきた。時雨さんをリーダーに、西村さんと三人で夜道を久多へと向かった。久多は京都市にありながら、琵琶湖へ流れ込む安曇川の支流の奥山川のそのまた支流の久多川の合いの川合町から始まり、久多川をさかのぼって、下の町、中の町、上の町と続いている。冬の久多峠は雪にとざされていて通れないので、生活圏は完全に滋賀県の領域である。上の町までは生活道路、真冬といえども除雪してあり、難なく着いた。

途中（地名）から長い間滋賀県を通ってきて、京都市に戻ることは、当然分かってはいたものの、何か奇妙な気分に襲われた。

最奥の民家の前の道路にテントを張る。その道の行く手は70～80㌢の雪の壁だった。

次の朝はその雪の上にあがって林道を進んだ。ワカンをつけてもつけなくても大差のないぐらいの歩きづらい雪道だった。大きく育った植林の中の雪道は静かだ。久多川を渡り渓谷沿いの林道に入る。林道が尽きて北から流れている枝沢を渡り、本流を一度渡り返してから、取りつく尾根を決める。顕著な尾根はないので、どこで尾根に取りつくかが思案のしどころ。山の形を読むのが楽しい。

天狗峠・経ケ岳付近略図

いよいよ山登り、ラッセルの開始だ。とは言うものの、京都の低山のむずかしさで、雪は多いが、足を乗せると言ればらばらと崩れ、なかなか上にあがれない。一歩ずつ雪を踏み固めながら、ストックで体重を分散させてそろりそろりと体をあげる。これも雪遊びの楽しさか。ふるさとの山の中にいる安堵感とでも言えばいいのか、とにかく心は安らぐ。徐々に歩きやすくなって、若い杉の植林帯に出た。無雪期だったらつまらない所だろうが、雪がしっかりついているので気にならない。逆に展望はよく開け、背後に経ケ岳やイチゴ谷山などの滋賀県との県境の稜線が見えてくる。途中にとても大きな杉があって、よい目印だった。南から上がってくる尾根に合うと傾斜もよくなってきた。熊にでもなったような気分を味わいながら雪の中を登っていく爽快さは最高だ。美山町との境の稜線へまっすぐに上がらず、南側をトラバースしながら、鞍部で稜線に出た。

周りはすっかり原生林帯となり、杉の多い広葉樹との混合林が続いていた。広葉樹の葉にはすっかり落ちて、曇天であっても明るく、広闊な気分がみなぎる。ジャンクションピークから天狗峠に延びている尾根はきっちり美山町に入っているので、完全に由良川源流域の原生林となった。気持ちもかなり熊に近づいている。頂までのラッセルだった。歩調はすっかりにぶくなっているが、いつまでもこのラッセルが続きますように、と祈りたいような魅惑的な森だった。大きな杉が鬱蒼と林立する黒い森があった。苔むした落葉樹の大木が亭々とそびえ立つ明るい森もあった。誰にも踏まれていない美しい雪の丸い疎林の小山もあった。登って行くというよりも、童話の世界に遊んでいるような、懐かしい森を散策している気分だった。腰まで雪に埋もれながら……。

山頂は広く大きな杉に囲まれていた。その合い間から、三国岳やブナノ木峠、小野村割岳などのこんもりとした森の山々が見えかくれしていた。中学生の頃より名前を知っていた天狗峠。30年ほどを経て立つ頂上の感慨は深かった。南アルプスの峰々に何度となく登ってはいても……。

昨年の冬にまた同じ久多上の町にテントを張った。今度は30㍍ほど手前のまるで駐車場のような広い所にした。上の町へ向かう道中で大きなおまけがあった。間近に鹿と出会ったのである。車のライトに驚いて長い間こっちを見つめていた鹿の瞬。10㍍も離れてはいなかった。左の茂みから出てきたところだった。立派な角を持った大きな雄鹿だった。手元にカメラがあったらよかったのに。数秒後、軽やかに立ち去って行った。美しい後姿だった。

天狗峠登路より経ケ岳を望む

次の日は、昨年の冬に登った折に天狗峠の中腹より眺めた秀麗な三角形の経ケ岳をめざす。今回は時雨さんとふたりの山行。山の嗜好が一致していてありがたい。やはり昨年と同様、林道を東へ行く。滝谷との出合いの手前500㍍ほどの地点に張り出している尾根に取りつく。地形図で登りやすそうな尾根を探し、現地に立ってやはり想像通りだったと思える時というのは、異常なほどの満足感にひたれるものだ。斜面の角度、下山時のルートの注意点、雪の付きぐあいなど、地形図と季節の移ろいを読む過程は、玄人っぽくて興味は尽きない。

天狗峠から眺めて予想した通り、自然が色濃く残っている美しい尾根だった。ブナを主体に、ナラや杉などの大きな樹々が点々と続いていた。北上している尾根が東に回り込むあたりからは、三国岳の黒い森が近間見られた。東向きに頂上までゆるやかに登っている山稜は、樹相の美しさでは第一級に挙げるべき所だった。冬ならではのもの静かな雪の中を、軽やかにラッセルして頂上に立つ。

雪の山頂でつくるあたたかい昼食に一層心がなごんだ。食事をしながらふと目を向けたイチゴ谷山の稜線は、深く冷たい白さで静まり返っていて、こちらもいいよと囁いているようだった。

（天狗峠　平成6年2月20日歩く
経ケ岳　平成7年2月5日歩く）

《コースタイム》
天狗峠　久多上の町（5時間）天狗峠（2時間30分）久多上の町
経ケ岳　久多上の町（3時間30分）経ケ岳（1時間30分）久多上の町
《地形図》2万5千＝久多

ハイキング考

「ハイキング」〝源流は関西から〟

小林　玻璃三

関西版第24号に、上田倖弘さんが「ハイキング考」を載せられている。

『外来語辞典』から『昭和世相流行語辞典』まで、いろいろとよく調べられていて、興味深く拝読しました。

「ハイキング」という言葉が使われ始めたもとは、大正十五年八月二日発行と奥付にある、発行　鐵道省、発行者　日本旅行文化協会　三好善一、の『キャムピングの仕方と其場所』（という本）で、（その本の目次のハイキングの文字のある部分を掲載します）

ハイキング……一四八

Hiking といふ言葉の意味――日帰りのハイク、泊り掛のハイク――ハイキングに適當な人員、日數――ハイカーの負荷量――服裝と携帶品――靴、靴下に關する注意――足を大切にする事――歩き方――掌を發す法

この本が、ハイキングという言葉の源流になっている。

昭和六年九月四日の大阪朝日新聞の記事にあるというのは、使われだしたものとしては早期のもので、一般化したのは昭和七年五月創刊の雑誌「ハイキング」であり、これを創刊した小池利兵衛は、その発行前に「ハイキング」の名称を商標登録したのである。

小池利兵衛は、業界の業界誌を発行していて、業界の名刺がカタカナの多いところから、ハイキングの題名で、歩く旅行雑誌の発行を考えたのであった。

日本旅行文化協会の三好善一は、現在発行されている雑誌「旅」を大正八年に創刊した人で、それが現在の日本交通公社の「旅」につながっていくのである。

三好善一は、「東京アルコウ会」の会員であって、アルコウ会が、現在のハイキングの源流を成しており、アルコウ会の元は、関西にあった、「日本アルコウ会」である。日本アルコウ会は東京にも支部があったが、日本アルコウ会の名称にならって、横浜には、「横浜アルコウ会」が生まれ、東京には、「東京アルコウ会」が出来て、今日のハイキングと同じことを実施したのであった。

この三好善一の創刊した「旅」は、昭和初期のころは、山の記事も取り入れていたので、「ハイキング」を創刊した小池利兵衛は、東京旅行クラブ、関東旅行クラブに属し、山やハイキングの記事を「旅」に時々載せていた。

「山と渓谷」を昭和五年に創刊した川崎吉蔵も、その「旅」に、小さい記事である

が山行の通信などを載せていた。

不景気の時代に、早稲田大学の専門部を卒業した川崎吉蔵は、就職の当がないところから、小池利兵衛のすすめで、「山と渓谷」を発行することになる。

戦前の「山と渓谷」は隔月刊であったが、そんな関係で、戦前の「ハイキング」と「山と渓谷」は交換で雑誌の広告を載せていた。

ハイキングの源流は、関西にあった「日本アルコウ会」で、それが現在の「旅」、「山と渓谷」、「ハイキング」にもつながっていくのである。

前に述べた『キャムピングの仕方と其場所』の初版は、定価の付いていないところから、寄贈本であったようだが、昭和二年には、実業の日本社から装幀を改めて、発行されている。

現在の「新ハイキング」は、戦前の「ハイキング」の執筆人によって、昭和二十五年に創刊されたもので昨年創刊45周年を迎えている。

また東京で一番古い町の山岳会である、東京野歩路会（大正五年創立）の〝野歩路〟の名称も当時、神戸にあった、神戸野歩路会から野歩路の名称を借用したもので、大正初期のころは、関西方面で、ハイキングの気運が盛んであった。

山と高原地図シリーズ

定価 各700円（税込）

1 北アルプス総図
2 白馬岳
3 穂高岳・槍ヶ岳
4 剱・立山
5 上高地・槍・穂高
6 乗鞍高原
7 御嶽山
8 中央・南アルプス総図
9 木曽駒・宝剣岳
10 甲斐駒・北岳
11 塩見・荒川・聖岳
12 妙高・戸隠
13 西黄高原・草津
14 軽井沢・霧積
15 霊上州・妙義
16 美ヶ原・霧ヶ峰
17 八ヶ岳・蓼科
18 富士・富士五湖
19 箱根
20 伊豆
21 丹沢
22 高尾・陣馬
23 大菩薩連嶺
24 奥多摩
25 奥武蔵・秩父
26 奥秩父1 雁坂山・甲武信山
27 奥秩父2 金峰山・甲武信
28 谷川岳 谷川連山・武尊山
29 那須三山 朝日山・茶臼
30 尾瀬
31 日光 男体山・白根
32 那須・塩原
33 越後・苗場・妙高・戸隠
34 飯豊山
35 朝日・月山三山
36 鳥海山
37 蔵王 熊野山・船形山
38 栗駒・早池峰
39 八幡平 岩手山・秋田駒
40 十和田湖 八甲田・奥入瀬
41 二セコ・羊蹄山
42 大雪山・十勝岳
43 日山
44 富山・伊吹・揖斐
45 御在所・鈴ヶ岳
46 比良山系
47 京都北山1
48 京都北山2
49 京都西山
50 北信の山々
51 六甲・摩耶・有馬
52 高原高原・二上山
53 金剛山・岩湯山
54 紀州高原
55 奥高野
56 大峰山脈
57 大台ヶ原・大杉谷・高見山
58 赤目・倶留尊高原
59 氷ノ山 氷ノ山・後山
60 大山・蒜山高原
61 四国剣山
62 石鎚山
63 福岡の山々
64 九重・阿蘇
65 祖母・椎
66 屋久島 宮之浦

※昭文社の「山と高原地図」は年度版として毎年書換発行されます。ご山行の際はなるべく最新版をご使用くださいますようお願いいたします。
※昭文社の「山と高原地図」へのご質問・ご意見がございましたら、本社編集部「山と高原地図」担当までお気軽にお電話ください。また新情報等お教えいただければ幸です。

株式会社 昭文社

本社　東京都千代田区九段北4-2-11　電話03(3262)2141(代)　〒102
支社　大阪市淀川区西中島6-11-23　電話06(303)5721(代)　〒532
営業所　札幌・仙台・横浜・千葉・浦和・立川・名古屋・金沢・京都・広島・福岡

星の伝説とこだわりの山旅

星居山・猪谷山・猪辻山

慶佐次 盛一

備後

山に登る人はいろいろなこだわりを持つ人が多いものだ。たとえば1等三角点や2等三角点の山にこだわる人。百名山や三百名山、都道府県の最高峰にこだわる人、その年のエトに因む山にこだわる人など……、さまざまなこだわりや目的を持って山に登っておられる。

私も多少のこだわりが無いではないが、あまりこだわりが多いと何一つ成就できないので困りものだ。しかし、そのこだわりが山行を続ける原動力にもなっているのだろう。

正月の二日間、仲間たちと備後へこだわりの山旅に出かける。

UFOか？ 星の伝説と星居山

大阪から車で約4時間、中国自動車道東城インターを出る。最初の目的は星居山だ。星居山はこの辺りの最高峰、しかも1等三角点ということもあって私のこだわりを充分満たしてくれそうだし、星にまつわる伝説もある。

大化元年（645）元日の夕方、今の巨原や比婆地方の山麓で、山麓の七三四万が明るくなるような光が空から降って来たそうだ。

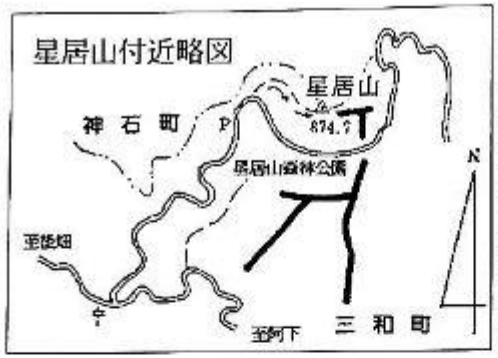
これを知った孝徳天皇が調べたところ、阿地名山（今の星居山）で起きた出来事だと分かったそうだ。役行者が訪れた時も再び光が降り、「自分は彩れの明星だ。日本を悪人から護るため、宵の明星、明けの明星とともに降りてきた」と言って、行者に玉を一つ与えて空へ昇った。

孝徳天皇が現地に行幸された時にも、三明星が光となって代わる代わる降って来たそうで「三つの星人を忌に空はるる、光を受けて生き立つ国々」と、和歌を残されたそうだ。

この古い伝説が、今ではUFOに乗ってきた宇宙人の話ではないかともいわれ、この辺りではUFOの目撃者も多いそうだ。そう言えば、庄原市のキャンプ場には竪穴式住居とともにUFOの形の休憩小屋があった。

星居山山頂

謎めいた古代の伝説に浸りつつ、国道184号線を球磨川沿いに南下する。安田で右折して、車一台がやっとという車道を阿下へ向かう。この辺りに日本ピラミッド探査地があるという。日本ピラミッドについては「新ハイキング」関西版一第20号（95年1・2月）の大黒日山と登録山で書いたが、本誌でお馴染みの坂井久光さんからあの辺りは古代の産鉄地だったとお便りを頂いた。そう、これから行く星居山付近も昔の産鉄地と思われ、こうした所には摩訶不思議な伝説がよく残っているものだ。星の信仰もそうで、大阪北摂の妙見山は北斗七星（妙見菩薩）を神格化した妙見菩薩を祀り、産鉄の豪族多田源氏の信仰が篤かった。さてこの星の伝説はどうだろうか、因みに明星とは金星のこと。字から考えれば金と関わりがありそうだが、伝説の謎解きは簡単にはいかない。



阿下に着く。星居山東部へとがる車道があったが状態が悪く、少し先の星居山西部の峠越えの車道へ向かう。峠越えの車道分岐には星居山森林公園の案内板があり、右折して広い車道をぐんぐん上がる。途中にも案内板があり、ほぼ稜線上を走って星居山森林公園に着く。

もう目の前が星居山で、ここまで来れば標高をほぼとんどない。伝説の山にしては頂上に包まれて、なんの変哲もない山だ。立派な駐車場に管理棟、キャンプ場などがあり、まさに公園である。登山者は管理棟で210円のワッペンを買い求めてから登って下さいとあったが、管理棟は正月休みでフリーパスだ。フィールドアスレチックの施設があり、星居山へはその入り口から登る。右下に星の池が見える。三明星はその池へ降りたそうだが、陥石が落ちた跡かもしれない。昔は陥石から鉄が得られた。隕鉄の遺跡が現れ、感慨を覚えていた。

登るまでもなく、すぐ頂上に着く。丸太作りの大きな展望台があり、その先に1等三角点がある。軽くタッチ、北向きの三角点だ。大きな宝篋印塔も立っている。寛弘三年（1006）の建立だから、かなり古いものだ。

地元でも人気のある山のようでハイカーの姿も見られ、展望台にも人影がある。私たちも早速展望台に登り展望を楽しむことにする。展望台の上からは、山また山のすばらしい展望が広がっていた。説明板には瀬戸内海も見えるとあったが遠方まで視界が届かず、北に白い雪を頂いて霞んでいるのは道後山だろうか……。近くにはすでに登った山もけっこうあるのだが、際立つピークではないので固定できなかった。

小さなエトの山　猪谷山

山頂の東屋風の休憩所で食事をとる。今日の泊まりは吾妻峡紅葉橋近くの旅館。星居山だけでは物足りないと、付近の地図を見ていると旅館のすぐ近くに猪谷山を見つけた。

今年のエトの山だし、また私のエトの山でもあるからこれをひと登りしてから旅館に向かうことにする。

いったん西の峠まで戻り、峠を越して神石町の後畑へ下る。広い県道で戸、上町、殿賀、下郷を経て帝釈峡へ向かう。東城から星居山へ向かうには、国道を南下するよりもこの県道を走ったほうが早かったようだ。

帝釈峡はカルスト台地が帝釈川の浸食によってできた峡谷で、景勝の地。渓谷沿いに中国自然歩道が通じ、近くには鍾乳洞も見られる。神竜橋の紅葉橋を渡り、鄰谷から広い車道を離れて左折する。曲がりくねった狭い舗装道を登りつめると、農家の所で地道となり車を止める。

どうも様子がおかしい。猪谷山のすぐ東側の林道に入ったつもりが、もう一つ東側の林道に入ってしまったようだ。地形図には三軒の家が記されているが今は二軒だけとか、ここも過疎化が進んでいる。

道を間違えたといっても猪谷山はすぐ近くだ。農家に駐車をお願いして、猪谷山の支尾根を西へ向かう。地形図に道は無くても、こうした里山には踏み跡程度の道は必ずついている。竹林、雑木林を過ごし、最初予定していた猪谷山東の林道に出る。林道といっても廃道同然の道で、道を間違えたのが怪我の功名だった。

林道からさらに支尾根をつめて猪谷山の林道に出る。この林道も草が生え放題の廃道だ。これを少し南下した右側の小さな高みが猪谷山だった。

4等三角点が埋まるだけの雑木に包まれた静かな山、こんな山に誰が訪れようか、まさにこだわりを持つ者だけが訪れる山であろう。これだけで私はもう満足、車に戻り今夜の宿へ向かった。

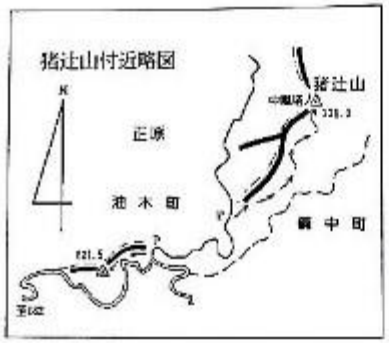
2等三角点のエトの山　猪辻山

帝釈峡の宿から東城に出て、昨日走った国道183号線を再び南下する。今日も昨日の猪谷山に続き、エトの山の猪辻山を目指す。信濃と備中の国境の山でもある。手入で左に直角に折れ、老朽化激しい橋を渡り、ジグザグを繰り返しながら一気に300mばかり高度を上げる。

いったん高度を上げると、あとはなだらかな地形に変わる。こちらは成羽川が浸食した河岸段丘だ。のどかな盆地に鄰殿、中鄰、今井の小さな村落が続く。昨日は晴れだったが、今日はどんよりとした曇り空でひと雨来そうな気配だった。

曲がりくねった林道の先にアンテナの立つ山が見える。あれが猪辻山らしい。林道に振り回されて島が狂い、登山口を少し通り過ごしてバック、登山口に車を置く。数台の駐車が可能なスペースがある。登山口に道標石仏が立ち、背は道学説だったようだ。赤い矢印の標識と赤さびた標識があり、赤さびた標識に猪辻山へと書いて出発する。

小型の四輪駆動車なら走れそうな道が続く。松を主とした雑木林の下にはシュンランの葉も見られ、ドングリがいっぱい落ちている。道は谷中側の山腹を巻きながら、次第に高度を上げて山頂に着いた。アンテナは電力会社の無線中継塔だった。その金網の横に2等三角点が埋まっていた。こだわりを持つ者が時々訪れるようで、金網に落書きがあり三角点にはマジックの跡がある。



る。展望には恵まれないものの、この日は、仲間に猪の付く姓の女性がおり、偶然にも今日が彼女の誕生日でもあった。今年のエト、また私のエトの山でもあるし、めでたしめでたしと乾杯して車に戻った。

まだ時間があるし、近くの621・5m の三角点をハントしようと仲間の一人が言う。彼によると、昨日は4等、2等、4等三角点の山を訪ねたのだから、621・5mの三角点が3等だったらサイクル登山になるというのだ。これも彼のこだわりであろう。うまくいくかどうか、帰り道の稜線に一番近い林道に車を置いて稜線に出る。

ここにも道標石仏があり、林道が開通するまでは稜線に道があったらしい。地形図に破線が描かれているが、その通り自然に還りつつあり、ヤブの中に三角点を見つける。残念ながら4等三角点で、彼のサイクル登山は歩と消えてしまった。車に戻ると、もうお遊びはお止しなさいとばかりに雨が降りだし、大阪へと車を走らせた。

（平成7年1月2日～3日歩く）

星居山・猪谷山

☆コースタイム♡

東城インター（車50分）星居山森林公園駐車場（15分）星居山（10分）星居山森林公園駐車場（車40分）鄰谷の駐車地点（25分）猪谷山（20分）鄰谷の駐車地点

〈地形図〉2万5千＝三原・帝釈峡

猪辻山

☆コースタイム♡

紅葉橋（車1時間）猪辻山登山口（20分）猪辻山（15分）登山口（車5分）駐車地点（20分）4等三角点（621・5m）（15分）駐車地点（25分）東城インター

〈地形図〉2万5千＝東城・油木

Lowe alpine　mont-bell CAMP　Granica
CAMP・HIKE・CLIMB
TOMY WALK
冬物大量入荷！
あったかーい肌着・フリース・上着をそろえ、貴方の冬山をサポートします
営業時間　12:00～20:00
定休日　月・火曜
吹田市内本町1-23-7
TEL 06-319-0597
阪急吹田駅　至梅田　至千里中央　アサヒビール　JR吹田駅　消防署　TOMY WALK　レストラン神戸屋　月見橋

京都北山

バード・ウォッチングをかねて

早春の沢池と西山池めぐり

遊津米男

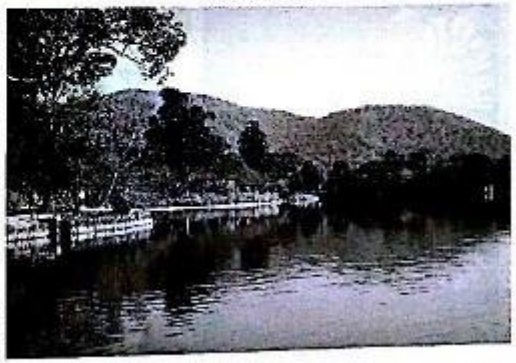
小雨模様ではあるが、「今日は午後から晴れる」との天気予報を信じて、8時過ぎ京福電鉄終点「嵐山駅」へと家を出る。9時10分「嵐山駅前」より市バスで「大覚寺」へ直行する。

雨は一向に止まず、煙るような小雨が降りつづくが、予定通り9時35分全員はりきって出発する。相変わらず嵯峨野は若いギャルで活況を呈している。まさにマスコミ女性雑誌の凝りはすごい。

私たちは傘をさして大覚寺・山門前を通り過ぎ、最初の池「大沢の池」へ到着。アラ！！　大変。池の水は抜かれている。空っぽの大沢の池を初めて見る。屋形船も陸上げされている。そこここに王朝の香りの漂う情緒ある大沢の池の風情は、全く見る影もない。この池は、仙洞嵯峨院の旧苑池でわが国最古の庭園の一つ、花の名所・観月の場としてよく知られたところである。

Oさんは、今日のハイキングは「バード・ウォッチング」、好きな鳥の観察が楽しめると双眼鏡を持参されたが、この空池を見てガッカリ。

「大沢の池」を後にして、北へと歩行する。雨に煙る嵯峨野は、閑静な風情があり、たまにはこのような田道ハイキングもよいと思う。恋に破れた乙女が集まるという竹藪に囲まれた草庵風の尼寺に着く。天保年間（1830～1843）黄檗宗の隠元禅師の高弟独照が結庵した奥嵯峨野の「直指庵」は、早朝にもかかわらず多数の若い女性が来ている。女性の悩みが綴られたノート「想い出帳」は有名である。その直指庵を左に見過ごして谷をつめ、山越えに取りつく。


大沢の池

オーバーズボンを履く程のこともなく傘をさして、ゆっくり・のんびりと高度を稼ぐ。四、五日続いた長雨で地盤は少々不安定な箇所もあり、一歩一歩踏みしめながら

登る。汗がじわじわと出てくる頃、祠のある峠に近で、ジャンパーを脱いで、ひと息つき、またがんばる。そのうちに前方が開けて、小雨に煙る静寂の池「苔瀬谷池」に到着。井筒の稲を刈り終に渡る。

念願のバード・ウォッチングにふさわしく白鳥・鴨・アヒルなどをあちこちに見かける、グループをつくっているが、おそらく親子・家族ぐるみの憩れだろう。池の岸でしばらく小休止。「みたらし団子」で花見ならぬ、鳥たちの生態観察を楽しむ。

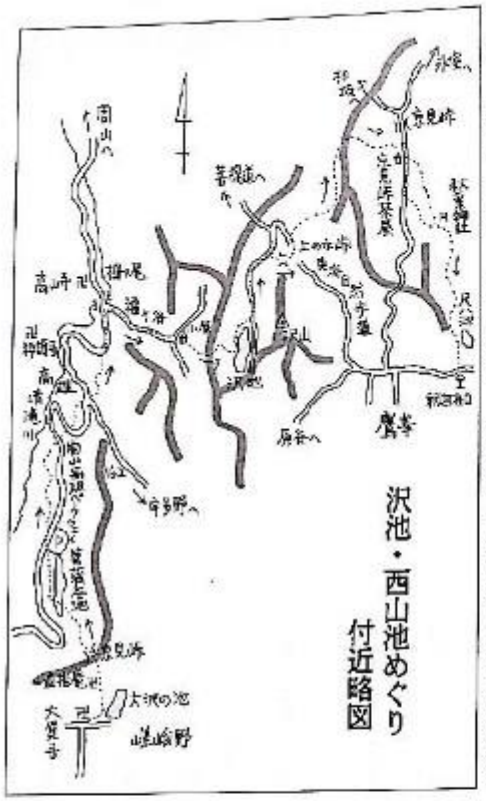
苔瀬谷池を出発。苔瀬谷池の畔にある三船神社は宇賀天が祀ってあるそうだ。ドライブウェイを横断して、ドライブウェイ沿いのハイキング道を、高雄へと進む。道沿いの小川は、普段なら涸れているが長雨で増水し、溢れんばかりの勢いで流れている。

遊歩道はドライブウェイを離れて谷沿いの尾根を上下を繰り返しながら雑木林の中に続き、しっかり整備されて楽しいハイキングコースになっている。途中小雨煙る樹木越しに清滝川から昇るガスがかかった幽玄の世界、水墨画の趣で、高雄神護寺の伽藍が見える。めったに見られない風景に感動を覚える。

遊歩道はドライブウェイのトンネルを潜り高雄の庭園に飛び出す。ここより旧道を経て、栂ノ尾に出る。旧道の経坂峠には往時を偲ばせる立派なお地蔵さんが祀ってある。栂ノ尾より舗装された長い福ケ谷をつめる。西側の北山杉は丁寧に下枝が打たれて立派に成長している。なかなか見ごたえのある杉の植林帯である。この辺りの北山杉はすべて床柱として全国津々浦々に出荷される銘木ばかりである。

また、この辺りは天気のよい時でも「北山しぐれ」に遭遇する場所である。時雨は晩秋から初冬のにわか雨。京都地方は時雨の名所でもあることから、この季節、京都を観光するには、軽い雨具を用意したい。京都人には「弁当忘れても傘忘れるな」の合言葉がある。俳人・高浜虚子は、京都の時雨を愛し、時雨についてこう記している。

「東京の時雨は暗く、京の時雨は明るい。



荒滝谷池

東京の時雨はものさびしいが、京の時雨は、はなやかだ。

福ケ谷をつめた所に飯場小屋があり、15人ぐらいは楽に入れる。ちょうど昼時、この小屋で昼食とする。小屋内に薪もあり、早速焚き火をし濡れて冷えた身体を温める。そのうえ女性陣が慣れた手つきで、熱い味噌汁を作ってくれ、楽しい団欒のひとときを過ごすことができた。

京見峠茶屋

してくれる。

林道を横切り支尾根の稜線にうまくのり、絨毯道を歩行して府道に飛び出し「京見峠」に到着した。いつの間にか雪は止み、青空も覗くようになる。赤ちょうちんの「京見峠茶屋」で早速に休憩。「みたらし団子」を頬ぼり、親切な茶店のおばさんから熱いお茶の接待を受けて暖をとる。茶屋の中は素朴な民芸調造りで、昔のかまどもそのまま、ソフトな雰囲気に仕上げられてある。

ここで会った女性ハイカー数人が、「私達も京都市北区から来て、京見峠から沢山・沢池へと回りたかったが、道が不明瞭なので不安が先にきでとても行けそうにない」とのこと、「このコースは何の道標もない。ただ林道から山道に入るところに、小さな木丸がぶらさがっているだけ」とアドバイスして彼女たちと別れる。

次の「尺八池」へ目指す。林業脇の小川も増水でとうとうと流れている。やがて西加茂ゴルフ場脇を通過、今日は雨とあってゴルファーはいず閑散としている。秋葉神社（鎮守神様）を左に見過ごし、最後の尺八池の前に出る。

これで西山四つの池めぐりは、滞りなく全て回ったことになる。バード・ウォッチングも楽しむことができた。

山を借景にしたり、池を借景にしたり、時には滝のある大庭園を配した洛北の高級住宅街を通過して、16時前に全員無事「釈迦谷口」バス停に到着した。距離は当初予想していた以上に長く、約15㌔は歩行したようだった。（平成元年2月28日歩く）

△参考タイム▽

大覚寺バス停9・30—大沢の池9・35—直指庵9・40—山越えの峠（鞍）10・00—高雄池10・20～40—高雄11・00—柳ノ尾11・10—飯場小屋11・40（昼食）12・50—沢池13・10—上の水峠13・40—東海自然歩道三叉路の北支尾根取付点13・50—京見峠茶屋14・30—15・00—秋葉神社前16・30—尺八池16・40—釈迦谷口バス停16・50（歩行約5時間30分）

△地形図▽2万5千＝京都西北部

昭文社＝「42京都北山1」

登山に必要なものは、
国産・舶来
すべて揃っています。
足にピッタリ！
登山靴のことならお任せ下さい。
（定休・火曜日）
〒604 京都市中京区丸太町通堀川東入
☎〈075〉211-5768
FAX〈075〉231-0318
山とスキーの専門店
京都 ムラカミ

外は、小雨から雪に変わり、時には太陽も出るめまぐるしい天気、一時間余の団欒の後、身体も温まりお腹も満腹、重い腰を上げて出発。

次の「沢池」へ向けて急登に挑戦、食後の急登は距離がなくてもつらい。尾根筋に出てはるか京都方面を見るが、市内も雨模様とあってはっきりと見えない。尾根筋の雑木もブッシュも全てベタベタ・ボトボトの状態である。このまま沢山へ登れば全身ずぶ濡れになり、風邪も引きかねないので、沢山は見送り沢池を迂回することにする。

沢池畔の笹ブッシュも、ベタベタ・ボトボトのありさま、露払いの私の足元がすっかり濡れる。何ごとも経験とよいほうに解釈して池の畔を進む。半周くらい来た時、粉雪が天空に舞い、七、八㍍の強風とあいまって私たちの肌を激烈に刺す。寒冷前線の通過で気温も一挙に7～8度下がるといったアクシデントに見舞われる。

沢山は吹雪の中に霞んで見える。強風と粉雪の舞う沢山林道を北へ向けて歩行する。途中、Oさんが「メジロ」が雑木林の梢にとまっているのを発見する。さすがバードウォッチャーである。

Oさんの解説によると、メジロは渡り鳥でなく四季を通じて生息しているとの話、また「ウグイス」と間違いやすいが、ウグイスの羽は「土」色と、区別のしかたを詳しく教えてくれる。そのうちにメジロは私たちを避けてどこかへ飛んでいったようだ。

沢山林道から旧道に入り、上の水峠へと向かう。往年の北山の道はしっかりと残り、少々で上の水峠に到着。この峠は沢山への北からの登山口でもある。

峠を下ると東海自然歩道の三叉路に出る。私たちは、北にふり少々行った地点で、右の支尾根の稜線に取りつく細い山道に入る。今日の一番大事な転向点である。雑木林に囲まれた山道に踏み込む。緩い登り道である。道標は一切なく勘を頼りの山道となる。少し行くと、雑木林の間から京都市内が見渡せる。この山道は一般のハイカーは人らないと見えて、塵一つ落ちていず、落ち葉の積もる絨毯道。こんな道はいくら歩行しても疲れを知らない素敵な山道だ。ゆっくり・のんびりと楽しんで進む。途中、閑静な雑木林の中で小休止する。相変わらず粉雪の舞う天候である。またこれもオツなものである。北山に低く雲がかかり、粉雪が天空に舞い上がるといった別世界を演出

関西・山越の古道を歩く

寺山　英男

② 生駒越・日下越

中庄谷昌著『関西山越の古道』（ナカニシヤ出版）の日下越に挑戦する。不動滝辺りがササヤブで、お手上げ。我等中高年には無理は禁物。山野を楽しめばいいので、コースを少し変更する。

9月3日、朝方小雨が降る。集合時刻になってもパラパラしている。

15名で出発。9時32分近鉄難波駅より奈良行き急行に乗車。生駒駅で1名を加えて、総勢16名。

生駒駅前10時、日下越に向かう。駅前再開発の工事現場を通り抜けて白百合幼稚園から曲がりくねった細い道を登る。生駒荘園を過ぎると坂道になる。右手に阪奈道路が見え、登りきると中学校と幼稚園があった。雨と曇りのためか、休憩するとすぐに汗が引き、涼しく感じる。

雑木林の登り道を30分余りで生駒山麓公園に着く。手入れの行き届いた公園で芝生の緑が美しい。公園の一角には、歩くと音のする道があると聞いた。

ガイドブックに従って公園横の林道に入る。石宮神社前で合流。

雑草の茂る小道を進むと、信貴・生駒スカイラインに出る。車道を越えて車道沿いに少し歩くと常夜灯があった。峠である。生駒山麓走路と交叉している。草の茂る真ん中の道を進む。続いて右の道を行く。左にも道があり日下越から知れない。下見の時、少し歩いたが不安で引き返した。

雑木林の入り口に「日下直越え」の標識があった。右手にゴルフ場が見えた。見晴らしのよい場所で昼食。セミの声が弱々しく聞こえている。

少し霧がかかって薄暗い道は、樹海の中を行くようでロマンチックになる。なだらかな下り道では、参加者はお喋りに忙しい。

道の所々にゴルフボールが落ちている。草をわけ、木々の下を潜って、1時間ばかり歩くと滝の口に出た。龍の口から清水が吹き出している。春日神社はこの清水で御神酒を作る。いつの間にか晴れあがり、暑くなってきたので喉を潤し、水筒や容器にも詰める。甘い味の清水である。

30分ばかり下ると、ドライブウェイに出る。越えたところに八幡山地蔵尊がある。悪名高い道鏡の無道を止そうとした和気清麻呂公が、手足の筋を切られ大隅国に流されて行くおり、この地で殺害されそうになり、お経を唱えて助かった場所という。古道の面影を見る。5分ばかりで、またドライブウェイを越える。

13時30分、善福寺春日神社に着く。ここは、日本最初の春日神社と言う。そして、滝の口の清水で「御神酒」をつくり、祭りの日に村人一同に振舞われると聞く。古くからの伝統行事である。境内の隅に「神武天皇孔舎衛坂古戦場跡」の石碑がある。裏側はドライブウェイになっている。右隅に直越稲荷があり、その側に「直越道」と刻まれた小さな石碑がある。

階段を降りると石の鳥居があり、傍の石碑に史跡「孔舎衛直越登り口」と刻まれていた。「日下越」を一応歩いたことになる。

ここまで来たので、大坂城築城残り石をみて、聖徳太子の創建と伝えられる古いお寺「大龍寺」に寄り、休憩する。汗をかきながら、石切駅への登り坂を進む。14時30分発の電車で難波へ。

③ 辻子谷越

10月22日、9時32分近鉄難波駅発に乗車。9時52分石切駅到着。途中からの合流者を加えて総勢16名。

石切神社に参拝する人達と反対方向に向かう。坂道である。弘法大師が爪で刻んだといわれる爪切地蔵の前に出る。

夏のように暑い日で、少し歩いただけなのにもう汗が出てくる。お地蔵様に今日の山行のご加護を祈り、急坂を登る。コンクリートの道は、生活道路だとわかっていても、我々登山者にはあじけない。

石切上宮で手を合わせる。坂道には石仏がいいお顔をして並んでいる。今年の無事を感謝して、賽銭箱に入れる10円玉をかなり用意してきたが、すぐに無くなる。

子育地蔵の前を通り、橋の上で休憩する。以前はここから上は墓地であったが、舗装されていた。急坂を一気に登る。数分歩くと地肌が出てきて、乱れてはいるが石畳。その石に赤ペンキで何や印がある。舗装する際のものらしい。谷沿いには墓参者のための墓制が多い。日本の中でも宗教団体の数が多い自治体は大阪府である。ここのように建物ごとに、法人化されているからであろう。

林の中の整った石段になる。もう少し、もう少し、と声をかけあって登ると興法寺に着いた。境内で一息入れる。汗がすぐにひき、涼しくなる。

寺をあとにして再び進む。しっかりとした石畳が始まり、頭上を木々が覆う。ほの暗くて百近であることが感じられる。

スカイラインの下で昼食をとり、経塚に寄る。石仏がまたいい。町石があり、下ってみたが道はなかった。遊園地の側を通り、多くの人が行き交う道をケーブル沿いに宝山寺に下る。32丁の町石があり、炎を飛ばうも古道らしきものは見えない。

宝山寺で1時間の自由時間をとり参拝する。山門から後ろの山の中腹にある仏像に行こうとしたがだめだった。

長い石段を下る。嫌になるほど下る。参道には旅館があり、30年前は、色街で賑っていたという。

15時前に生駒駅に着いた。淡々しい一日であった。

① 「横示越」は、前25号（95年11・12月号）の"せせらぎ"に載せています。今回よりシリーズで連載します。

特選コースガイド「おうとう越」（25号所収）の訂正と追加

〈訂正〉

68頁下段25行　天保十四年→天保十五年

69頁上段略図　歴史民俗資料館→歴史民俗資料館

69頁下段19行　一八八六年→一八八七年

70頁下段12行　天保十四年（一八四三）→天保十五年（一八四四）

〈追加〉

「言越」と記したもの

・一六四四年「正保国絵図　河内国」（内閣文庫所蔵、江戸中期の写し）

・一六七二年、三田浄久書写「河内国絵図」（三田日本民俗館、伝藤井甚三郎作）

「大坂越」と記したもの

・明治初め頃書写「河内国絵図」（京都府立総合資料館所蔵図絵図395）

（柴田　昭彦）

野の花讃歌（13）

市川　正次朗

きらきら樹氷輝き

私たち野山の花ファンにとって、冬は少しさびしい季節です。かといって出かけないかというとそうでもなく、冬枯れのまた少し雪景色の山へそれなりの情緒を訪ねて月一、二回のペースで歩いています。

私、生まれ育ちは大阪です。仲間もなぜか雪のない地方の出身者が多く、雪にはある種の憧憬みたいなものがあって、昔から冬の旅は〝北志向〟。越前海岸から能登半島、金沢や高山へ出かけ雪景色を楽しんできました。

特にお気に入りは合掌集落の残る白川郷。夏場は観光バスが列をなし騒々しい山里も、冬はしっとりと様変わり。夕暮れ時、さくさく雪の感触を楽しみながら集落から小高い丘へ登ります。ここから見下ろした合掌集落は、観光ポスターなどの定番ともいえるビューポイントですが、合掌造りの家々から洩れるほのかな灯りの温かさ、それが一面の雪景色の中にあって何ともいえない心の安らぎを覚えるのです。

加えて合掌造りの民宿もいい。飛騨名物の林檎焼きなど気どらない料理、それにびったり合う辛口の地酒、宿賃も昨今の民宿の平均以下というのもうれしい。夜、外はしんしんと雪が降っているというのに、建物の中はいろりひとつで暖かいのが不思議。これも昔の人の生活の知恵でしょうか。

さて、私たち仲間が山の楽しさを再発見し、里山から徐々に高い山へ登りだしたのは、まだ六年位前。当然ビギナーばかりだから、冬はおっかなびっくり。本格的な冬山などとてもかなうわけはなく、しかし雪には出会いたい、できれば樹氷がいいというわけで、これまで何度か近郊の山へアタックしました。

高見山の樹氷
ピーカンの空に、まるで桜のような……

一度は鈴鹿の竜ケ岳から御在所をめざしたのですが、登るほどに針で指すような寒さと強風に途中でリタイア。ある時は、新ハイ誌で紹介の明神平から三峰山を計画したものの前日の豪雪で〝樹氷バス〟が運休。近くの温泉につかって引きあげたことも。

昨年、三度挑戦を、と台高北端の高見山へ。前夜はふもとに新しくできたペンションに一泊。翌朝、りんと澄み渡った快晴のもと意気揚々と出発。登山口から少し登り林道に出くわした峠道、昔は大和と伊勢の商人による市が立ったという古市をあとに、古い鳥居をくぐるとかなりの急登。尾根にとりつくあたりから雪も増え、ブナ林の見事な樹氷が一面に、まるで満開の桜の花のように、また伊勢方面から吹きつける強風に〝エビの尾っぽ〟をまとった樹々たちが、ピーカンの青空の下で見事でした。

頂上では高角神社の祠のかげに強風を避けてオニギリタイム。いつぞや見られなかった明神平から朔岳・三峰山などのいずれも雪化粧した山並みを思う存分満喫しました。

この冬は雪の北山、城丹、若狭尾根へ二、三回、鈴鹿と美濃あたりへ一、二回出かけようかと話し合っています。その日が天候に恵まれればいいのですが……。

京都北山　やぶ漕ぎ痛快山行記（24）

洛北の里山、耐寒登山

焼杉山　バリエーションコース

京都北山グループ

国道367号線敦賀街道（鯖街道）を大原に向かい、花尻橋を渡ると大原盆地が広がる。正面に大きく見える独立峰が焼杉山の雄姿。

この山は京都・大阪の山友には親しまれている山であるが、一般には昭文社「47京都北山1」のガイド地図の赤線コース、古知谷コースや天ケ岳・聚霊尾根コースでしか歩かれていないので、やぶ漕ぎ痛快のバリエーションコースとして耐寒訓練を兼ねた例会にする。木々の葉っぱも飛び散り、梢間から相当先まで見通せるこの時期が、地図読みの初歩にはよい季節だ。

今日の例会は標高230㍍の西谷から南尾根に取りつき、焼杉山三角点717・6㍍に達し、東面に大きく延びる草生尾根を下山、大原バス停標高220㍍へのコースをとると説明する。

天候は西高東低の完全なる冬型で、晴天の耐寒登山日和だ。

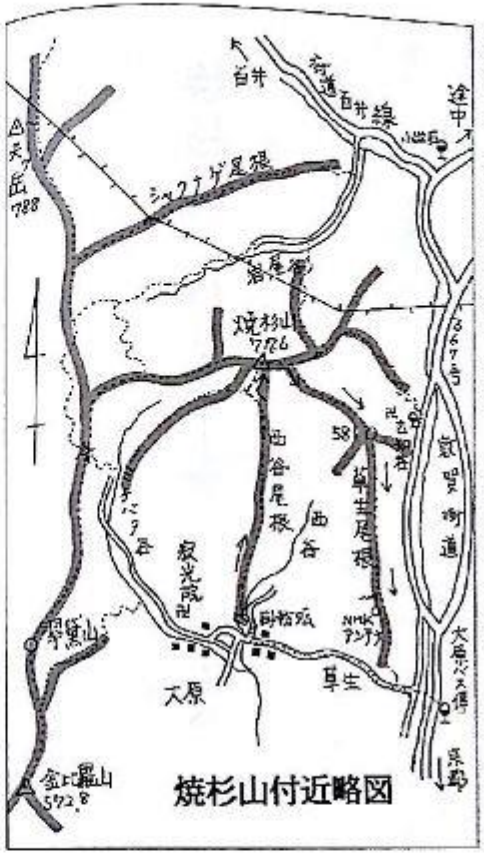
大原バス停で降り耐寒装備を十分にして、寂光院への草生集落の舗装路を進む。下山予定の草生尾根の取りつき口を右に見送り草生川橋を渡り、民宿の前の橋を渡り西谷の右岸沿いの林道を北進する。直進すれば寂光院前を通って天ケ岳への一般の赤線コース。

一番奥の民家を過ぎると、昨年完成の砂防堰堤の壁が眼前に広がる。堰堤の下の地道林道は左岸へと延びて緩い登りとなる。

西谷右尾根への取りつき口は、堰堤工事で旧林道が埋まれた駐車広場の左支尾根の先端。旧林道は西谷奥へと延びているが、裏北対岸に山仕事の細い踏み跡が見える。沢を渡りこの仕事道をとるとすぐ、伐採直後の増殖林支尾根へと導いてくれる。

急斜面の登りの右側は雑木林、左側は伐

西谷林道から焼杉山を望む



伐採後で明るい支尾根仕事道。伐採斜面の上部稜線からは松・檜の混じる雑木林に入るので、この明るい斜面でひと休みする。眼下には大原の集落が箱庭のように見え、その向こうには横川山・水井山から比叡・瓶尻山・金比羅山、翠黛山と馴染みの山々が歓迎してくれる。

支尾根から稜線に出ると平坦な雑木林の中の仕事道。落ち葉が積もり道は判然としないが、稜線を外すことなく緩い登りで北進する。テープの目印等は無いが、左右の谷に降りないよう進む。1時間半程の歩行でコンター600㍍位の所、落葉樹小ピークの下に着く。仕事道は左の谷のトラバース道となるが、真っすぐにやぶ漕ぎで尾根にのると後藤尾根道が現れる。どちらをとっても焼杉山三角点南直下に登り着くが、今日はトラバース道を西へと進む。杉植林30年生の中の仕事道は、ハイカーにも出会わない静かな里山雰囲気のバリエーションコースだ。やがてミテバタ谷からのガイド地図黒破線コースと合う。ここから勾配も急になり、潅木をかきわけてワンピッチで頂上に飛び出す。

西谷支尾根取りつき口から休憩を入れても2時間程で頂上に達する。ここで今日初めて古知谷側から登って来たハイカーと出会う。藪の中から飛び出して来た我々を怪訝そうに眺めていた。

焼杉山頂上の眺めは北側180度の展開。右端、比良の霊仙山・権現山から北山の皆子山・天ケ森・滝谷山、さらに花背峠から天狗杉の山並みの圧巻は、冬の空気の澄んだこの時期が最高だ。

長い昼食を終えて、下山のコース草生尾根へと出発。しばらくは古知谷への道を下ると、コンター650㍍付近右側潅木にテープ。ここが取りつき口、うっかりすると見落とすので要注意箇所。トラバース道ですぐに左稜線の踏み跡に導かれるので迷う心配はない。P581㍍へと東南に延びる尾根道を下る。

P581㍍から稜線踏み跡は真南に変わり、樹間から雲母山の送電線や大原ゴルフ場のグリーンがチラホラ見える。草生尾根もP581㍍付近からは檜・松・ミズナラの雑木林になり、落ち葉がフカフカの絨毯道で足がひとりでに前に進む。めったにハイカーに会わない静かな穴場コースだ。

右側にNHKの電波塔が立つ支尾根の頭に出る。ここも南側に大原の里が一望の、小休止場所。ここからは松林の中の薄状の下り道となり、京の音が聞こえだすと草生集落の舗装路に下り着く。バス停まで5分の地点。大原バス停からは京阪三条行き・JR京都駅行きバスが頻繁にある。里山歩きを充分に楽しんで、今日の例会を終える。

この他にも岩尾谷（御土谷）からの黒破線路もガイド地図に記されているし、焼杉頂上から古知谷コース寄りに北に延びる支尾根に関電送電塔巡視路があり、岩尾谷へと短時間に降りられる。このコースは、5月の石楠花の頃におすすめしたい小出白集落までの静かなコースでもある。

（平成7年1月26日歩く）

《コースタイム》

大原バス停（30分）西谷尾根取りつき口（2時間）焼杉山（2時間）草生（5分）大原バス停（休憩含む）

《地形図》2万5千＝大原

昭文社＝「47京都北山1」

（記録　出口　憲次）

リュックザック製造販売
新雪・樹氷
雪山に誘われて
応援します。
あなたの山登り
○応援ザックに欲しかったら――
○登山用具の御相談は――
神戸ザック
オリジナルのパンフレット御希望の方は
（200円同封して下記まで。
（値下げしました）
神戸市長田区大橋町9丁目3－1
〒653　TEL（078）621－5851
FAX（078）621－3528

（この花・この草）

ナズナ（Capsella bursa-pastoris）

アブラナ科

連日の雑煮やお屠蘇で正月後の胃腸はお疲れです。そんな時はあっさりと七草粥を。近頃では七種を入手するのもデパートで、というのが一般的になってきたものの、ナズナ（別名ペンペン草とも）は道端や野原、果ては屋根の上でさえ力強く生存し続けています。

春、白色の小さな十字形の花を茎頂に多数つけ、果実は三味線のバチ状で、中には細かい種子が多く入っています。

生薬名は薺菜。和名の奈津菜は、薺菜、撫菜、または菜が地面に平たくなすむためとか、諸説があります。生薬としては3～7月頃、全草を収穫し天日乾燥します。多数の有機酸・アミノ酸・無機塩・フラボンなどを含みます。9～15g を煎じた液で目の充血や痛みには洗眼するとよく、細菌性下痢・浮腫・急性子宮出血にはこれを内服します。

ナズナは江戸時代から庶民の冬の蔬菜として親しまれてきましたが、春先の根茎葉を摘んで塩ゆでにした後、1～2時間水にさらし、辛子や酢味噌和え、油いため等にしてもよいものです。㊙

エリア別徹底研究

近江側から登る鈴鹿の山々

―鈴鹿の思い出・おもしろ話―（6）

岩野　明

㉑ 吹雪の霊仙山

平成二年、落合まで車で入り、汗ふき峠から霊仙山に登った。登りきった雪原で山スキーを楽しむ四人のパーティに出会ったが、その先は踏み跡のない広大な雪原をひとりで経塚山に向かって登った。次第に風が強くなり、経塚山の山頂は冷たい強風が吹きつけていた。急いで避難小屋に下る。

小屋の扉に手をかけたが、凍てついてしまったのかビクともしない。全身を使って何回も開けようと試みるがだめだ。強風の中、小屋の前でしばらく待ったが誰も来る気配はない。これでは寒くなるばかりだとあきらめて急いで引き返すことにした。

先ほど会った山スキーの四人パーティがちょうど尾根の風下で昼食をとっていた。私も仲間入りし、その横で昼食にした。そして熱燗をすすめられた。ありがたくいただくと生き返った心地になった。

食後、霊仙山に登る。谷をつめ右折して雪の斜面を山頂に向かった。北風をまともに受ける斜面は粉雪を吹き上げていた。稜線から山頂までは地吹雪が続いたが、南側に少し下ると風はピタリと止んでいた。目の前に西南尾根の白い稜線が延びているのが見える。雪はしっかり締まっている。地吹雪に向かって引き返すより西南尾根を下るほうがよい。

冬の西南尾根は初めてだ。真下の広い谷に一気に下ると、風のない穏やかな雪原が続いていた。南霊岳に向かって斜めに登って尾根にのり、雪庇の張り出した稜線を南霊岳、近江展望台と快適にたどり今畑に下り着いた。この時の西南尾根が忘れられず毎年登っている。

平成七年も落合から同じルートを登った。登りきった雪原の右の谷に14～15名のパーティがテントを張って冬の霊仙山を楽しんでいた。

空はどんより曇っている。踏み跡をたどりお虎ケ池を過ぎると雪がちらつきだした。道の横の露岩に腰を下ろし急いで昼食をとっていると、四名のパーティが追いこして行った。

食後、再び登りだすと吹雪に変わった。経塚山を越えると避難小屋がすぐそこにある。踏み跡を急いで登ると、吹雪は益々ひどくなり、強風にのって猛吹雪が北から吹きつけてきた。山頂直下で振り返ると踏み跡が早くも消えかかっている。だめだ。急いで引き返すことにした。

下りにかかると右前方からも猛烈に吹雪いてくる。帽子を深くかぶり直し足元を見ながら下る。下り終わった所で踏み跡を見失った。

およその見当はつくが吹雪の雪原を歩くのは危険だ。そうだ、谷を下るとテントを張っていたパーティに会えるはずだ。左の谷に降りて谷を下る。猛吹雪の中を一人で歩いていると違う方向に下ってはいないかと不安がつのり、遭難騒ぎのことが思いだされた。そのうちかすかな踏み跡が左斜面から現れ、広い谷を下っていた。

それをたどるとテント場に着いた。緊張がゆるみほっとしている私には目もくれず、吹雪の中皆あわててテントを撤収して帰り支度のまっ最中だ。右に登り返し稜線に着いたが登山道の踏み跡は消えていた。

稜線を越えストレートに下っている踏み跡があったので、それをたどると深い笹原に積もった雪の斜面は、スポッと片足全部もぐってしまう。カンジキを着けているので起き上がるのが大変だった。何回ももぐりながら進み、そのうち直下に見覚えのある赤松が現れ登山道に出た。

㉒ 山に対する私の思い

近江側から登る鈴鹿の山や谷、尾根には道はない。歩いた人の記録もない。地元の人に聞いてもほとんど知らない。私はこのような未知の山域を歩いている。私が取りくんでいる山に対する考え方を書いてみよう。

山に登る場合は周りの山や尾根、谷をよく見る。植林が進み2～3㍍に育っているともうそこは歩けない。下刈りや枝打ちされていると大体歩ける。自然林が残っている山域は、約半世紀間は人の手が入っていないと思ってよい。そのような自然林の中は樹木が大きく育っているので自由に歩ける。しかし標高約800㍍以下の尾根では馬酔木の群落や雑木の藪があるので実際に歩いてみないとわからない。特に北西の季節風を正面に受ける尾根は藪が多い。

私は2万5千分の1の地形図をしっかり見る。一般的な登山道は別にして、尾根や谷をチェックする。いつも鈴鹿を歩いていると、その山域が現在どのような状態にあるのかよくわかり、主に自然林が残っている尾根や谷に挑戦している。尾根を歩いてみると営林署の赤い杭が続き、切り開かれている場合もある。そして多くは古い道とけもの道があり、ほぼ歩けるようだ。谷筋や山腹には炭焼窯の跡があり、古い杣道や仕事道がまだかなり残っている。

このような未知のルートを歩く場合、登りは山頂に向かって登るだけだから問題ないが、同じルートを下る場合は大変だ。一つ尾根を間違うと全然違った所に下ってしまうことになる。

私はバネ付きの剪定鋏を使いながら登ることにしている。新ルートを登る場合は、ポイント・ポイントで小枝を切ってゆく。尾根や分岐がはっきりせず迷いやすい所では、切りとった小枝を木の枝にかけて登る。木の葉は表と裏で色が違うので、緑一色の山の中でも見分けがつく。

鈴鹿を歩いていると迷う心配のない一般的なルートでも紙の紐を次々と木に巻きつける人、分岐やピークそして山頂には2～3ケ所二重に紐をつける人、またアルミのプレートを木に巻きつける人、ジュースやビールの缶を切って木に巻きつける人、赤い鉄板や原色のプラスチックにイニシャルをプレスして次々と木に釘で打ちつけて登る人など、その他いろいろな表示をつける人がいる。その結果山頂には山岳会や個人のプレートが多くうんざりしてしまう。

山に登る場合は山頂の雰囲気や展望を想像しながら一歩一歩苦労して登る。だから山頂に着いた時の開放感は何とも言えない。私は山の頂はその山の顔でありシンボルであり、聖域だと思っている。このような過剰な表示やプレートは本末顛倒もはなはだしい。本当に心から山を愛する人達に対する暴力だとも思っている。

エリア別徹底研究

近江側から登る鈴鹿の山々 ㉕

元越谷林道から 入道ケ岳

入道ケ岳は、鈴鹿の主稜線から東に派生したイワクラ尾根の先端に聳える峰で、頂上は馬酔木と笹原に覆われ、鳥居だけがポツンと立っている。明るく開放感あふれる山で、眼下に三重県側が大きく広がり、素晴らしい展望が得られる。

三重県側から手軽に登れるため人気を集めているが、近江側からはアプローチが長く、登る人はあまりいないようだ。イワクラ尾根は起伏の多いきびしい尾根だが、道はしっかりしている。仏岩や重ね岩を巡りながら辿るルートは最高だ。

猪足谷と元越谷の分岐点の広場に車を駐める。左の元越谷林道を辿ると、右の大岩に大きな流木が引っかかっている。昨年春の集中豪雨でこんな大木が流されてきたのだ。集中豪雨の凄さは想像を絶する。

右に渓流の音を聞きながら、地道の緩い登りが続く。右や左にタニウツギの花が咲き、右手は元越谷から一気に突き上げている高円山だ。補修された道を仙ノ谷を過ぎて回り込むと、急に荒れた林道に変わった。道はU字形に削りとられ、崖崩れも発生していた。

林道の終点の手前に、水沢岳登山口の道標があって道が分かれた。急斜面の砂礫の道を、右下の元越谷に向かってストレートに下ると丁字路に着いた。左折して雑木の中を辿ると左俣谷の堰堤に出た。堰堤を越え、谷に沿って進み、左岸に渡って登りきると、檜林の中に踏み跡が続いた。近年通る人が増えているようで、テープと紙の印もある。檜林を右に回り込んで進むと、緩い登りが続き、左から支谷が次々と現れた。雑木と檜が混じり合った深い樹林が続き、右下には中俣谷の渓谷が続いた。

入道ケ岳山頂

古い道に深く抽もった落ち葉を踏みしめながら進むと、うっそうと茂る彩林に変わった。谷を左に渡るとすぐまた右岸に道は続いた。時々小鳥の声を聞くだけの薄暗い道を辿ると、左から支谷が二度合流した。道も次第に急登になってゆく。

谷が二俣に分かれ、中央の急坂を登ると、真上に明るい空が見えてきた。水沢峠だ。峠の左手の谷の源流に水場があり、きれいな清水が流れていた。

ひと休みして、稜線を右（南）にとると急登が続いた。稜線には涼しい風が吹き上げ、ベニドウダンやサラサドウダンの花が咲いていた。シロヤシオや石楠花の花はほとんど散り、地面を花色に染めていた。登りきると左にガレ場が現れ、大きく展望が開けた。前方イワクラ尾根の先に入道ケ岳、そして後方には水沢岳が大きく聳えていた。

平坦な道からまた登りに変わるとイワクラ尾根との分岐に着いた。分岐をイワクラ尾根に向かって左折するとすぐ急な下りが続く。鞍部で左の谷を宮妻峡に下る分岐を見て直進し、登り返すと左手にガレ場が現れ、その先に三角形をした花崗岩の仏岩が雲母峰の新緑をバックに白い輝きを見せていた。

次には大岩を右巻きのように積み上げた重ね岩が現れた。すぐにまた急な下りに変わり、登り返すと尾根は次第に狭くなった。右の谷ではホトトギスがトッキョキョカキョク・トッキョキョカキョクとかん高い声でしきりに鳴いていた。

いったん下って登りにかかると、ヤセた岩稜に変わった。入道ケ岳に向かっての最後の登りだ。喘ぎながら登っていると、右斜面からバサバサバサと音がする。静かにして待っていると、うりぼう（猪の子）が現れた。私に気づかないようだ。約10㍍下の斜面を横切って樹林の中に消えた。やがて広尾根になり、馬酔木と笹が現れ、緩い登りから平坦な道になった。馬酔木の群生地を出ると前方が急に開け、入道ケ岳の山頂が顔を出した。笹原が広がる中に馬酔木が点在し、鳥居がポツンと立っているのが見える。広い笹原の谷に下って登り返すと、入道ケ岳（905㍍）の山頂に着いた。

北には馬酔木の新緑の上に雲母峰・錫ケ岳・御在所岳・水沢岳、南には宮妻峡岳・仙ケ岳と続いていた。眼下に広がる伊勢平野と伊勢湾の眺望を楽しみながら昼食。平日だというのに次々と人が登ってくる。そのうち紺色のジャージを着た中学生の一団が登ってきてあっという間に広い山頂を占領してしまった。

復路は北の頭に向かって左にとり、檜神社の奥ノ院に参拝して、イワクラ尾根を主稜の分岐まで引き返す。この分岐で三つのルートが選べる。一つは時間に余裕がある場合、縦走路を左にとり仏峠から猪足谷林道に出る。二つめは往路を引き返す、これが一番早い。

私は二つめの仏谷の左俣を下るコースをとることにした。右に下った被岳から急斜面を谷に下ると、源流域は小さく蛇行し、緩い下りが続いた。素晴らしい樹林帯が続き、左右から支谷が合流して次第に水量も増えてきた。一服して地下タビに履き替え、谷を下るがまだ水は冷たい。なるべく庄伝

いに行くと、谷が急に狭くなり、花崗岩が深く刳りとられたトユ状の深い溝に変わった。溝を下ると多段の大滝、落差約25㍍が現れた。滝の左の露岩に足がかりを探しながら滝下に下る。緩い下りになり茶色の脆い岩盤がV字形に深く切れ込んだゴルジュ帯に変わった。素晴らしいが、凄い谷だ。急な谷を下ると滝が連続して現れ、左斜面の山道を辿ると仏谷右俣との分岐に着いた。

仏岩から雲母峰を望む

どんどん水量が増え腰まで潜る。道がわからなくて迷っていると、谷の左斜面に古い道が続いていた。それを辿ると谷に沿って下流に続き、左から合流する支谷を渡って下ると道が消えた。本流を下ると明るい花崗岩のナメと滝が続いた。二段の大滝が現れ、右を巻いて下ると、滝壺は大きな青い淵になっていた。谷筋にはヤマツツジとサラサドウダンの花が咲いていた。岩のゴロゴロする谷に変わり、右に左に渡りながら左俣谷の分岐に着いた。一服して登山靴に履き替える。

七、八年前になるが、入道ケ岳に登る予定で水沢峠へ向かっていると、中年の男女二人が下ってきた。「この道を下ってどこに行かれますか」と聞くと、「いったん元越谷の下流に下り、また元越谷を登り返す。こんな暑い時期には沢歩きが一番ですよ。私達もイワクラ尾根から入道ケ岳に登りますので一緒にどうですか」と誘われた。私はそれまで沢登りの体験はなかったが、中年の女性も登れるようだからと一緒に登ることにした。

そこから引き返し、一緒に元越谷を登ったが、大滝は凄かった。両岸を岩壁に囲まれた箱の中のような所で、轟音を響かせしぶきを巻き上げていた。そして花崗岩の明るい渓谷が続き、青く深いトロや淵、ナメ流が続いた。左俣分岐で昼食、イワクラ尾根分岐には14時前に着いた。二人と別れ、急いで入道ケ岳に登ってきた。それ以来沢登りの素晴らしさを知り、暑い時期は沢登りを楽しんでいる。

さて、林道を下ると、ブルドーザーが道に大きな穴を掘っていた。聞けば元越谷に堰堤を作るために、資材を下ろす杭を立てているとのことだ。堰堤の位置は大滝の下流だという。そのうち、この素晴らしい谷も堰堤だらけになってしまうのかと思うと、残念でならない。（平成7年6月歩く）

△コースタイム△

元越谷分岐（40分）登山口（45分）水沢峠（25分）イワクラ尾根分岐（1時間15分）入道ケ岳（1時間15分）イワクラ尾根分岐（35分）仏谷二俣（1時間）左俣出合（10分）林道（35分）元越谷分岐

△地形図▽2万5千＝伊船

昭文社＝「45御在所・鎌ケ岳」

（岩野　明）

エリア別徹底研究　近江側から登る鈴鹿の山々 ㉖

元越谷林道から

白滝山・大洞ノ頭・水沢岳

元越谷林道の北に、ほとんど知られていない白滝山（841㍍）と大洞ノ頭（915㍍）がある。西尾寿一著『鈴鹿の山と谷5』を読んで、四年前にこの稜線を踏破したが、全然人が入っていないため、かなり藪が生え込んでいた。

本誌17号（94年7・8月）の「特選コースガイド」で、伯ノ谷から登る「元越谷源流尾根縦走」で大洞ノ頭を紹介したが、白滝山も捨てがたい魅力のある山だ。特に白滝山の西の稜線は、細い岩稜の急登が続き、素晴らしい展望が得られる。最近登ってみたら、近年は登る人もいるようで、多少の藪はあるがかなり切り開かれ、テープと紐の印が付いていた。

梅雨に入り山がガスに覆われていたある日、元越谷分岐の広場に車を駐める。左の元越谷林道を進み、登りきって左に回り込むと、高さ3～4㍍の杉の植林に変わった。林道は右に回り込んで上流へと向かうが、この突き当たりで山に入る。奥の谷に向かって枝打ちのすんだ植林の中を進んでいると、目の前に鹿が一頭現れ、あわてて逃げたとたん右奥のフェンスに突き当たり、左に向きを変えて消えていった。この辺り藪はないが道もない。フェンスの横を左に辿りフェンスを右に越えると、左下に倒壊した作業小屋がある。前方が明るい植林に変わると広い谷になった。右上の源流に杉の林が見えた。谷の手前を右にとり、植林の中の枯れ草をかき分け源流に進む。フェンスを越え、うっそうと茂る杉林に入ると、右と左に谷がある。緩く登るとフェンスが現れ鞍部に着いた。

ガスも晴れ、思わぬ展望が開けた。正面には雄大な雨乞岳の山稜、眼下は深く落ち込んだ野洲川だ。谷の底に477号線が武平峠へと続いていた。再び道を右にとり、フェンスの横を登りつめ、フェンスを越えて細尾根に着くと、左はスパッと落ち込んだ崖だ。尾根に大体切り開かれテープと紐の印が付けられていた。尾根の緩い登りを辿っていると、左真下からバイクや車の音が風にのって聞え上がってくる。次第に急斜面に変わり木を掴み体を引き上げながら登ると、岩稜に変わった。緩い登りから又岩稜の急登が続いた。展望が開け、正面に白滝山、左には綿向山から雨乞岳へと続く稜線が見えた。平坦な稜線からひと登りすると、白滝山の山頂に着いた。草原の頂上は疎木に囲まれ展望はない。

ひと休みして緩い下りを進むと前方に、これから行く稜線が望めた。尾根の左斜面は高さ2～3㍍の植林が続き、広い斜面に変わると踏み跡は消えた。直進すると紐とテープの印が現れ、杉林に向かって急な下

稜線より白滝山を望む

りになった。大きく茂る杉林には、左右に大岩が現れ、下り終わると緩い登りが続いた。踏み跡は消えたが迷うような藪もない。コブを一つ越えて下ると、右斜面の檜林の中に古い道が現れた。この道を尾根に出ると、仙ノ谷に下る鞍部の分岐に着いた。ひと休みして北方に開けた展望を楽しむ。

ここからの道は何回も廻り、大体切り開いた。雑木に変わった細尾根の急斜面を辿

ると、大洞ノ頭に着いたが、雑木に覆われ展望はない。右折して脆い花崗岩のキレットを下ると、又急な登りが続いた。右にガレ場が現れ、木や木の根を手がかりに登ると、石楠花のある広い尾根に変わった。

元越谷左俣の源頭だ。ゆったりと広がる檜林の中は、高さ10㎝程の笹に覆われている。広場もありゆっくりくつろぎたい所だ。左斜面に石楠花の続く尾根を登りつめると縦走路に着いた。右に進み左にガレ場が現れると、大きく展望が開けた。左には脆い花崗岩の岩壁が続く鎌尾根が、淀木を配して急峻に落ち込んでいる。その奥はアルペン的風貌の鎌ケ岳の岩峰だ。右には伊勢平野が霞霧の中に広がり、鞍線にはペニドウダンの赤い花が咲いていた。ガレの先端でゆっくり展望を楽しんでから、いったん下った鞍部にはブナの大木があった。そこからピーク1028㍍に登り、緩い下りから正面に水沢岳、左には入道ケ岳が望めた。水沢岳への登りは花崗岩の白いガレ場で坊主岩が続いた。ガレの上からは、後方に最高の眺望が得られた。左に綿向山・雨乞岳・御在所岳・鎌ケ岳・雲母峰・伊勢平野と続き、主稜線の左には元越谷左俣の樹林がゆったりと広がっている。

緩い登りを辿り水沢岳（1029・4㍍）の山頂に着いた。三重県側に展望が開けた。昼食をとっていると、北から黒雲が現れ、北方の山からガスに覆われてきた。ひと雨きそうだ。急いで食事を終え水沢峠へと向かう。

笹原から淀木に変わり、脆い花崗岩のキレットが現れた。真下に水沢峠が望め、V字形に落ち込んだ峠を、北から吹きつける強風でガスが三重県側に流れてゆく。三重県側は日が差しているが、近江側は黒雲とガスに覆われて何も見えない。急斜面をいそいで下り、水沢峠から右にとって元越谷林道へと下る。谷筋でミズキと朴の白い花を見た。

（平成7年6月10日歩く）

△コースタイム▽

元越谷出合（20分）杉植林取付点（10分）鞍部（1時間10分）白滝山（40分）仙ノ谷分岐（50分）縦走路（40分）水沢岳（15分）水沢峠（35分）元越谷出合

△地形図▽2万5千＝伊船

昭文社＝「45御在所・鎌ケ岳」

（石野　明）

エリア別徹底研究　近江側から登る鈴鹿の山々 ㉗

清水平谷林道から

残雪の雨乞岳

残雪の雨乞岳はアプローチが長く、登る人はほとんどいない。私は本誌昭9（96年3・4月）の「特選コースガイド」で紹介した清水平谷林道から毎年登っている。今回もこのルートを登り、清水平谷の出合いからストレートに登るルートを発見した。

8時に大河原の「かもしか荘」の前で友人と落ち合い、野洲川ダムに向かうが、途中に「崖崩れの為不通」の看板があった。迂回する。ダム横の道を進むと、すぐ左前方真上に清水頭の草原と、その上に樹氷に覆われ白く輝く雨乞岳が望めた。今日は素晴らしい一日になりそうだ。通行止めのため車は全然通っていない。大丈夫だろうかと思いながら進むと、右側道路端のコンクリートブロックの上にカモシカが一頭いた。静かに近づいて行くが逃げない、すぐ横をゆっくり通ると、車の中を覗いている。一㍍程度の近さだ。一度は行き過ぎるが引き返して写真を撮る。

以前、鈴鹿で猟師をしていたという地元の人の話では、「カモシカはよく捕れた。あれは阿呆だから見つけたらまず逃すことはなかった。赤い布などを振ると、何時までも見ている」と言っていた。今まで何回もカモシカに出会っているが、銃さえあれば何頭でも仕留められそうだ。

ダム横の道を3分の2程進んだ所が崖崩れの現場だった。その手前に車を駐める。引き返して南の山へと思ったが、樹氷の雨乞岳にひかれて登ることにした。

深山橋を渡り左折して白滝谷林道に入ると、地道の平坦な道が延々と続いた。清水平谷林道の分岐で右折して橋を渡り、緩い登りの谷筋にはマンサクの花が咲き始めていた。

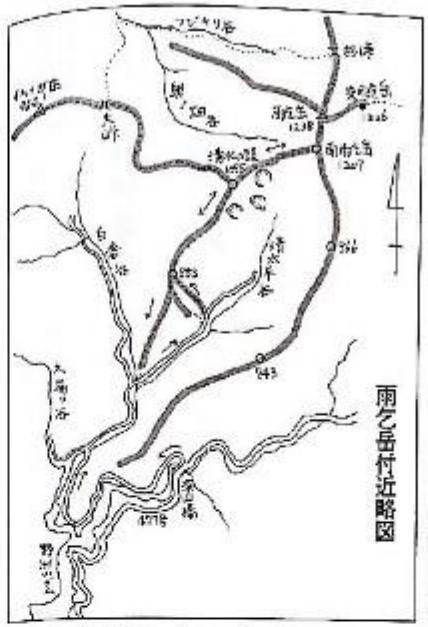
取付点の広場に着くと、目印にしていた道路脇の「進入禁止」の看板がない。しかし以前左側に付けておいたテープの印はあった。左の杉林に入り急斜面を右斜めに登ると、雑木に変わり支尾根に出た。さらに急斜面の登りに変わり、フェンスが現れ明るい植林の尾根になった。

尚、前回このルートを紹介した時には、

清水の頭の鞍線より雨乞岳を望む

下刈りされたばかりで藪はなかったが、笹が大きく茂りだしていた。夏草が茂る時期には、取付点から登った支尾根から左の谷に下って、谷の左斜面の杉林を登ると支尾根に踏み跡が続き、清水の頭の稜線に登ることができる。又復路のルートを直接登ってもよい。

支尾根に続いているフェンスの横を登ると、左斜面は雑木、右は明るい植林が続いた。ストレートに急斜面を登るとすぐ上に、檜林に覆われた稜線が現れた。檜林の中にトチの木が一本あり、その下でひと休みする。



雨乞岳付近略図

後方に大きく展望が開け、鋭峰鎌ケ岳が荒々しい岩肌に残雪の衣をまとい白く輝いていた。うっそうと茂る檜の林に入ると、ピューと激しい声を発して鹿が一頭右上に走り去った。

尾根にのり右に進むと緩い登りから急斜面に変わり、右斜面に固くしまった残雪が現れた。登りつめると前方が急に明るくなり、残雪の草原に飛びだした。

薄暗い森から急に明るい残雪の尾根に変わる瞬間は劇的で、このルートの一つのポイントでもある。ゆったりと広がる尾根には、普通では考えられない程の残雪が続き、雪庇も張り出していた。

この稜線約200㍍がちょうど風の通り道になっているようだ。馬酔木が点在し、周りは乾いた草原が続いていた。緩い登りを進むと、右の草原に鹿が二頭いたが、あっという間に雑木の中に消えた。残雪の草原はかなり溶け、雪の消えた地肌を選びながら登ると、笹が現れ清水頭の山頂に着いた。

一気に展望が開け、左に綿向山。そして主峰御池岳から続く鈴鹿の主稜線も白く輝いていた。その手前はカクレグラからダイジョウと続く稜線、足元から続く清水頭のゆったりとした尾根には残雪の帯と、左斜面には雑木の樹氷が続いている。その上には金山樹氷に覆われ白く輝く雨乞岳だ。その右に鎌ケ岳から南に続く鈴鹿の山並み、眼下に野洲川ダムが光っていた。

ひと休みしてカンジキを脱ける。緩い下りを辿ると雪が消えた。この時期に雪が消えることは今までなかった。今年は雪が少ないのだろう。カンジキを外して進むと、尾根が細くなり残雪が現れた。カンジキの跡が続いている。湖東町の辻氏だろう。辻氏からは前もって「藤切谷から奥ノ畑谷を登る。山頂で会えますね」と連絡があった。しかし私達は思わぬ仕別れで約60分遅れてしまった。

踏み跡は奥ノ畑峠から尾根をストレートに登っていた。最後の登りだ。キラキラと光る樹氷をかき分けながら登りつめると、南雨乞岳（1207㍍）の山頂に着いた。踏み跡はなおも雨乞岳へと続いているようだ。大声で辻氏を呼んでみたが返事はない……。

清水の頭の草原

樹氷と笹原に覆われた雨乞岳は、静寂の中雄大な景観を見せていた。

南斜面を少し下ると、雪が消え地肌の出た場所があった。風下でちょうどよい、腰を下ろして眼前に展開する御在所岳と鎌ケ岳、そして南に延びる鈴鹿の冬山を眺めながら、遅い昼食をとった。

昼頃から雪がちらつきだしていた。一時的に吹雪くが雪は切れている。北から南に雪雲がゆっくりと流れてゆくが、連続で吹雪くことはなさそうだ。

復路の清水平谷林道に下る分岐に着くと、右の雑林の中に草原が広がっていた。吹雪いてはいるが薄日が差し日溜りになっていた。この日溜りでひと休みする。

この尾根をストレートに下ると清水平谷の分岐だ。岐の場合は杉林を下ることにして直進する。左に回り込んですぐ右に尾根が現れた。この尾根を辿ると踏み跡がありテープの印も続いていた。右側に切り開きが現れ急な下り坂が続き、右下に白倉谷の林道が見えてきた。尾根がはっきりしなくなる所で左にとると尾根が現れ、その尾根を下ると左下に清水平谷林道が見えてきた。

下り終わって杉林を左斜めに林道に出て、尾根の切り開きを回り込むとすぐ白倉谷林道に出た。

（平成7年3月21日歩く）

《コースタイム》

野洲川ダム（1時間15分）清水平谷林道取付点（40分）清水の頭稜線（25分）草原入口（30分）清水の頭（15分）奥ノ畑峠（30分）南雨乞岳（30分）清水の頭（40分）清水平谷分岐（65分）（40分）白倉谷林道（1時間5分）野洲川ダム

《地形図》2万5千＝御在所岳

昭文社＝「45御在所・鎌ケ岳」

（岩野　明）

近畿の山 ——七賢出版——
東海自然歩道30選【関西版】 大阪府社会体育研究所 1,400円
京阪神さわやかハイキング 大阪府社会体育研究所 1,400円
京阪神ベストハイク 渓谷を訪ねて 増本義次 1,500円
京阪神 花の山旅 大阪府社会体育研究所 1,500円
京阪神ベストハイク＆キャンプ30 友保義雄 1,500円
京阪神 ベストハイク 六甲の山 小野敏一郎 1,500円
近畿の山グレード別ベスト30 西村弘美 1,500円
〒530 大阪市北区西天満4-15-10 フェニックスタワービル4F
☎06-345-5333 FAX 06-345-2772

エリア別徹底研究

近江側から登る鈴鹿の山々 ㉘

行者コバから 真冬の綿向山・北峰・竜王山

近江平野から一気に1110㍍まで立ち上がっている綿向山は、山岳信仰の山で頂上には綿向神社の奥宮があり、展望も素晴らしく多くの登山者に親しまれている。しかし冬の綿向山に登る人は少ない。一般登山道は行者コバの先の切れ込んだ谷が雪の壁になり、道が消える。雪が落ち着いた時期や冷え込んだ時は、行者コバの尾根をストレートに登ることができる。

綿向山の北に人に知られていない竜王尾根分岐の北峰がある。雨乞岳へ向かう縦走路がこの北峰を越えているが、背丈を超す深い強烈な笹藪に道は消されている。しかし真冬には雪が積もりこの藪が埋もれてしまう。山頂からは360度の大パノラマが展開する。イハイガ岳へと続く稜線もゆったりとした雪原になる。この時期以外は歩くことのできない素晴らしい冬のルートを紹介しよう。

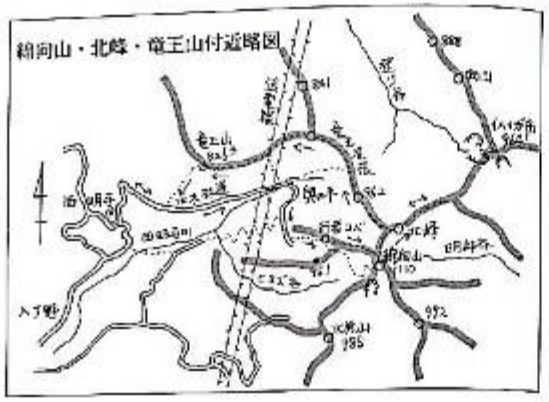
西明寺の集落まで車で入り、水木林道入り口の道路脇に車を止める。竜王山の南斜面を東に向かって登る水木林道は、除雪してあった。奥の平から先の北西斜面にもかなり残雪があるがここも除雪されていた。登山道の入り口に着くと、普通は除雪されることのない林道の奥で音がした。今年はすでに工事が始まっているようだ。左折して登山道に入ると道には雪があったが、冷え込んでいるため雪はしっかり締まっていた。

杉林の中の整備された道をジグザグに登ると左に避難小屋が現れ、奥の平から登ってくる道と合流した。右に曲がり、緩い登りが続き、植林から自然林に変わると行者コバに着いた。祠は新しく建て替えられたばかりのようだ。広い鞍部のブナの大木の中、緩い登りを辿り左に回り込み、切れ込んだ谷に変わると道が消え、雪の壁になっていた。やはり登山者はここで引き返しているようだ。少し引き返し、行者コバから山頂へと続く尾根に取りつく。尾根にのると古い踏み跡が現れ赤いテープの印も続いていた。以前、本誌14号（94年1・2月）で熊野から文三ハゲを登るルートを紹介した際この尾根ルートも書いておいたが、歩くはあるが今日は誰も登っていない。足元に広がる笹原は全て雪原に変わっている。稜線を西の端まで散策し、眺望を楽しんでから北峰に向かう。

竜王尾根から綿向山を望む（中央が北峰）

緩く下る稜線を辿ると、次第に尾根は細くなり、雪庇が張り出している。左斜面は樹林、右は雪原が急角度に落ち込んでいる。雪庇の上を注意しながら登ると道標が現れ、竜王尾根の分岐に着いた。さらに進み北峰の山頂に着いた。

視界を遮るものは何もない。360度の大パノラマだ。左下には湖東平野と琵琶湖が大きく広がり、その先には白く輝く比良山系から湖北の山並みが伊吹山から御池岳へと続いていた。振り返ると、雪庇の上にトレースが綿向山へと続いていた。足元にゆったり人がいるようだ。



尾根の左斜面は植林、右は自然林が続いた。尾根上は冷え込むため雪も締まり、急斜面も快適に登ることができた。一つのコブに登ると湖東平野が広がっていた。素晴らしい樹林帯に変わり次のコブに登ると、すぐ上に雪の稜線が現れ右上の山頂へと続いていた。

山頂の南斜面は広大な雪原に変わっていた。最後の急斜面を登りつめ山頂の北の稜線に出て、右にとるとすぐ綿向山（1110㍍）の山頂に着いた。奥宮の先の青年の塔の横の日溜りに腰を下ろす。左からイブネ・清水頭から雨乞岳・鎌ケ岳、そして南に続く山並み、雄大な南鈴鹿の冬山をゆっくり楽しむことができた。頂上には古い踏み跡

新刊
霧の山 —続 ふくいの山・四季—
増永 迪男 著
四六判・二〇〇〇円
大好評『霧の森』に続く、福井の山岳フォトエッセイ。鯖街道完歩や焼畑作りを通して魅力を語り、能郷白山のダケカンバ、貫節檜など名樹も多数紹介。

新刊
関西 山越の古道(中)
中庄谷 直 著
四六判・二〇〇〇円
叡山越、高野七口、西国三十三所巡礼、熊野古道、伊勢街道から全26コースを日帰りハイクにまとめ、中辺路・小辺路など泊まりがけの完歩コースも掲載。

ナカニシヤ出版
京都市左京区吉田二本松町2
☎京都 075-751-1211 〒606

北峰山頂と雨乞岳

りと広がる雪原の先はイハイガ岳だ。その先には縦子ケ口山系とカクレグラから南東に延びる稜線、幾筋もの支谷と支尾根が残雪の中にくっきりと刻まれ、その中に自然林がコントラストを見せていた。雪庇の下の日溜りに腰を下ろしてゆっくり昼食、明るく澄みきった冬山の静寂を楽しむ。食後、空身でイハイガ岳へと続く雪原を散策した。

竜王尾根の分岐まで引き返し、右にとり竜王山に向かう。急斜面を一気に下ってコブを一つ越えると又急な下りが続き、左側に崖が現れた。右の雑木の中を下ると尾根も広くなり、登り返して奥の平への分岐に着いた。直進して雑木の中の急坂を登ると岩稜帯に変わり展望が開けた。後方には今しがた下ってきた尾根の向こうに、綿向山から北峰・イハイガ岳・綿向山と続く稜線が見えた。登り谷の源頭の大ガレは、残雪の谷の左は茶色に、右は黒い地肌を見せていた。その奥には雨乞岳とイブネが雄大な稜線を引いていた。緩い登りが赤松林に変わり左に回り込んで下ると、送電線の鉄塔の下に着いた。右下に原の集落を望み、緩い登り下りは広い尾根に変わり、前方に竜王山の松林が望めた。この山域を「オンパノフトコロ」と呼ぶらしい。変わった地名だ。松林を過ると雪が消え、竜王山（826・3m）の広場に着いた。

広場の隅に南乙紅葉のための雨乞石が祀られていた。少し先に三角点があり、その先は切り開きで湖東平野が望めた。

引き返し、林道に下る道の日溜りに腰を下ろし、松風の音を聞きながらコーヒーを飲んでいると、左下30～40㍍の樹林の中に何かがいる。右に移動している。カモシカだ。山腹をゆっくりと進んでいるのが、見え隠れしていた。

南斜面の道は雪が消えていた。明るく落ち着いた雑林の中を下ると、杉林に変わり間もなく水木林道に出た。

（平成7年3月19日歩く）

《コースタイム》

西明寺（1時間）表参道入口（30分）行者コバ（50分）綿向山（10分）北峰（30分）奥ノ平道分岐（1時間）竜王山（40分）西明寺

《地形図》2万5千＝伊勢

昭文社＝「45御在所・鎌ケ岳」

（岩野　明）

中高年・女性のための山旅

日帰りから本格的な縦走コースまで、全コース経験豊富なツアーリーダーが同行します。お一人でもお気軽にご参加下さい。

★他にもたくさんコースあります。資料をご請求下さい。

★現地集合・解散もできます。ご相談下さい。

NHKテレビ講座『中高年のための登山学』でおなじみの 岩崎元郎さんと歩く日本百名山 丹沢山(1567m)と筑波山(876m)

丹沢山塊を完全縦走するため、展望の良い檜ノ岳(1491m)、主峰の丹沢山(1567m)、そして丹沢山塊最高峰の蛭ガ岳(1673m)に登頂いたします。関東平野から望む双耳峰の筑波山は、標高こそ低いが日本百名山としての風格があり、万葉の時代から親しまれてきた名山です。

【ポイント】今回は岩崎さんが同行しますので、山行中はもとより山の麓での語らいなど、山以外での楽しみも期待できます。

(注意) 岩崎氏は名出発日の前2日間のケビンより同行します。予めご了承下さい。

◆期　日　①平成8年4月12日(金)～14日(日)
②平成8年4月14日(日)～16日(火)

◆代　金（福岡発着）　① 118,000円
② 115,000円
（大阪・名古屋発着）① 103,000円
② 100,000円

昭45年生まれ。岩名山塾代表。日本山岳ガイド連盟理事。NHKテレビ『中高年のための登山学』の講師などを務める。また登山に関する著書（いわさきもとお）多数あり。

創立5周年記念企画／脇坂順一氏（医師・登山家）と歩く オーストラリア最高峰　コジオスコ山とトワイナム山とエアーズロック　9日間

◆期間　8年2月11日(日)～19日(月)　◆代金 395,000円（福岡・大阪・東京発着）
◆人員　20名様（最少催行人員：10名様）　◆食事　食事付(朝6回、昼6回、夕6回)

宮之浦岳と縄文杉4日間

大洋最高峰富士と宮之浦岳は巨岩が点在し、花と紅葉など大自然の造形美が美しい山岳です。また推定7200年と言われる縄文杉や大王杉など巨木の迫力に圧倒される思いです。

◆期　日　①3月20日(水)～23日(土)
②4月26日(金)～29日(月)
③5月3日(金)～6日(月)

◆代　金　①大阪 109,000円　東京 129,000円
②大阪 118,000円　東京 138,000円
③大阪 127,000円　東京 147,000円

❶大阪空港／羽田空港(午前)→鹿児島空港→屋久島空港→安房→(泊)❷→荒川登山口→宮ノ浦岳→宮川登山口→安房→(泊)❸→荒川ダム→大王杉→縄文杉→荒川ダム→安房→(泊)❹→屋久島空港→鹿児島空港→大阪空港／羽田空港(午後)

■東南アジア最高峰　キナバル山(4101m)登頂6日間
出発日：3月20日(水)
代　金：189,000円より（大阪・東京・福岡発）

■台湾最高峰　玉山(3952m)登頂5日間
出発日：3月29日(金)
代　金：135,000円(大阪・東京・名古屋・福岡発)

■ニュージーランド　マウントクック ハイキング7日間
出発日：2月9日(金)
代　金：218,000円（大阪・東京・福岡発）

■ロッジ泊りで歩くヒマラヤ展望 トレッキング8日間
出発日：3月10日(日)　ヒマラヤ入門コース
代　金：318,000円より（大阪・東京・福岡発）

アミューズトラベル株式会社
〒541 大阪市中央区本町4-5-3 本町三井ビル2号館8F
〒812 福岡市博多区博多駅東2-5-28 博多住友ビル10F
お問い合わせ フリーダイヤル 0120-802514（ヤマニコイヨ）
FAX 06-265-3306
(福岡) ☎092-414-5566　(大阪) ☎06-265-3303

稽古照今『記・紀』を歩く⑦

葛城の道（大王〈天皇〉家と葛城氏）

その2　御所市域（徒歩10㌔）

⑥葛木坐火雷神社…（1・5㌔）⑦鴨山口神社…（1㌔）⑧九品寺…（1㌔）⑨一言主神社…（1㌔）⑩名柄神社…（2㌔）⑪高天寺神社…（2㌔）⑫高鴨神社…（1㌔）⑬高丘の森…風の森バス停。

中村敏文

前号（28号）は、⑤葛木坐火雷神社（笛吹神社）から⑦角刺神社を経て忍海駅へ出たが、今回は⑥葛木坐火雷神社から⑦鴨山口神社を経て風の森峠へ辿る御所市域コースを歩いてみる。

⑦　鴨山口神社（御所市柏原）

葛木坐火雷神社（笛吹神社）から里道を伝い小林を経て鴨山口神社までは約30分かかる。葛城山ロープウェイへの櫛羅・御所線の車道を越えると、櫛羅の猿目垣内に櫛羅経塚や櫛羅石を使用した石仏などがある。

櫛羅の氏神として大山祇命ほか三神を祭る鴨山口神社は、大和十四所山口神の一つである式内の大社に比定され、社宝として室町時代作、重文の一木造り彩色の神像一体がある。旧社地は猿目垣内の岸野山にある江戸後期の櫛羅陣屋跡だと伝える。

山口神社から西へ柏原の集落へ入り、西へと葛城山麓の長い参道を行くと、柏原氏が祖先の造野貞主を祭った駒形大神神社が鎮座する。造野神社を式内の大神神社に比定し、明治末に駒形神社を合祀した柏原の氏神である。神社の二の鳥居まで戻り、南へ小道を回り込むと九品寺へ入れる。

⑧　戒那山九品寺と千体石仏（柏原）

寺伝によると行基の開基とあるが、もとは安位寺戒那三坊の一院といわれ、中世では越智氏と同族の柏原氏の菩提寺として栄え、現在も柏原一族の墓碑が並んでいる。

明和五年（1768）再建の本堂に平安後期作の重文、木造阿弥陀如来坐像を安置した浄土宗寺院で、境内の鐘楼には一乗院門跡長禅室旧蔵の慶長十五年（1610）銘の梵鐘がある。境内の裏山一体には九一戦死者の供養に立てたという千体石仏、室町時代の名号碑や阿弥陀・地蔵の石像がある。

⑨　高丘之宮・一言主神社（森脇）

九品寺から一言主神社までは山裾の道が約1㌔、途中の小字神宮之芝に鎮座天皇の葛城高丘之宮伝承地の石碑がある。

式内の名神大社葛木坐一言主神社に比定された地元でいう一言神さんは、明治初年に改築された日吉社で、現在も10月15日の例祭は、森脇・豊田・名柄・多田・西寺田・宮戸の大字が参画して執り行われる。

葛城一言主神社

『記紀』では雄略天皇と同じ姿で出現し、獵銃を撃った一言主神であるが、『旧事本紀』には スサノオノ命の子とされ、『釈日本紀』に「吉事一言　凶事一言　言敗之神　木一言主神」とある。現在の祭神は出代主命と切武尊（雄略）であるが、『続日本紀』には雄略と競った言問神は土佐に流されたとある。

暦録の一説では、土佐から迎えられ葛城高宮国に祭られた神が一言主神で、葛木神である高鴨坐神（高鴨神）と同一とされる。

古記録の『二十二社参詣記』に「東向きの本社と南に三社、北に一社、手水所の前に三社と拝殿、別当の坊一宇（一乗寺）」と記された大社で、貞観元年（859）に正三位から従二位に昇叙した、神格の高い社である。

神社から東へ参道を下り、浄福寺から名柄街道を南下し、水越街道との交叉点を少し東へ下ると、名柄神社が鎮座する。

⑩　名柄神社・中村家住宅（名柄）

俗に姫之宮と称し、下照姫命を祭神とするが、名柄首の祖先、八重事代主命説もある。名柄の氏神であるが式内の古社に比定し、春日造の本殿は県指定文化財である。

十七枚残る神札は鎌倉末期の正和元年（1312）と室町時代のものが多く、現在の建物は室町前期の寄合・長享の建築様式と推定されている。

近世の名柄は金剛寺山の宿場で農家風の家並みを残し、江戸中期建築の特色を見せる末吉家・久保家などが現存している。

著名な作家堀辰雄一家の近くには、江戸初期に建築された中村代官屋敷がある。桁行21㍍、梁間11㍍もある農家風町屋建築で、近江小室藩小堀氏より代官を拝命した中村正勝は、中世の吐田城主吐田越前守の子孫といわれる。大和・河内間の金剛山水利論争の大和側勝利の判決文が同家にある。

中村家から名柄街道を佐田へ向かい、南郷を抜けて楠茶屋に入り、中世の吐田氏に支えられた吐田寺（極楽寺）から西へ山道を上がり、高大の橋本院に立ち寄り、高天彦神社までは2㌔余りで、小1時間はかかる。

⑪　高天寺跡と高天彦神社（名柄）

高天彦神社付近は多くの堂宇を擁していた高天寺の跡地で、小字として千手院・釈迦堂・文殊堂・中室院などが残る。観音堂

と大師堂が現存する橋本院は高天寺の一子院であったと伝えられる。近世の高天は金剛登山口として繁栄の旅籠が置かれ、明治初年に女人禁制が解かれて、大阪側の金剛登山道が開発されるまで繁盛していた。

高天彦神社は高皇産霊神（高天彦）を祭る式内の名神大社で、平安時代には従二位に昇叙し、金剛山別当の葛城家は祖先が高天彦であるとされる。

⑫ 葛城道歴史文化館と高鴨神社（鴨神）

葛城道歴史文化館より高鴨神社

高天彦神社から東道を東へ西北部の葛城古道へ下り、尺見を抜けて鴨神の歴史文化館までは2キロの道のりである。

葛城古道周辺の歴史資料が展示してある文化館と池を隔てて、高鴨神社が鎮座する。

式内の並名神大社の高鴨阿治須波彦根命神社四坐に比定する明治の県社で、『三代実録』には正三位高鴨神と従二位迦毛大御神を従一位に昇叙するとある。四坐の祭神は三輪の大神神社の分霊として葛城に鎮座し、皇室を守護した神々とされる。

境内には鈴木宮司が手塩にかけて栽培する日本サクラ草が愛好者を引きつけ、重文の本殿は三間社流造の室町建築である。社前の狛犬も天文十六年（1547）銘のもので、摂社の東神社本殿は江戸初期の建築で県指定文化財である。

⑬ 風の森峠（鴨神）

高鴨神社から東へ10分余りの国道にあるのが風の森バス停で、少し手前の高野街道に面した極楽寺の境内に、正和三年（1314）銘和泉式部の墓がある。

標高280㍍の風の森峠は、古代の南海道・中世の高野街道の要地で、御所市が観音寺の裏手の小社前に、風の森神社の説明板を立てたが、以前は級長津彦・級長戸辺の風の神を祭る志都都比古神社であった。

国道24号のバス停から奈良交通バスは御所駅へ10分、近鉄高田駅へ30分で結ぶ。

すすきの原・箱根仙石原温泉へ
休憩・昼食・入浴にご利用ください
10名様以上マイクロバスにて送迎
福島館
〒250−06
神奈川県足柄下郡箱根町
仙石原139
電 0460−4−9041

富士登山・富士五湖・東海自然歩道
平野—平塔山—大平峠—ハリモミ純林
（パンフレットすぐ送ります）
山中湖
ペンション コットンテール
〒401−05
山梨県南都留郡山中湖村平野
電話 0555—65—8515

新ハイキング選書

【第6巻】再版出来！
花の山を行く　松本雪枝 著
その足跡の広い、山の花をたずねてのしみじみとした紀行文集。
●上製本・B6判・約356頁　定価1650円（税込）
★好評発売中！

【第8巻】
旅がらすの山　富田弘平 著
北日本篇、東日本・中日本篇、西日本・南日本篇、国外篇と良いコースの50の紀行文を納めている。遠い山から、石仏から、眼前を彩る楽しい木である。好生行あり、バラエティーに富んだ内容豊かな読みものとして楽しい本である。
●上製本・B5判358頁・カラー8頁、写真、スケッチ、図版多数　定価1800円（税込）
★三版発売中！

【第9巻】安藤正義／市川節子／多摩雪絵／佐山弘平／松本信 共著
一等三角点の名山100
北海道から沖縄まで、全国100座の一等三角点の山々の最新の紀行案内文集。詳細なガイド・地図入り。
●上製本・B6判336頁　定価1650円（税込）
★重版発売中

【第10巻】
四季の山　沢聡 著 画と文
春の山、夏の山、秋の山、冬の山と、本書収録されている山の紀行集で、著者は文学の人であるが、また、詩人の数多くの詩は、じっくりと味わっていると、味が伝わってきます。絵形図入り、コースタイム入りで、案内書としても役立つ。内容の山は、一般見まの良い山ばかり。
●上製本・B6判344頁　定価1650円（税込）
★新刊・好評発売中！

【第11巻】
いで湯浴泉記　大石真人 著
あまり知られていない温泉を調べた紀行が多く、また、知られている温泉についても、克明に調べ上げて、すべての旅館の配置図を入れ、単なる温泉の案内書でなく、温泉歩きの良い経験から、話題も豊富に、読みものとしても楽しめる浴案記になっています。
●上製本・B5判320頁　定価1700円（税込）
★最新刊・好評発売中！

【第12巻】新ハイ東海自然歩道グループ 後藤典重 編著
東海自然歩道を歩く
歩き続けて6、174、470歩。1、331キロ完歩の記録。
●並製本・A5判112頁　定価1300円（税込）
★最新刊・好評発売中！

【第13巻】
甲斐の山山　小林経雄 著
この本では、甲斐の山々を百山、二百山といわず、なるべく多く紹介しようと試みた。南々の山について、それがどんな山かを浮き彫りにさせるため、位置、地形、地質、植生、林相、熊笹、山名由来、その山にかかわる歴史など客観的に記す。
●上製本・B6判360頁　定価1800円（税込）
★最新刊・好評発売中！

【第14巻】
百歳までの山登り　富田弘平 著
老から同から海外までその足跡の広い著者の百歳登山を紀行と随想集。百歳までの山登りをめざす好読み物
●上製本・B6判360頁　定価1800円（税込）
★最新刊・好評発売中！

●振替でのご注文は送料当社負担
発行所 新ハイキング社
東京都北区滝野川7−6−13
振替東京3−146915
電(03)3916−8110

文学歴史探訪ハイク ㉖

飛鳥路に石造物を訪ねて

松永恵一

飛鳥の正月

正月来たら何うれし
蕎石みたいな餅食べて
割木みたいな魚そえて
人参みたいな舌出して
こたつへあたってねんねこしょ

正月来たら何うれし
雪のようなママ食べて
碁石のような餅食べて
割木のようなトトそえて
こたつへあたってねんねこしょう

（明日香村史）

子供らは童謡を口ずさんで正月の訪れを指折り数えて待ちあぐんだ。それはまた大人も同じ気持ちであった。

餅搗き 12月28日ごろ、餅二、三日に、かき餅やキリコを数日搗く。餅花をつくる。川柳の枝を伐ってきて、その小枝に、子餅をちぎって、紅白の染め粉をつけてさした。新しい年が豊年でありますようにと、祈りをこめて。寒の入りに、固くなった餅花をはずして、炮烙で焙って食べた。

正月三が日 白味噌の雑煮。大根、里芋、人参を入れて炊き、餅を焼いて入れる。煮〆に、数の子、ヒナゴ（田螺）、牛蒡のハリハリ（砂糖と酢と胡麻をまぶした牛蒡）。重詰めには、黒豆、蓮根、人参、筍、蒲鉾。

七草 オジヤ（雑炊）にナズナとスズシロ（大根）、芹などを入れて炊く。7日に雑炊を炊き、6日は神休みといっている。

鬼の雪隠・鬼の俎『大和名所図会』

トンド 1月14日夜に行う。神社の注連縄を頂いてきて、藁や竹や葛のつるで組み立てる。松前では、トンドの火の燃え盛る時をめがけて、「天津和合楽地福円満来年の始めに筆とりて、よろずの宝、手の中にあり」と書いた書き初めを竹の先につけて高く上げた。

小正月 1月14日、トンドの火で煮ておいた小豆で小豆粥を炊き、粃粑の葉に盛り、神仏から家の戸口、お蔵へも供える。

おんだ祭（飛鳥坐神社）

2月の第一日曜日に行われる飛鳥坐神社の「おんだ祭」は、天下の奇祭として名高い。おんだ祭は五穀豊穣、子孫繁栄の祈念祭。人々がにぎやかに集まり、賑らかにおおらかに行われるお田植えの祭り。

祭の日は、天狗と翁の面をつけた若い衆が走り回って青竹で参拝者のお尻を叩く。拝殿では、神官が祝詞を奏上したあと、午後2時ごろから、天狗とおかめ、翁と牛がユーモラスな神事をくりひろげる。

田をすき、代かきをして、神官が籾をまき、松葉を早苗に見立てて田植えをする。天狗は暴れ回り境内の見物の席へ飛び降りてきたりする。

クライマックスは、天狗とお多福の婚礼儀式。天狗は猿田彦命、お多福は天鈿女命。仲人は翁。色気たっぷりな所作、濃厚なラブシーンが熱っぽくくり返される。「尻つきめし」「汗かけ」「種つけ」「ふくの紙」というぐあいに。

参拝者は、早面に見立てた松葉や、天狗とお多福の婚礼初夜の拭くの紙（福の神）をありがたく頂いて帰る。五穀豊穣、子孫繁栄まちがいなし。

神事のあと紅白の餅が撒かれる。

岡寺の初午

岡の集落の南北の通りの中ほどに石の鳥居があり、岡寺という石柱が立つ。岡寺へは東へ400㍍ほど登る。最後の40㍍ほどが急坂である。坂道の左右の民家が美しい。大和棟と呼ばれる急勾配の屋根、煙出しのついた屋根、白壁に早春の陽がやわらかい。「ようこそ、お参りィ」と優しい声。

仁王門をくぐる。桃山時代の建造物。文武天皇の父・草壁皇子の岡木宮を皇子の遊び友達の義淵僧正が賜って寺にしたのが始まりと伝える。境内の池に竜神を勧請して大石で蓋をして閉じこめたので、正しくは竜蓋寺という。

現在は新義真言宗豊山派に属し、西国三十三ケ所観音霊場の第七番札所として世に聞こえている。2月の初午の日、3月（旧2月）の初午の日には、厄除け祈願の修法が行われ、参詣の善男善女で境内はにぎわう。平安時代末に成立した『水鏡』は、この寺の初午のにぎわいを記す。

本尊の如意輪観音像は、わが国最大の塑像で、像高四・五㍍にも及ぶ。天平時代の作。白く塗られた坐像。坐って拝むと、目の前に伏し目がちの温顔。唇に塗られた紅がなまめかしく、春を感じる。

飛鳥資料館

桜井市から来る山田道に沿って、奈良国立文化財研究所飛鳥資料館は建つ。規模は小さいが、飛鳥の出土品がずらりと並び、展示もよく工夫され、飛鳥の歴史と文化がわかりやすく学べる。

門を入ると、前庭には猿石、橋を渡ると酒船石など、飛鳥の石造物のレプリカが勢揃い。

館内に入ってすぐ目につくのが石人像。像高1・7㍍。明治三六年に当館の西南の字石神から発掘されて、東京上野の国立博物館の裏庭に置かれ、道祖神の名で親しまれていた。飛鳥時代の庭園に噴水として使われたもので、サイフォンの原理で底から通じた孔を水が上がり、男の口に当てた杯と女の口とから溢れでるような仕組みになっている。異国風の風貌に注目。

石人像と共に掘り出されたのが須弥山石。三つの石を塔状に積み上げて須弥山をかたどったものらしく、総高2・3㍍ある。もとはもう一つ石があったらしい。この須弥山石にも小孔が穿たれて、水が吹き出すようになっている。斉明朝に蝦夷や南方の人をもてなすために造られたという須弥山は、このようなものであったと考えられている。

益田の岩船『大和名所図会』

コース概観

今回のコースは、飛鳥の謎の石造物にスポットを当て、飛鳥めぐりをする。飛鳥には、見なれない形をした花崗岩の石造物がところどころにある。須弥山石や石人像などの噴水施設を除くと、益田の岩船・酒船石・亀石・弥勒石・二面石・猿石など、用途のわからないものが多い。石造物の謎や不思議に迫る、おすすめのコースである。

近鉄南大阪線の橿原神宮前駅で下車。東口から9時13分発奈良交通バスの岡寺前行きに乗る。9時23分、飛鳥大仏前で下車。飛鳥坐神社の前を通り、飛鳥のことなら任せなさいという奈良国立文化財研究所飛鳥資料館へ向かう。徒歩約15分。ここには高松塚古墳の出土品などもあるが、今日のテーマである飛鳥の石造物の学習をしよう。

予備知識を頭に入れたら、資料館を出て飛鳥坐神社まで戻ろう。鳥居をくぐり石段を登るとそこは太古の静寂を保っている。境内のそこここに並ぶ陽石が神さびたあやしい光を放つ。子孫繁栄、子宝祈願のお礼に奉納されたという。陽石にちなんだ「珍々鈴」というお守りが楽しい。

飛鳥坐神社は、もともと飛鳥の神岡備山（雷丘とも甘樫丘とも言う）に鎮座していた。祭神は事代主神、高皇産霊命、大物主命、飛鳥三日比売命の四柱。平安時代初め天長六年（829）に、この鳥形山に移座したとか。宮司は飛鳥氏で、八十七代目になるという。社前の石段の途中に、

ほすすきに　夕ぐもひくき　明日香のや
わがふるさとは　灯をともしけり　迢空

という折口信夫の歌碑がたたずむ。ここ飛鳥家は折口信夫の父の実家でもある。

飛鳥寺から南へ進むと、天理教岡大教会の建物がある。手前の道を左折して、もう一度左折して緩い坂道を登ると酒船石がある。花崗岩の上の面に円や楕円の浅いくぼみを造って、細い溝で結んでいる。

酒をしぼる槽とも、油や薬の製造器説や砂金、辰砂をとるための道具説がある。この石の東のやや高い所で、ここへ水を引くための土管や石樋が見つかっていることから庭園の一部だという説もある。平成四年（1992）には、北西脇から整然と並んだ石垣が発見され、斉明天皇の両槻宮との関連が注目されている。

伝飛鳥板蓋宮跡を右に見て渡の集落に入る。石鳥居があり、岡寺という大きな石柱が立っている。この岡の集落は門前町として栄えたところ。石鳥居前の「くすりや」は昔の旅籠。多くの旅人が足を休めた。

ゆふまぐれ　久米を過ぎて　いにしへの
ゆきのをかに　一夜寝にけり　茂吉

石舞台古墳は、国営歴史公園石舞台地区として整備された山麓台地上に巨大な石組みを見せる。狐が月夜にこの上で女の人に化けて舞いをみせた、という土地の伝説から石舞台と呼ばれている。巨大な花崗岩を三十数個積み上げて作った、わが国最大級

の横穴式石室を持つ方墳。最も大きな南の天井石は、重さ75㌧と推定されている。蘇我馬子の桃原墓とする説がある。

川原寺跡は礎石や基壇が整備されている。整備された礎石はプラスチック。中金堂跡に26個の瑞礎（大型石）の礎石が残る。橘寺は、白壁の塀が印象的な寺。ここは

もと用明天皇の離宮で、聖徳太子はその厩で生まれたという。太子創建の七カ寺の一つ。二面石と呼ばれる不思議な石造彫刻がある。「右善面・左悪面・我々の心の持ち方を表したもの」と言われている。

亀石は地に這いつくばっている。眠っているのか、笑っているのか。はじめ東の方を向いていたが、だんだん動いて今のように南西の方に向いた。西に向けば飛鳥は泥の海となってしまうという。

鬼の俎・雪隠は、花崗岩の大石をくり抜いて造った石室（鬼の雪隠）と、その底石（鬼の俎）。古墳が壊されて石室が逆さまに転げ落ちたもの。

吉備姫王墓には、奇怪な姿から猿石と呼ばれている四体の石造物がある。うち二体には裏にも顔がある。

近鉄線の踏切を西側に渡るとすぐに岩屋山古墳。切石積みの石室を持つ。道標に従って歩いていくと牽牛子塚古墳。大きな凝灰岩をくり抜いて二室を造った合葬用の石室がある。山道のような道を歩き、白橿中学校、白橿南小学校の横を過ぎた公園脇から、今日最後の目的地、巨大な石造物・益田の岩船に登る。上の面を平らにして浅い溝を造り、四角い孔を二つあけている。

《コースタイム》

近鉄阿倍野橋駅（特急約35分）橿原神宮前駅（バス約10分）飛鳥大仏前（15分）国立飛鳥資料館（15分）飛鳥坐神社（10分）酒船石（30分）石舞台古墳（15分）橘寺（10分）亀石（15分）鬼の俎・雪隠（5分）猿石（10分）岩屋山古墳（10分）牽牛子塚古墳（15分）益田の岩船（15分）岡寺駅＝近鉄阿倍野橋駅

〈費用〉

近鉄阿倍野橋駅～橿原神宮前駅　590円
橿原神宮前駅東口～飛鳥大仏前　220円
近鉄岡寺駅～阿倍野橋駅　650円

〈地形図〉

2万5千＝畝傍山

〈問い合わせ先〉

奈良国立文化財研究所飛鳥資料館
0744554—3561
入館料大人250円　9時～16時（月曜休）
飛鳥坐神社　0744554—2071
石舞台古墳　0744554—4492
入場料大人200円　8時30分～17時
橘寺　0744554—2026
入山料大人200円　9時～17時
奈良交通テレフォンセンター
0742（20）3100

特選コースガイド(1)　奥美濃

残雪期の山、展望360度

野伏ケ岳

上級コース（★★★）

稲葉　克巳

三百名山の一つである野伏ケ岳（1674・3㍍）は岐阜と福井の県境尾根上にある。

野伏ケ岳は、笈ケ岳・猿ケ馬場山と共に登山道がなく、残雪期に登る山とされている。

登山基地となる石徹白集落は、昔、白山信仰の美濃側登山口として栄えた所で、上在所には白山中居神社がある。

石徹白への道は二つあるが、福井県和泉村朝日から石徹白川に沿った県道127号線は狭く悪く、4月10日頃までは通行止めになっている。

もう一つは岐阜県白鳥町から県道314号線を檜峠を越えて石徹白に入る道で、こちらの方が道幅も広く走りやすい。

白山中居神社の鳥居の前で左折し、50㍍ほど下って右折して橋を渡る。道はすぐに二分するが、左の道を下り、だいしん橋を渡る。橋の手前と向こう側に駐車できるスペースがある。

春先の頃だと、だいしん橋を渡ると、まだ一面の雪だ。橋を渡ってすぐに右折する。5分ほど歩くと道は二分するが、右にとり橋を渡って林道を登って行く。

2万5千の地形図では、標高1000㍍付近から1100㍍付近まで破線がつけられているが、この入り口には大きな赤布が下がっている。

始めは杉林の中を歩くが、そのうち、雑木林となって、前方が開けてくると、赤布が下がっている。1100㍍付近の林道との合流点だ。

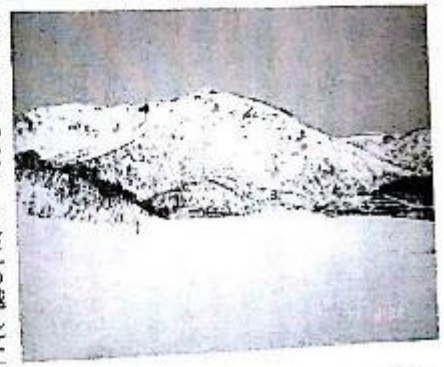
赤布から丘に登ると、正面に野伏ケ岳とダイレクト尾根が望見できる。そこから左の凹地へ下り、左に見えるピークの麓を目がけて一直線に進む。麓に着くと、トレースがついている。それまでははっきりしたトレースはなかった。左へ回り込むように5分ほど歩くと、湿地帯の上に出る。

新ハイのガイド書（『日本300名山ガイド』西日本編）では、「小ピークを二つ越して」とあるが、雪の多い時期は湿原を横断して、そのまま直にダイレクト尾根の中間点に取りつくほうが早い。

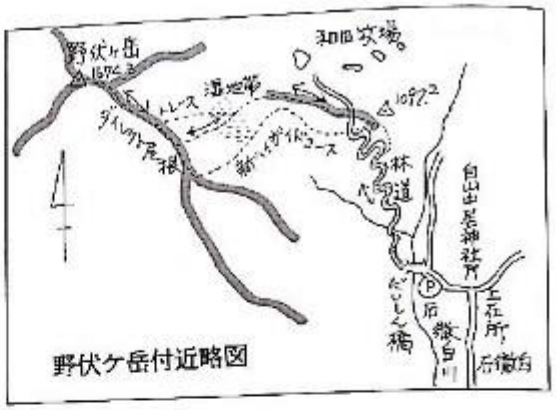
ダイレクト尾根は登るにつれて傾斜が増すから、取りついたら、すぐにアイゼンを着けるほうが無難だ。

最後の急登が終わると、北東稜の尾根と合流する。そこから、西へ向かって頂上をめざす。

頂上には3等三角点があるはずだが、一面の雪原で何も見当たらない。私たちが行ったときは、頂上とおぼしき所に樺が一本立ててあった。



野伏ケ岳



野伏ケ岳付近略図

山頂からは360度の大展望で、周りの山々が一望のもとだった。下りは往路を忠実に戻る。

登山時期としては、新ハイのガイド書では3月下旬から5月上旬がよいと説明されているが、私が行った4月11日には、頂上付近の雪には割れ目ができていた。4月下旬に行った人の話では、この割れ目で難渋したとのことだ。その年の積雪量や天候に左右されるが、4月15日頃までのほうが快適に歩けるのではないだろうか。

私たちが登った日、里では無風であったが、頂上付近では15～20㍍の強風が吹いていた。里で風が吹いている日は、頂上付近ではかなりの風に見舞われると考えておいたほうがよいと思う。

なお、ガスがたちこめて見通しの利かないときは、1100㍍あたりから先は見当がつかないと思う。

必携品はアイゼン・ストック・ゴーグル。

（平成7年4月11日歩く）

◇コースタイム◇

上在所（2時間）1100㍍地点（2時間）野伏ケ岳（3時間）上在所

〈地形図〉2万5千＝願教寺山・二の峰・石徹白

5万＝越前勝山

〈宿　泊〉

石徹白の冬はスキー客で賑わう。民宿も多いが、協会の薦めで泊まったのは、

上村　学　057-58（6）3246

新ハイキング選書

●日本山岳会選定●

話題の本

第15巻　好評四刷発売中

日本三百名山ガイド《東日本編》

第16巻　第三刷発売中

日本三百名山ガイド《西日本編》

市川静子／岡田敏夫／岡部紀正
川越はじめ／廣澤和嘉／共著

A5判　320頁
各定　価　1600円

発行所　新ハイキング社
東京都北区滝野川7－6－13
(03)－3915－8110
振替東京3－146915
●振替でのご注文は当社負担

特選コースガイド㉑

中勢

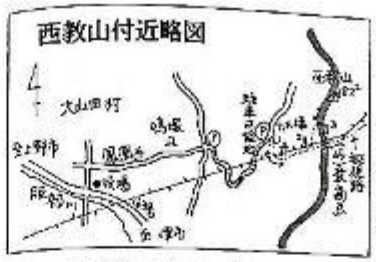
2等三角点のある山

西教山と高須ノ峰

山形　歳之

西教山　中級コース（★★）

三重県阿山郡の新大仏寺の北西にある西教山は、2等三角点が設置されている。



上野市から国道163号線を津市に向かって走る。服部川沿いを大山田村に入り、役場の所で左折し、風屋寺の集落に至る。

2万5千地形図では、村の中を蛇行する道は村を抜けると破線になっているが、実際には走行可能な道である。その先で広い林道と交差し、そのまま山に登って行く。さらに林道は延びているが工事中だったので、少し入った所の空地に車を駐めた。

林道を歩く。上方を高圧線が走っているので、地図を見ながら現在地を確認していく。当日は休日なので工事はしていなかった。下の林道の交差点から2㎞程登ると右に沢が近づいてくる。この沢を注意深く見ると、三本の丸太を束ねた橋が架かっている。ここが登山道の入り口である。林道の工事が済めばここまで車で入れるが、駐車スペースは見つけなければならない。

この道は鉄塔の巡視路で、植林の中を左に回り込んで最初の鉄塔に登り着く。ここから鉄塔の切り開きに出て、二番めの鉄塔を目指す。二番めの鉄塔からは尾根の林の中を少し登って、又切り開きにでる。

三番めは峠の一番高い所にあり、左手奥に西教山が頭を出していた。高圧線はここから下りとなり、道も下っている。西教山へは左手の尾根筋に取りつくはずだが、地図にある道がわからない。仕方なく50㍍ばかり戻をこいで植林の中の尾根に取りつく。

鳴塚から見る西教山

本当は二番めの鉄塔を過ぎた林の中で、巡視路と別れて尾根を登れば良かったのだが、巡視路につられてここまで来てしまった。

植林の中は歩きやすいものだが、打ち払われた枝や間伐材が縦横にあり、歩きづらいことこのうえない。やがて小さいピークを乗り越して山頂（688㍍・2㌢）に至る。

山の北西面は何ケ所も伐採され、三等点の周囲の木も、登頂板の付いたまま倒されていた。展望は良く南に青山高原のレーダーが望まれ、東には経ケ峰の山々が、眼下には服部川周辺の田畑が広がっていた。

風屋寺村の田の中に「鳴塚」と言われている小さい古墳がある。風が吹くと塚が鳴くとか。なかなか風情のある所で、一見の価値はある。

⇗コースタイム⇖

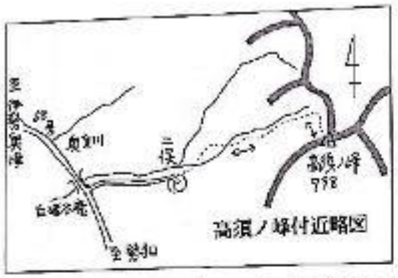
林道十字路（40分）巡視路入口（50分）西教山（30分）巡視路入口

⇗地形図⇖2万5千＝平松

5万＝津西部

高須ノ峰　上級コース（★★★）

名張から国道368号線を伊勢市に向かう。JR名松線の終点伊勢奥津駅を過ぎて、上多気の奥の美杉村と飯南町の境に高須ノ峰はある。



奥立川の集落を過ぎ、白猪谷橋を渡った所から、左へ延びる舗装された林道に入る。登山口に「奥新田林道」の標示がある。途中で農作業中の人に山の様子を尋ねたら、「植林の山だが道が不明瞭なので、登れるかなあ」という返事だった。

林道は1㌔程で沢の二俣の所で終わる。沢は大きく左折する方が本流で、登山道は直進する沢の右側にある。少し行って沢の中や左側を歩き、又右側に戻る。この辺りはやや不明瞭である。不明の時は沢の右方に見える掘建て小屋を目指せばよい。小屋の前に出ると道が明瞭になり、道なりに進み沢側の尾元に注意していると、道が分岐し枯れ木に赤いテープが何本か巻かれている。道は沢沿いに登って行くが所々不明になり、沢に降りたり斜面をよじ登ったり、小さい滝を巻いたりと、絶えず右側を登る。最後は急な岩盤の沢になり、ザイルが欲しいくらいの所に数本の赤いテープが付いている。見落とさないように注意すること。ここから右の急な尾根に道が延び、点々と何種類かの古くなったテープが付けられている。

山頂（798㍍・点名　上仁柿山）は林に囲まれて展望はあまりなく、木にはベニヤ板の山名板と「ノセ愛山会」の登頂板やテープが巻かれていた。

高須ノ峰山頂

下山は沢までテープを辿って下る。沢の急な所は登る時より危険なので注意して降りよう。

林道終点から見上げた山は、思ったよりも高く聳えていた。

⇗コースタイム⇖

林道終点（1時間30分）高須ノ峰

⇗地形図⇖2万5千＝伊勢奥津

5万＝二本木

山の本紹介

『徳島の静かな名峰』

県下の奥山、里山、高い低い問わず、選りすぐりの62座を紹介。コースガイド

●自費出版　定価1300円

〈申し込み・問い合わせ〉

〒770　徳島市住吉5の8の75

TEL　0886（25）7533

尾野　益大著

特選コースガイド㉛　西播

低山ハイクと歴史散歩
高御位山と石の宝殿

初級コース（★　）

安田　憲弘

JR山陽本線の電車が姫路に近づくころ、北側にもこもことした岩山が見えてくる。これらの山々の盟主が高御位山（304・2㍍）である。

石の宝殿は、山陽本線を隔てた南側にあり、『播磨国風土記』や『万葉集』の時代から、珍しい石の造形物として知られている。実はこの両者は密接な関係にある。石の宝殿をご神体として祀る生石神社の縁起塔記によれば、「（石の宝殿の）工事によって生じた屑石の量たるや又莫大であるが、この屑石を人や動物に踏ませじと一里（約4㌔）北にある霊峰高御位山の山頂に整然と積で置かれて居る」とある。

石の宝殿のある宝殿山（標高約60㍍）に立つと、ここから高御位山を遥拝したであろう古代人の心に触れたように感じる。

高御位山の〝全山縦走路〟

高御位山には縦横に路が通じていて、いかようにも選び得る。ここでは、JR曽根駅からスタートして、連山を尾根形につないで歩く〝全山縦走路〟を紹介する。

曽根駅から北へ、国道2号線の跨線橋を渡って北西方向の小道へ入って10㍍ほど進んだところから右手の細道に入る。取りつき点がわかれば、あとは一本道となる。すぐにちょっとした岩場を越え、石宝殿などがあって、156・0㍍の3等三角点に達する。低木の間を縫って進む尾根の道は、優れた展望コースである。一つ、二つとピークを越えて、急坂を鞍部へ下ると、右下の鹿嶋神社から登ってくる広い道と合流し、遊具やベンチの置かれた休憩所となっている。

ひと息入れたら、さらに北へ。そこは緩い斜面の岩場の尾根で、アルペン的雰囲気も味わえる。送電鉄塔や反射板をやり過ごして、次のピークへ登っていくと、亜鳴山に達する。東西二峰に分かれた双耳峰で、東峰の方に三角点標（4等三角点、264・2㍍）がある。

宝殿山から見る高御位山

亜鳴山からは東へ尾根を進む。展望を楽しみながら、緩やかにアップダウンする尾根をたどれば、この連山の盟主・高御位山に登り着く。高御位山の山頂は巨大な岩塊であり、これは、古代の人々が神の鎮座するところと考えた〝岩座〟そのものである。この岩座を、と言うより、高御位山そのものをご神体とする神社が山頂の東端にある。

山頂には方位盤が置かれているが、三角点標は見当たらない。見当たらないはずで、304・2㍍の三角点標の位置は、現在、山頂の神社の床下になっているとのことである（加古川市役所からのご教示による）。

さて、下山路は各方向にいくつもあり、これまたいかようにも選び得るが、〝全山縦走路〟は、成井へ下る石殿峠から離れて右下の、南東方向へ連なる尾根へと続く。取りつき口さえ間違えなければ、すぐに尾根近となる。途中、数か所で各方向へ下る道が分かれているが、とにかく尾根をはずさないように進む。所々に「全山縦走路」と記されたプラスチック板があって、よい目印になる。

二か所の送電鉄塔を通過して、さらに南下すれば、連山の南端部となり、道は左右に分かれる。〝全山縦走路〟は、右にとって、南西へ下る。小さなピークに54・5㍍の4等三角点標がある。下りきって、車道に出た所に唐鐘神社の大鳥居があり、北池バス停はすぐ。

石の宝殿

せっかくの機会なので、ここから近く、また、高御位山とも縁の深い石の宝殿を見学することにしよう。南東方向に見える竜山（92・4㍍）を目標にして、適当に車道を選んで歩けばよい。採石場となっている竜山の裾部のあたりが石の宝殿の位置である。

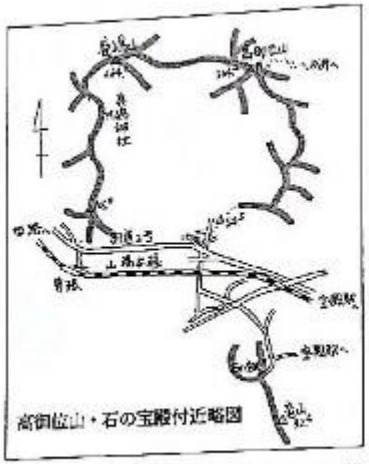
石の宝殿を祀る生石神社は、車道の右へ、急な石段を登った所。拝殿の奥に「石の宝殿」がある。高さ5・7㍍、幅6・5㍍、奥行き7㍍という巨大な石の造形物である。家型石棺が横に倒れた形、と一応は考えられているが、「いつ、だれが、何のためにこれを作り、なぜ横になっているのか？」となると、誰にもわからない。それだけに、見る人の想像力をさまざまにかき立ててくれる。

「石の宝殿」の彫られた〝宝殿山〟は全体が岩山で、拝殿の左横から簡単に登れる。山頂は平らな広場になっていて、真北に高御位山が見える。ここから見る高御位山は見事な三角錐形で、「まさに神南備山だ」と思わせる。宝殿山の山頂の広場は、神南備山としての高御位山を遥拝する〝祭祀〟の場所だったのだろう。そう考えるとき、「石の宝殿」の謎を解く新しい視点が生まれてこないか……。

『万葉集』巻三、生石村主真人の歌、

大なむち少彦名のいましけむ
しつの石屋は幾代へぬらむ

（平成7年4月15日歩く）



高御位山・石の宝殿付近略図

△コースタイム▽

山陽本線曽根駅（10分）取付点（30分）156㍍ピーク（30分）鞍部（50分）亜鳴山（30分）高御位山（1時間30分）54・3㍍ピーク（10分）北池バス停（30分）石の宝殿（30分）山陽本線宝殿駅

△地形図▽2万5千㌢加古川

特選コースガイド④　中勢

花いっぱいで展望良し

白猪山

初級コース（★　）

小山　ひろし

「白猪山　坂内川の上流で標高819・7㍍。市城の最高峰をなす。鎌倉郡飯南町の局ケ岳ならびに堀坂山と併せて三峰または三星と称する。明治十七年（1884）の飯高郡大石村に関する『地誌取調書』（大石町高田石生氏蔵）に『白猪山所在　大石村字白猪』として『形状　本村ノ西北ニ在リ、三村ニ跨リ之ヲ割有ス、概ネ本郡坂内村十分五、同郡深野村十分三、本村十分ノ七、本村地内ニ樹木ナシ、郡中屈指ノ大岳ニシテ、近郷ニ之ニ並グモノ、上仁柿村局ケ嶽・伊勢寺越阪山ナリ』とあり、『高　弐百五拾六丈』『登路　本村字タコヨリ登ル、最モ嶮岨ヲ極リ、嶽上マデ里程廿四丁』とみえている。」（平凡社刊・日本歴史地名大系第二四巻『三重県の地名』）より。

「白猪山」の項をそのまま抜き書きしたが、「鎌倉郡の局ケ岳ならびに堀坂山」の「鎌倉郡の」が、どこまでかかっていくのか曖昧である。また、『地誌取調書』の中の「十分五」以下の「十」が村がベースなのか、「白猪嶽」がベースなのかよくわからない。単純に足し算すると十分の十五になってしまう。

それはさておき昨年はイノシシ（亥）の年だった。久しぶりの山の賑わいに、眠れる猪も驚いたにちがいない。年が明け本来の静かな山に戻った頃、のんびり訪ねてみるのも一興だろう。眼下に櫛田川をはべらせ、花よし展望よしのなかなかの器量よしの山である。今回は、大石から登り夏明・深野へ下るコースを紹介したい。

近鉄大阪線・JR紀勢本線松阪駅から三重交通バスを利用、約35分で国道166号線沿いの「大石幼稚園前」に下車。マイカーで待ち合わせをする場合は、一つ手前のバス停、「大石不動前」を使うと便利。不動院の、国道に面した岩肌に群生する天然記念物のムカデランは一見の価値がある。大石幼稚園前バス停までは徒歩5分。ここがバス停から櫛田川、国道に背を向け、急な舗装坂道を山に向かうとすぐ右手に幼稚園がある。事の場合はこの辺りに駐車させてもらうとよい。

白猪山手前のピークにて

あとは川に沿って辿れば迷うことはない。野面積みの石垣の美しい坂の村だが、思いのほか広い。めったに人と出会わない。天然水を引いた池に、みごとな緋鯉がゆったりと休をくねらせている。時間もゆったりと流れている感じだ。どこが境かわからないが地図をみると、北谷、谷、都と字名が出ている。山が迫るにつれて坂はだんだんきつくなる。国道から1時間足らずで水量豊かな小谷を渡る。

アキノキリンソウ、ホトトギス、シシウド、シュウメイギク、ミズヒキソウ等、野草も豊富だ。春よりも秋の方が花の種類が多いようだ。このあたりでちょっと休憩、歩き始めてすぐそこに一軒家がある。表札はかかっているが常住かどうかはわからない。家を過ぎると道は一気に細くなり、正面にもう一軒の屋根がみえてくる。ここで右手の尾根道に取りつく。途中一、二脇道があるが踏み跡をひたすらたどれば、35分ほどで矢下からの登山道と合流する。「右矢下ニ至ル　左谷ニ至ル　大石駅迄（迄）約四・七粁　昭和三十七年二月」と刻まれた道標がある。この頃にはまだ松阪から大石までの電車が走っていたのだろうか。ちなみに大石不動の少し松阪よりに今でも駅舎だけは残っている。

なんだ坂こんな坂と唱えながら20分ほど行くと、いきなり視界が開け展望ベリーグッドの小ピークに出る。左手の杉林に石尊大権現の社がある。「白猪山、山頂400m。夏明約2KM」と標識が立っている。頂上は北東の方角へほぼまっすぐの登り。この辺り、イタドリ、タラの芽、ワラビ等、山菜の豊庫である。秋は数種類の野菊、カワラナデシコ、草丈20㌢位でも花をちゃんとつけているキキョウ等。野草ファンにはこたえられない所だ。しかしとるのは写真だけ。

白猪山付近略図

頂上まではゆっくり15分。尾根直下のなだらかな斜面に、木組みの展望台が設置されている。山自体が展望台のはずなのにどうして……と思ってしまった。三角点は斜面を登りきった右手1分の所。展望はきかない。

阪内コースは尾根を西にとりすぐに北に下る。夏明コースは、先刻の石尊大権現社を右手に西へ、そして一気に南に下る。夏明集落の車道までは往路以上の急坂である。急道を非ねているからか、ほとんどの部分がコンクリートで簡易補装されている。ジグザグ道ですべりやすいから要注意。大雨の中、この道をすべり台にして遊ぶ（？）たくさんのミミズを見たことがある。石尊大権現から10分ほどで道路正面に祠をみる。メインルートは左。右手は「下山用近道」とあるが、両者はすぐに合流するので大差はない。程なく、右手に「白猪石尊休憩所」と標示された五、六坪の錆びたトタン小屋がある。小橋を渡り五所平分岐点を通過すると、間もなく夏明集落の車道終点に降り立つ。頂上から約50分である。

夏明もまた野面積みと坂の、美しい日本の村そのものだ。途中、浄土宗寶泉寺境内で小休止。ここには「牛魂碑」なるものが立てられている。牛もまだ飼われている。松阪肉になるのだろうか。寺から国道165号線の深野バス停まで35分。途中イノシシ、もしかしたらイノブタか、が飼われているのをみる。

深野バス停から大石幼稚園前までは徒歩20分。深野大橋のたもとから旧道に入ると車が少なくて歩きやすい。マイカーの人はもうひとふんばりである。

（平成7年5月5日・9月22日・10月8日歩く）

△コースタイム▽

松阪駅前（バス35分）大石幼稚園前（1時間10分）登り口（35分）矢下道合流（20分）石尊大権現社（15分）白猪山（10分）石尊大権現社（40分）夏明の車道（40分）深野バス停（20分）大石幼稚園前

△地形図▽2万5千＝大河内・横野

ネパールトレッキングの旅

ポカラから ジョムソンとムクチナート（第1回）

山形歳之

「ポカラからゴラパニ峠を越えてジョムソンとムクチナート」。山岳旅行社のパンフレットに記された文字が目についた。

ネパールのトレッキングは数年前にエベレストに行ったが、初めてのことで張りきりすぎたものだから、高山病にやられてダウンした苦い思い出がある。結局その時はエベレストのBCまでは行けず、遠くから見るだけに終わった。

以後、自分は高山病に陥りやすいのではとの不安があり、海外の高山トレッキングは控えてきた。アフリカのキリマンジャロにも魅力を感じるのだが、4000㍍を超す山は断念している。

このポカラからゴラパニ峠越えのコースは最高でも3800㍍、高山病の心配は全くないとの話で、行ってみる気になった。

もっとも、テント泊まりが九泊もあり、もう中高年の高の部に入る私にとって、最期のトレッキングは最後のチャンスかとも思えたからである。

（1日目）大阪空港に集まった人達は、男性五人に女性が二人。添乗員を加えて九人のグループである。

大阪からまずタイ航空でバンコクへ。飛行時間6時間（時差1時間）タイ航空は何度も搭乗しているがサービスが良く、無料サービスのワインをおかわりしてひと眠りでバンコクに到着した。

真冬の日本から一気に真夏（34度）の国に来て着替えが大変だ。

バンコク市内は車の大渋滞で、空港からホテルへの道は日本の市街地以上の大混雑。車窓から見ていてもいらだちを覚える。しかしホテルは設備が良く落ち着けた。

ゴラパニ峠

日本で輸入されたタイ米は不評だったが、タイで食べたお粥も焼き飯も大変においしく、日本の米と大差ないように思えた。調理法によるのだろうか。

（2日目）朝、バンコクからネパールのカトマンズに飛ぶ。3時間余かかり、日本との時差は3時間15分。二度目のカトマンズは少しけぶっていて、雪の山は姿を見せず、町は太陽の下に暑く照り輝いていた。迎えの車で王宮周辺のシェルパホテルに入る。以前にも泊まったホテルだ。

午後、カトマンズ市内の商店街を散策する。古い木造の三～四階建が、狭い道路を挟んで両側にびっしりと並んでいる。一階はすべて商店で、家の前には二階まで商品がいっぱいぶら下がっている。店の中は狭く一、二畳の所に商品に埋もれて人々がうごめいている。所どころにある古いヒンズー教のお寺も巨大窟に取り囲まれていた。

狭い空間からわずかに青空が覗いて、暗くてまるで谷底のような路上を、インド人が、ネパール人が、それに観光客がひしめきあっている。

デコボコの煉瓦敷きの道にはゴミが舞い、人々のざわめきの中、自転車が、荷車が、リキシャが、バイクまでもが人混みを掻きまぜている。

このバザールには観光客向けのおみやげ屋よりも、市民の生活必需品の店のほうが多く、野菜や果物を並べた露天商がずらりと軒を並べている。

バザールを抜けると旧王宮前に出る。商店も姿を消し、道も広くなって少し静かになった。

ここにはカトマンズ観光の目玉である赤い顔の猿の神様ハヌマンの像がある。この像の裏のお堂の廊の柱には、ヒンズー教の神の男女交合のいろいろな姿態が刻まれているが、日本では見られないものだ。

生き神様の館では、庭の中央の石台にいくらかのお賽銭を置くと、建物の二階の小窓から神様の限取をした四、五歳の女の子がチラリと顔を出す。この少女が生き神様なのだが、観光客の我々には他愛ないものに見えた。王宮横の広場には、何十軒もの露天商がみやげものを店の前に並べている。どの店も同じ品揃えで、彫刻類や短剣・仏具のガラガラ・仏像・鐘・お面・アンモナイトの化石などが並んでいる。日本人と見ると商品を手にした店員が「千円！千円！」と連呼してどこまでも追ってくる。

（3日目）朝のカトマンズ空港は、各地に出発するトレッカーやマウンテンビューフライトの客で大混雑。日本人のグループも大勢いて出発待合室は足の踏み場もない。手荷物検査ではナイフばかりかガスライターまで取り上げられた。

有視界飛行で運行されているネパールの国内便は、今の時期、霧が立ち込めて毎日のように出発が遅れる。出発を待つ間に二、三人連れで旅行している日本の娘さん達と話したが、遠くパキスタンから回ってきたとのことで、彼女達の行動範囲の広さと勇敢さには驚くばかりだ。もっとも言人間の私が考える程に今の旅はむずかしいものではないようだ。しかし若い娘さん達はトレッキング中でも見かけたが、ついぞ男の子は見なかった。やはり昨今は女性のほうが強い。

やっと空港閉鎖がとける。運行されているのは全部プロペラ機で、20～30人乗りの双発機が20機余りも並んでいるのは壮観である。

ポカラ行きは30人乗りの双発機。軽々と飛び立つと低い高度で西に向かう。低く飛ぶので地上が箱庭のように見える。

ネパールの山は急斜面が頂上近くまで耕されて、能登の千枚田どころではない。何十段、何百段とあり、本当に耕して天に至るのである。それにしてもあんな山上では水はどうしてるのだろう。川沿いを一本の道が曲がりくねって走っていた。

カトマンズからポカラまでバスだと8時間かかるが飛行機だと40分である。砂利敷きのポカラ飛行場に着陸する。猛烈な砂ぼこりに周囲の人達はみんな目と口を塞いで

いる。天に聳える神の山マチャプチャレは、残念ながら曇り空のためその雄姿を見ることができなかった。

粗末な小さい空洞の建物の前には、私達のトレッキングをサポートする人々が待ちうけていた。荷物を担いで宿場の一軒に入っていくので私達も続いた。裏庭に石垣で囲われた広場があって、その一隅に簡単な屋根を取りつけた炊事場がある。まだあどけなさの残る若者達が何やら忙しそうに立ち働いていた。

広場に広げられた工事用のビニールシートの上に坐って、まず温かい紅茶の接待を受ける。そばではポーター達が荷物の振り分けや荷作りに忙しい。するとどこから嗅ぎつけたのか二人の男が大きな布包みを抱えて入ってきて、私達の前で包みを広げた。おみやげ売りである。何やら木彫りの像・チベット仏具・化石・トルコ石等カトマンズで見たものと全く同じ品物が目の前に広げられた。着いたばかりの私達はまだそれどころではないのだが……。

食事が出てきた。ナン（メリケン粉を焼いたもの）・じゃがいもの煮つけ・サラミソーセージ等、粗末だが味は悪くない。

予定ではポカラからトレッキングになるのだが、車道が延びているので行ける所まで車で行くことになる。日本ならホンコツ置き場でも見当たらないようなボロボロのバスがやって来ると、ポーター達がバスの屋根にテントや食料を次々に載せていく。

私達一行は九人。迎えてくれたのはサーダー（隊長）以下シェルパ（道案内やテント設営）三人、キッチンボーイ（炊事係）五人、ポーター十二人（うちな女三人）、計十八人の多勢で、総計二十七人の団体となってバスに乗り込んだ。

ボロバスはエンジンを唸らせて走り出す。乗り込んだシェルパの一行は、鼓型の小太鼓を叩いて声を合わせて歌いだす。ボロバスのエンジンの音に負けじとばかりに手を打ち、声を張り上げる。我々の歓迎の意味よりも自分達が楽しんでいるようだ。なかなか陽気な連中である。

車道はガタピシながら一応舗装がされていて、ポカラから川沿いに上流に向かって点在する村々を縫って行く。意外と車が多く、どれも同じようなボロバスが行き交う。私達のバスの前にも荷物を屋根一杯に積んだバスが走っている。

道はやがて谷を離れて山へと登り、山頂の村で停車した。ノーダラである。本来なら第一泊目の予定地だ。何か救ものを売る商店が二、三軒ある。ポリス・ステーションがあって、トレッキングのチェックポストになっている。ここには電灯が点いていた。

バスの荷降し

チェックを受けたバスはさらにデコボコ道を走って峠を越すと、今度は谷に向かってどんどんと下りだす。下の村にたどり着くと、「ここで降ります」とサーダーの声がかかった。仮小屋の食堂が五、六戸、軒

を連ねた街道の宿場である。ここはナヤコーラという所で、ゴラパニ峠へのトレッキング道の入り口になっていた。

車道から50㍍程下の谷に向かって一筋の道が下っている。沢には吊り橋がかかり、少し先でアンナプルナ内院から流れてくるモディコーラに合流している。トレッキング道はこのモディコーラ沿いを遡っていく。折から荷を一杯に積んだロバの一隊が我々と同じ道を登りだした。幅2㍍くらいの街道は、村の中は石畳が敷かれ、坂は階段になっている。

ロバ隊

ロバは背の左右にドンゴロス（麻袋）や木箱をつけて、五、六頭から二〇頭くらいが一団となり、吊り橋を渡って人と同じように登ってくる。先導のロバは毛の頭飾りを付け、首に大きな鈴をぶら下げて、ガランゴロンと音を立てながら人と同じくらいの速さで歩く。先頭のロバは後続が遅れると、立ち止まって待っている。これ幸いと休んでいるようでもある。馬子は最後尾からロバを追い立てながら歩いていく。

ロバと一緒では歩けないので、ロバ隊が近づいてくると、立ち止まってロバ隊を先にやり過ごす。ところが思ったよりこのロバ隊が多くて、下って来るのもあり、今日のテント場のビレッティまでの30分余りの間に四、五隊も追い抜いていった。トレッキング道はネパールの国道だから、さしづめロバ隊はトラック隊というところか。

ビレッティが今日の泊まり地。各ポインタにはそれぞれテント場があり、そばには小屋がけの炊事場が作られている。しかし他には何の設備もなく、ただ広場があるだけで、トイレも自分達で広場の一隅に穴を掘って設営する。前回の時はトイレが無くて、野糞ばかりしていた。今回はロッジのトイレ等も使用できたのでまずはよかった。

テントは屋根形（二人用）が六つ張られる。中にはマットが敷かれ、冬用のシュラフが準備された。シュラフには各自の名札が付けられ、トレッキング中は同じものを使用する。しかしシュラフも貴品ではないので、私は夏用のものを持参して二重にして使用した。シュラフカバーだけでも中に重ねれば気持ちがよいだろう。テントの設営はシェルパの担当だった。

炊事場では三台の石油バーナーが大きな音を立てている。先ず大きなステンレスのコップ一杯の温かいジュースが配られる。喉が乾いているのと寒いのとで、ジュースは大変に美味しく感じた。このジュースは昼食時や到着時ごとに出た。

日もだいぶ傾いた頃雲が切れ、谷の奥にアンナプルナの一峰が白い姿を見せる。ネパールに来て初めて見る雪山だ。

村の中を歩いてみる。五〇戸くらいの村だが、ロッジやレストランの看板を出した店が数軒あり、うす汚れた戸棚には、ほこりをかぶったビールやウィスキーの小瓶・コーラ・ファンタも並んでいる。物置きの

アンナプルナ・サウス

ような然事出来からはけっこういろいろな料理が出てきた。

テントでの第一夜を祝して乾杯する。大瓶ビール75ルピー（180円）、ポケット瓶のラム酒が70ルピー（170円）であった。ほこりのついたコップを汚い布で拭いて出されたが、山男山女の我々一行、気にする人は誰もいなかった。

（4日目）夜半に激しい雨の音がしていたが、朝には晴れ間も覗いている。6時半テントの中でシュラフを片付けていると、キッチンボーイがテントにやって来て、「グッドモーニング」と小型の洗面器にお湯を入れてゆく。テント内の私用の荷物を整理してポーターに渡す。外気温10度、暖かいのはまだ標高が低いせいなのだろう。キッチンボーイが次は大きな茶瓶をさげてモーニングティーを注いで回る。砂糖のたっぷり入った温かいティーがお腹に染みわたる。その後朝食が始まる。これが毎日繰り返される朝の行事である。

朝食のメニューは、コテコテのお粥・トーストと目玉焼き・バター・ジャム・紅茶といったところだ。私達が食事をしている間にテントが撤収され、ポーター達がそそくさと出発していく。我々は食事が終わってからゆっくりとシェルパを先頭に出発する。

ビレッティは街道の十字路になっていて、モディコーラ沿いに遡るとアンナプルナ内院に、右へ行くとノーダラからポカラに向かう。私たちはモディコーラを渡ってゴラパニ峠への支流沿いを歩いていく。街道沿いの家々は皆ロッジやレストランの看板を出している。家の前のテラスにはテーブルベンチが置かれ、店の棚には、きまってほこりを被ったビールやコーラの瓶と、何かビスケットらしいものやラーメンの袋が並んでいる。

すぐロバ隊がガランゴロンとやってくる。本当にロバ隊が多い。ゆるい登りを繰り返す。街道沿いにもパラパラと農家があるが、集落にはなっていない。見渡すかぎりの山の斜面の畑の中に点々と散らばっている。それぞれが自分の畑の中に家を建てているようだ。

庭先でひよこが走っている。どの農家でもたくさんの雛を連れた親鳥がいる。昔は日本でもよく見かけた竹で編んだおわん型の鳥籠が、珍しく思えた。ちょうど雛のかえった時期らしく、何か昔なつかしい風景である。

中に茶色や黒を交えた羽毛は全く鶏そのもので、名古屋コーチンそっくりなアヒルにびっくりした。最初は鶏かと思っていたが、ヨチヨチ歩きをするのでよく見ると、水掻きがあり嘴もアヒルのものであった。方々旅行している私でもこんなアヒルは初めてで、まさに鶏とアヒルの合いの子だ。そんなことがあるのだろうか？……。

所々にポリスチェックポストがある。トレッキング許可証のチェックを受けて、通行の確認が記入される。

ヒレの村で昼食タイムとなる。街道沿いのロッジのテラスで、のんびりと食事の出来上がるのを待つ。山の斜面は相変わらずすべて耕されて、はるか山上まで農家が点在している。街道からわが家に帰るだけでも大変な登りだろう。

昼食はポテトの煮っころがし・いんげん豆のお浸し・ナン・ソーセージ。時間をかけて食事をする。日本とは違った時間がゆっくりと過ぎてゆく。

歩き出すと又ロバ隊がやって来る。すれちがう時にはどうしてもロバを掻き分けて行くことになるが、ロバ達はおとなしく、人が来ればそっと避けてくれる。ロバが荷物を運んでいる時に体で押し退けても暴れもせず、ほんとうによく慣れたロバ達だ。

泊まり場風景

ヒレを出発して吊り橋を渡ると名瀑が待っていた。なおも見上げる斜面は全部耕されて、その間に点々と農家がある。石段の急登道がジグザグに続き、百歩行ってはひと息入れる。ポーター達も苦しそうだ。食事の後片づけをしたキッチンボーイ達が、食器やバーナー等の入った大きな籠を担いで追いついてくる。皆若くて小柄だが元気がよい。坂の途中の茶店でひと息入れる。何も注文しなくても、店の人達はいやな顔ひとつしない。昼食をとったヒレの店がいつまでも見えていた。ここの登りは500が程あり、2時間余りを費やしてやっと昼根上の村に出た。山上は天気が悪く、雨が降りだし寒さが襲ってきた。

小雨の中でテントの設営が始まる。今日はここワレリイで泊まるという。まだ午後も3時過ぎだが、ゆっくりと歩き早めに休む計画となっているようだ。寒い、しかし暖をとる設備は無い。脇の茶店に入ってロキシーを注文する。真っ暗な部屋の隅にちょろちょろと竈の火が燃えていたので手をかざす。部屋が暗くて最初はよくわからなかったが、火のそばには家族の人々が黒くうずくまっていた。

ロキシーは自家製の焼酎のことで、とうもろこし等の雑穀で作られる。透明でその時の出来ぐあいや店によって味もアルコール度も違う。醗酵槽から酌み出してくるので、少量になると、水を足しているらしく、だんだん薄くなってくるようだ。とても美味いという代物ではない。

夕方になると雨はみぞれとなり、寒くて仕方がない。こんな夜はテントに入りたくない。そばの茶店には貸し部屋があり、一人一泊20ルピー（100円）だと言う。テントからシュラフを抱えて部屋に入る。二畳余りの部屋に粗末な木のベッドが二つ、薄いマットと枕が置かれていた。部屋は隙き間だらけで、風が吹き込んでくる。テントのほうが暖かかったかもしれない。この後、各地の部屋を覗いて見たが、ここが最低のようだった。

食事用のテントが張られ、夕食をとる。ギョーザ・カリフラワーの煮つけ・豆の煮もの・スープ、何とか腹におさまる。食後、持ち寄りのウイスキーやラム酒でしばし歓談して部屋に帰る。いつしかみぞれも止み、北斗七星が満天に輝いていた。温度計は5度を示していた。

（次号につづく）

沿線ハイキングガイド

近鉄　京阪　阪急　南海　神鉄　山陽電鉄　叡電　京福
公開ハイク　歩け歩け大会　文学散歩　歴史散歩　その他

近鉄

▽近鉄ファミリーハイキング・新春ハイキング「伊勢初詣・二軒茶屋」　1月7日(日)雨天中止集合山田線伊勢市駅前(JR側)10時～10時30分〈コース〉伊勢市駅—月夜見宮—外宮—二軒茶屋—神宮徴古館—内宮—五十鈴川駅(約1㌔)　会費無料、参加自由、名古屋事業0593(54)7007

▽近鉄登山・お山開き「三峰山登山」　1月15日(日)雨天中止集合大阪線榛原駅前9時10分〈コース〉榛原駅(バス)櫻宇陀青少年旅行村(山麓きの神峠)—三峰山頂—菱宇陀青少年旅行村(バス)榛原駅(約10㌔)　＊アイゼン必携。地元の方が引率します。会費無料(バス代別途)、参加自由、上本町事業06(775)3566御杖村役場企画課07459512001

▽近鉄登山「霧氷の明神平」　1月20日(日)雨天中止集合吉野線大和上市駅前9時〈コース〉大和上市駅(バス)大又—明神平(周辺を登山)—大又—ふるさと村(希望者は実費でやはた温泉入浴可能)(バス)大和上市駅(約15㌔)　＊アイゼン必携、会費無料(バス代大人2710円小人1360円は別途)　定員300名電話申し込み制、天王寺事業06(624)0382～3

▽万歩ハイキング・歴史街道を行く・シリーズ大和十三仏巡拝「第5回西大寺～大安寺」　2月11日(日)雨天中止集合奈良線新大宮駅前9時30分〈コース〉新大宮駅—ウフナベ古墳—コナベ古墳—西大寺(釈迦如来)—唐招提寺(チェックポイント)—薬師寺—大安寺(聚四天王像・五、貧年生まれ寺9本尊)—大安寺前(バス)近鉄奈良駅(約12㌔)　会費無料(拝観料一か寺400円とバス代大人160円小人80円は別途)　参加自由、上本町事業06(775)3566

▽ほのぼのツアー「霧氷の高見山目帰り登山」　2月11日(日)雨天中止集合あべの橋駅東口テンメイトセンター7時30分〈コース〉あべの橋駅(電車)大和上市駅(バス)高見登山口—小峠—大峠—高見山頂—高見杉—高見野(バス)大和上市駅(電車)あべの橋駅(約10㌔)　＊アイゼン必携、会費480円、定員150名電話申し込み制、あべの橋駅東口テンメイトセンター06(624)0026

＊なお2月18日(日)にも同企画が催されます。

▽冬の長瀞梅まつり「樹氷登山・金剛山から高槻高原へ」　2月17日(日)雨天中止集合長野線富田林駅前5時35分〈コース〉富田林駅(バス)金剛登山口—金剛山頂—水越峠—葛城つつじ園—白髭谷登山口(解散)　会費無料(バス代は別途)、参加自由、天王寺事業06(624)0382～3

阪急

▽日刊スポーツファミリーハイク第23回元旦日の出ハイキング「宝塚自然休養林中山寺奥の院清澄神コース」　1月1日(日)雨天中止集合中山寺駅西口徒会館(宝塚線中山駅下車中山寺本坊西へ徒歩3分)6時20分出発〈コース〉中山寺—夫婦岩園地(初日の出)—奥の院—米谷高原—動物慰霊碑—清荒神参道—清荒神駅(約7㌔)家族向　懐中電灯持参、阪急電鉄創業開発部06(373)53326

▽スポニチヤングハイキング「阪急・能勢電鉄合同新春ハイキング」　1月21日(日)雨天中止小雪決行集合能勢電鉄ときわ台駅(宝塚線川西能勢口駅で能勢電鉄に乗り換え)10時〈コース〉ときわ台駅—吉川—新興道—リフト山上駅—妙見の水広場(昼食)—妙見山上—上杉尾根—吉川—妙見口駅(約9㌔中級向)　阪急電鉄創業開発部06(373)53326

神戸電鉄

▽性海寺鬼おどり見物ハイク　1月15日(日)雨天中止集合押部谷駅10時30分〈コース〉押部谷駅—近江寺—生吉神社—性海寺(鬼おどり)—押部谷駅(約10㌔家族向)　神鉄観光事業部078(521)03321

▽菖蒲屋恒尾根新春ハイク　1月28日(日)雨天中止集合鈴ガ滝公園(有馬温泉駅南800㍍)10時40分〈コース〉有馬温泉駅—鈴ガ滝公園—湯槽谷—湯槽谷峠—菖蒲屋尾根—六甲山最高峰—魚屋道—有馬温泉駅(約11㌔縦断向)　＊アイゼン必携、神鉄観光事業部078(521)03321

▽イヤガ谷東尾根と菊水山ハイク　2月11日(日)雨天中止集合西鈴蘭台駅10時40分〈コース〉西鈴蘭台駅—君影町—イヤガ谷東尾根—鵯越—菊水山—鈴蘭台駅(約9㌔一般向)　神鉄観光事業部078(521)03321

▽小野鶴池と近津神社ハイク　2月25日(日)雨天中止集合粟生駅10時25分〈コース〉粟生駅—近津神社—鶴池—大住橋—小野駅(約8㌔一般向)　神鉄観光事業部078(521)03321

山陽電鉄

▽山陽ハイキング「円満寺(五重の塔)であいの道ハイク」　1月7日(日)集合東二見駅下車鉄管本部前10時〈コース〉鉄管本部前—円満寺—(であいの道)—大中遺跡—鶴林寺—尾上の松駅(約13㌔家族向)　山陽電車ハイキング係078(941)6915～6

▽山陽ハイキング「鉢伏山・摂尾山ハイク」　1月21日(日)集合須磨浦公園駅下車山上展望園前10時〈コース〉須磨浦山上展望園—鉢伏山—おらが山—摂尾山—行者の滝—月見山駅(約8㌔一般向)　山陽電車ハイキング係078(941)6915～6

▽山陽ハイキング「山峰神社節分祭見物ハイク」　2月3日(日)集合山陽姫路駅下車城北公園10時30分〈コース〉城北公園—広峰神社(節分祭)—(山陽自然歩道)—氷室池—書写(バス)姫路駅(約13㌔一般向)　山陽電車ハイキング係078(941)6915～6

▽山陽ハイキング「壇位山随願寺鬼おどり見物ハイク」　2月11日(日)集合山陽姫路駅下車城北公園11時〈コース〉城北公園—白国—広峰山—随願寺(鬼おどり)—白国(バス)姫路駅(約8㌔一般向)　山陽電車ハイキング係078(941)6915～6

奈良交通

▽万葉の大和路を歩く会「春立つ春日野の道」　1月21日(日)集合奈良市内観光バス春日大社表参道9時30分〈コース〉飛火野—春日若宮—春日大社本殿—子持山—神社—二月堂—東大寺法華堂跡—北倉院前—奈良坂窓神社—元明天皇陵(バス)奈良駅(約7㌔)　講師武田川女子大学教授和田萃男氏、参加費は無料ですがテキスト代(400円)のほかバス代と弁当料などが必要

＊参加申し込み制7日前までにはがきか電話で＝630奈良市大宮町1丁目1の25奈良交通「万葉の大和路を歩く会」宛0742(20)3100

○新ハイ関西サービスチェーン

名峰・二上山登山　小仏峠—大白森—甲子・那須への縦走路　1名でも歓迎
ゆ・紫雲温泉(要タクシー約)　宿泊料金と内容

福島・二岐温泉
日観連　大和館

〒963—06
福島県郡山市天栄村二岐温泉
電話　0248—82—2702
FAX　0248—82—2706

秩父鉄道　クーポン券も
東武鉄道　利用できます

秩父　不動の湯
〒368
埼玉県秩父市山田2243—2
電話　0494—23—1126

富士登山・高山五湖
東海道自然歩道
(石割山・ハリモミ紅林)
三国山の麓
ペンション　コットンテール
〒401—03
山梨県南都留郡山中湖村平野
電話　0555—65—8515

太宰治記念館「斜陽館」
(国宝・岩木山見える)
JR中央線「猿橋」駅下車タクシー10分
バス20分登山口下車後徒歩2時間

山小屋　福ちゃん荘
〒104　山梨県富士吉田市上暮地2333
電話(自宅)0555(23)1433
(山小屋)0555(22)1215

せせらぎ

題字・小林玻璃三

今年の山行で特に印象に残る山は伊吹山。7月23日、醒井駅9時10分発の大垣行きに乗車。まず空席を見つけて冷酒一杯の幸。ほどなく検札がくると、いっせいに青春18きっぷが出たのには笑ったが、私は内心30歳もサバが読めた気分だった。中には青春81とおぼしき元気な御仁も。

近江長岡駅7時23分着、降りたのは三人だけ。タクシーを呼んで三合目まで行き、帰りの迎えを頼んでからユウスゲ咲く高原状の台地を行くが、まだ朝早いせいか人影もまばらだ。木陰もなく五合目に着く頃にはシャツも汗ばんだが、その分森林限界を超えて歩く気分は爽快だ。

七合目付近でイブキジャコウソウの群落を見つけ、顔を近づけると何やら涼しげな匂い。この花は芳香があるので薬草とも言うとか。

頂上では高山植物を保護する遊歩道を左回りで巡り竹生島を眼下にコーヒータイム。

琵琶湖上水空に遊る
万里晴雲日暮の中
……
（望　鳩果）

と詠まれているように、日本最大の湖だけあって、万三の広さが目に映る。だが湖の琵琶（楽器）の形は、広すぎて確認は到底出来ない。

高花はまだ百花撩乱とまではいかないが、それでも伊吹を冠したイブキボタン、イブキトラノオ、イブキアザミ、イブキコゴメグサ、などの花を愛でることができて、夜行列車で疲れた目蓋があったというもの。

三角点を測量所の傍らに見つけた瞬、そばにいた婦人が「この山は滋賀、岐阜両県にあるが、この三角点は滋賀県内にあるんですよ」と、県外から来たと知って親切に教えてくれたうえ、伊吹山麓や比良山地などの峰々を説明してくれた。その眺望は見事で、いずれにしても初めての山は新鮮だ。

「この山頂から冬の天気の良い日には富士山が見えるそうですが、ほんとうでしょうか」「さあ、どうでしょう」と話しているうちに彼女は「この山の東側は春日村（岐阜県）」と言い、『君が代』発祥の地で、

吾が君は千代に八千代にさざれ石の巌となりて苔のむすまで

よみ人しらず（古今和歌集）

のさされ石（県天然記念物）が実在するんですよ」などと楽しい話のあれこれ。また別の人からは「伊吹山は伊福貴、五十賀、異吹、伊布貴、伊夫伎とも書かれた（美濃雑事記）」と興味深いことも聞き、さらに思い出の多い山となった。

再びボタンキンバイ、オタカラコウ、カガイソウ、キンポウゲ、シュロソウなどの花を堪能してから、売店でかき氷を頬張って山頂をあとにする。

途中スケッチなどして近江の景観を満喫しつつのんびり下り、迎えのタクシーで近江長岡駅に戻る。

缶ビールを買い、15時05分発の快速に乗り込み、三回乗り換えで横浜駅22時13分着で「青春の旅」はハッピーエンドで幕。

（羅生　功）

8月、初めて大峯山系に入った。天川川合から狼平泊。翌、弥山、八経ケ岳、釈迦ケ岳を経て深仙ノ宿泊。三日目に前鬼、前鬼口へと下った。夜のシカの鳴声、深仙ノ宿で修行をする僧、地獄谷や七面山の絶景など思い出深い単独での山行でもった。

おっかなびっくりの二日目の縦走では、遭難捜索のヘリコプターが午前中後と頭上を飛び、緊張した。遭難者は大阪府のSさんという、私と同年代の男性であった。八日目に無事生還されたことは新聞にも大きく報道されたが、その発見場所が、修行僧の案じていた場所とは尾根の反対側であったのには驚き、なお疑問であった。

後日、NHKテレビの中高年登山者の事故を取り上げた番組で、当の本人Sさんが詳しく遭難の模様を語ってくれ、疑問は氷解した。Sさんが道を間違えた太古の辻から前鬼までの、その地点を私もよく憶えていて、印象に残る地点であったからだ。

テレビで拝見するSさんは人一倍慎重な方のようで、緻密な計画を立て、又、その計画が可能な健脚の持ち主だった。しかし、その超ハードな過密日の日程をこなすには、気象条件はもちろんのこと、絶えず足元だけを見て、遅延もふらず、前鬼口に17時40分発のバス時間に追いたてられて、ひたすら歩き続けねばならなかった。道を失ったその地点は視線を行く手の上方に向け、洞れ沢の対岸の崖に登る道をみる必要があったのだ。

山行に際して、いつも日程をあれこれ考えるが、余裕のない無理なスケジュールが起因なことで大きな落とし穴になることを肝に銘じたのである。（尾家　建生）

夢叶って今年6月に白馬に登ることができた。夜行長谷列車で行く予定が、6月の豪雨で線路が寸断されたため、夜行バスに変更。

早朝、猿倉に着き、専門登山ガイドの案内で7時登山開始。白馬尻から大雪渓へ向かう。先日の大雨で雪渓が崩れ、ジャリ雪渓と化していた。こんなことは、百年に一回あるかなしかとのことで、幸か不幸か歩くのはこのほうが楽らしい。ジャリ雪渓の底は、所々水が轟々と流れていた。アイゼンを使うこともなく、それでも登るにつれ、雪渓の感触が味わえた。やがて、周り一面にお花畑が続き、私の目を楽しませてくれた。頂上近くに来て、おやっ？　小雪渓がない。いつ通り過ぎたのか気がつかなかった。「先程のお花畑が小雪渓の所で雪渓は溶けてなくなっている」とのことであった。

やがて白馬山荘に到着。2900mの高さの所に、このような設備の整った広くてきれいな山小屋があったり、お洒落なレストランで生ビールが飲めるとは想像もしていなかった。

翌朝、夕食までのひととき、頂上付近を散策、リンドウやコマク

休憩昼食入浴も歓迎
10名以上マイクロバスで送迎
箱根仙石原温泉
福　島　館
〒250－06 神奈川県足柄下郡箱根町仙石原139
電 0460－4－9041

四季織りなす絶景高原のハイク
上高地・乗鞍岳へ　冬はスキー
けやき通りと味の宿・月見通り
温泉旅館　けやき山荘
〒390－15 長野県南安曇郡梓川村梓高原
電 0263－93－2555

さわやか信州
露天風呂　山吹の湯
温田中温泉（梓湖）
日野屋旅館
〒381－04 長野県上高井郡山ノ内町温田中温泉駅前
電 0269－33－3527－5

標高2000m雲上の温泉
源の丸高峰自然休養林
ハイキングにXCスキー
高峰温泉
〒384 長野県小諸市高峰高原
電 0267－25－2000

尾瀬、平ケ岳登山口
越後三山只見国定公園内
清四郎小屋
ほんものの手打そばと売店は
樹海
〒946 新潟県北魚沼郡湯之谷村
電 02579－2－2976（清四郎山）
または 02579－2－2306
2－5025

汗をたっぷり流せる温泉と
笹ケ峰牛のシャブシャブ
日本海の鮮魚と山の幸
ハイカーの宿
ナガサキロッジ
〒949－21 新潟県中頸城郡妙高高原町
電 0255－86－2261

妙高山の花、遊歩の花
妙高山と火打山
百名山を二つ登れる山小屋
黒沢池ヒュッテ
〒949－21 新潟県中頸城郡妙高高原町
電 0255－86－2246

海から昇る朝日と海に沈む夕日を眺め、山と海の両方が楽しめる、大佐渡縦走の拠点。昼と夜景に酔いながら語らいはずむ
国民宿舎　大佐渡ロッジ
1泊2食付き　7200円
〒952 新潟県両津市椎
電 0259－27－4570

サなど花との出会いを楽しんだ。

次の朝は4時頃からねむたい目をこすりながら頂上へと足を運んだ。やがて、5時15分、雲海の彼方から日が昇り始めた。何回見ても頂上から見るご来光と、山の神秘さに感動を覚える。

7時、白馬山荘出発。山頂を通り越して三国境へ。雪倉岳をバックに記念写真を撮る。

続いて小蓮華岳へ。長野県で一番高い山とか。そして白馬大池へ向かう。5分ごとにパノラマのような風景が変わるのはさすが標高の高い山だ。

11時に白馬大池に着き、「昨日にくらべ今日は楽だから楽だね」と話しながらお昼のお弁当を食べていたが楽なのもここまで、白馬大池を出発したとたん、ゴロゴロした大きな岩石を飛び飛びで登って行く。今年5月、八ケ岳山行でもこのような所があったなあ、と思いつつ少しの油断も許されず乗鞍岳までは登りばかりで、ここから天狗原への下りもゴロゴロした岩だらけの道であった。

ロープウェイ、ゴンドラと乗り継いで乗鞍高原に下り温泉につかった。二日間の汗を流し、無事帰途に着いた。

すばらしい山行でした。当面私の夢は、日本三雪渓を登頻することで、一昨年針の木雪渓を下り、今年崩れていたとは言え、白馬大雪渓を登ったので残りの一つもぜひ挑戦してみたい。

（前田　幸子）

白樺の樹間を通って秋の気配にちょっぴり染まった風が頬を撫でて行く。白色に少し黒色の混ざった煙が小さな煙突を通って流れている。ふと見上げるとそこに南八ケ岳の雄姿が聳えている。薪を積んだ一輪車を押す手を休めて頬一杯に髭をたくわえた男が、「そこの水を飲んでいきな」と声を掛けてくれた。小屋の前の小川のせせらぎに手を入れて飲もうとするが、何秒もつけていられない程冷たい。男は「俺は儲けなんて考えていない、ここで接待しているんだ」と胸を叩いたその顔は、自信に満ち溢れていた。

バーベキュー、味噌汁、創作、木製の風呂、ピカピカに磨かれたトイレ、嫌味のない応対、それが八ケ岳縦走の最終日に通り着いたオーレン小屋の印象だった。

「ここにはよ、おこじょ、むささび、やまね、かもしかがいてよ、秋にはきのこが一杯採れてよ、もう一度来なよ、うまいもん食わせてやっからよ、硫黄、天狗、横岳、赤岳の良さを教えてやっからよ」と盛り過ぎて一週間も経たない夜、火の入ったストーブを囲んで話をしてくれた。その男は「オーレンの熊さん」と呼ばれていたが本名は知らない。真夏のストーブと同様に不自然さが感じられなかった。小屋の入り口にSHCのマークの入った看板と、奥には「新ハイキング関西」の雑誌記事が飾ってあった。

（興梠　晴彦）

今年の7月から始まった、NHK教育テレビの「中高年のための登山学」を興味深く見ていました。その中でも特に「地図の読み方」については、それが山歩きの基本であることを再認識させられました。

日常の山行はほとんどガイドマップのみを頼りにしたもので、2万5千分の1の地形図など全く不必要との思いでした。この放送を見たのを機会に、2万5千分の1の地形図を購入し、それを色分けし、

日本最高位の温泉
（2400ｍ）
立山・室堂平
みくりが池温泉
連絡先
〒930　富山市五福末広町
電　076-41-0434

ハイキングに！　スキーに！
志賀高原　石の湯ロッジ
バス　熊の湯終点　歩1分
電　0269-34-2421
東京本社・東京都新宿区新宿3-20-15（新宿第2ビル）
㈱スポーツサービス
電　03-3341-0211

塩の道　三国街道
百八十七体「観音原」
ホテル
白馬ブランシェ
〒399-93
長野県北安曇郡白馬村いわたけ
電　0261-72-4452

館内より日本カモシカ行日20頃以上と、北アの雪形模様、北アの全体の大展望の湯、春は山菜等
長野市西・郷大風呂
あるぷすいん　満山荘
〒382　長野県上高井郡
高山村山田牧場・奥山田温泉
電　0262-42-2527

磁北線やコースを記入して使用しますと、それは新発見というに等しいほど使いやすく分かりやすいものでした。

なぜかということを考えてみますと、まずガイドマップより情報量が多いということ（ガイドマップは4万分の1が多い）。次に色分けをすることで山の高さと地形を一目で知ることができる。そして予定コースをガイドマップやガイドブックを調べながら記入することで、歩く道は、尾根か谷か中腹か、又まぎらわしい地形の所はどこかを事前に知る事ができる。最後に現地でそれらを確認し、修正や補正をすることもできる。そうして他人に持っていない自分だけの地図を作り上げることができるわけです。

自分の地図なのでより完全なものにしたいという思いが真剣な読図心を生み、それが結果的に分かりやすい地図づくりになり、安全な山歩きの最大の武器になるのではないでしょうか。

このことを確認しようと9月の「地図読み山行」に参加申し込みをしたのですが、雨天中止になり残念なかぎりでした。次の機会にぜひ参加させていただきたいと思っています。

（宮角　季夏）

新ハイキング誌（東京）には「山と酒の旅」と題するシリーズがあり、筆者は坂倉登喜子さんである。新ハイの会員であると同時に日本山岳会の名誉会員であり、女性だけの山の会「エーデルワイスクラブ」の会長でもある。女性の年齢を明かすことは失礼かもしれないが、明治生まれだから少なくとも84歳。

このシリーズは一冊の本にまとめられて関東編が新潮社から数年前出版された。次いで関西編を発行ための取材旅行が続いており、9月第1日、坂倉さんを案内して愛宕山を歩いた。さすがにはやくスピードはいささか衰えているが、歩調はしっかりしており、姿勢に老いは見られない。空也の滝から月輪寺を経て山頂に至り、愛宕神社に参拝した後、水尾に下った。

地酒は亀岡の「この花菱」。機械化を拒んで昔ながらの手造りで冬季醸造にこだわっている酒は淡麗豊醇。なるほど知られざるローカルの銘酒であった。

（塚元　一彦）

さわやかな風にコスモスが揺れる秋の一日、丹波の白髭岳へ登った。我が家からは、JR福知山線だけで行けるので、今までに五回程登っている。同じ山も季節やコースを変えると面白い。

今回は9月例会で取りつき点が不明だった国道橋のルートから登った。JR京都駅より車道を行くと、途中正面に白髭岳が見える。住山谷への車道を行かず、最奥の民家を過ぎ畑の間を行く。コンクリートの小橋の手前を右へ、小沢沿いに踏み跡を歩く（9月例会の時は一つ手前を右へ登り、この小沢に降りてきた）。

倒木が前方をさえぎって、少々うっとうしいがかまわず登りつめ、踏み跡なりに左へ行くと、やがてはっきりした尾根道に出る。この道を北へ行くと、共同アンテナの立つピークを経て、別ルートの谷道（結山陸を通る道）と合流し白髭岳に至る。

このコースは松茸山なので、シーズン中は入山禁止となるが、晩秋から早春にかけて、苦もなく歩きやすくなるだろう。近々、四斗谷のルートも探ってみたいと思っている。

（山科　邦彦）

春・秋　少グループ
白馬の自然案内します
白馬ファミリーペンション
和　田　森
〒399-93　長野県北安曇郡
白馬村八方和田野
電　0261-72-5551

登山歴20年のオーナーが白馬・小谷周辺のお花巡りへ案内
テントキーパー
一泊2食付き　6500円から
〒399-93
長野県北安曇郡白馬村おちくら
電　0261-72-2-51

八ケ岳南北縦走の中心地
59年秋新増築宴会専用室
木の香ゆう新浴室誕生水洗便所
オーレン小屋
一泊2食付き　6000円
4月末～11月末開設
〒391-02
茅野市豊平2220　小平奥天
電　0266-72-1279

日本唯一の女人禁制の山「大峯稲村ヶ岳女人ゴースとあり温泉・名水の里
山上（2,37山）の登山口
旅館　紀の国屋嘉八
1泊2食付　7,000円から
〒636-04
奈良県吉野郡大川村浜
電　07476-4-0309

10月の日曜日、基礎山岳の主催するハイキングに参加して、京都の最高峰皆子山に登ってきた。

山町柳駅に7時半集合で、バスに乗り平へ。そこから林道を歩いて表谷を登り始める。北山杉が林立して展望のない中を、高度をかせいでゆく。ブッシュも多く、これぞ京都北山という雰囲気だ。

山頂でもやはり周りはブッシュのため視界が悪かった。そんな中、かすかに望めた比良山系をつまみに楽で弁当を開いた。

（野藤　哲哉）

10月14日の土曜日に三郎山（935m）に登った。

谷は大岩も多く、淵りのない清流である。このような渓流を見ていると水を飲みたくなるし、夏の渓流での楽しい釣りを思い浮かべる。

橋の所で休んだ。煙草を吸いながら、下を流れる渓流を見ていた。その時ふとJ・J・ルソーがアルプスを徒歩で行き、つり糸から下を見る場面を思い出した。

三郎山の頂上から北側を見ると高島郡の山並みが見える。福岡県にこんなにも山があったのかと思うくらいである。三郎山から宝満山（800m）に行く尾根道は、山に来て良かったと思う所である。両側が切り立っている分水嶺の尾根道を歩いて行くと水場に出る。そばの木の枝にコップがひとつ置いてあった。そのなにげなさにうれしさを感じた。（武田　昭）

紅葉に彩られた芦生の山や渓谷に魅せられて、毎年10月下旬から11月上旬に、一、二度は同地を訪れることにしている。

10月29日は佐々里峠まで車を乗り入れて、高村茂野へのコースを往復してきた。北山をホームグラウンドにしているので、山系での私の未登のピークは数少なくなった。コース近くの大段（795・0m）はその一座だ。

峠から尾根に上がるまでは急登だが、それもわずかで、やがて緩やかな上り勾配になった。杉や檜の小規模な植林地を通り過ぎると原生林に入った。ブナやミズナラの大木が点在し、台杉とも呼ばれる芦生杉の巨木が佇む森は、これから向かう芦生の地と同じ様相だ。スタートして40分ほどで左へ大段との道標があるので従ったが、入り口付近は猛烈な笹藪で、取りつこうにも遠らしい所が見当たらない。「これは予想以上に大変だ」と気を引き締めてネマガリダケの密生する中へ突入した。「尾根を外さないように」と5分ほどもがいていたら、いくらか背丈が低くなった笹の中に踏み跡が見つかり、やがて細い道となって山頂まで延びていた。

三角点標石とその周辺は緑の苔に覆われていて、入山者の少ない山のようだ。樹間ごしに山並みが見えるが、地図を広げて山名を拾うほどの眺望でもない。一帯は、ブナ族が主体の、芦生杉・赤松・樅などとの混合林だ。芦生方面への斜面に、ブナの幼木の群が広がっていた。北山でもこれほど大量にブナが育っていることを知り、うれしくなった。

往復1時間ほどで元の分岐に戻り、茂野へ向かう。紅葉まっ最中の尾根道を気持ちよく北上して行くと左前方が開けて、白尾山を中心とした雄壮たる峰々が望めた。やがて右手も展望が良くなり、ブナノ木峠や乗越など、芦生の背骨ともいえる山々が指呼の間だ。さらに、その左奥には若丹尾根が現れ、八ケ峰から西へ続く稜線が紫色にかすんでいた。道は、谷の源頭をトラバースする所が一ヶ所だけ10mほど崩壊しているものの、はっきりと茂野まで下っていた。

高村茂野には、茂野谷を挟んで五、六軒の家屋があったようで、石垣が残っていた。墓地や社の跡などが残っていないかと周辺を探したが、草深くて何も見つけられなかった。トロッコの軌道を横切り由良川源流へ降りた。6～7mの川幅で、澄みきった水がゆったりと流れていた。黒い体と銀色の足を持つカワガラスが、「ピッピッ」と鋭く鳴きながら川面で遊んでいた。この水と豊かな森が、茂野の人々の生活を支えていたのだろう。

昭和三十六年に、芦生では京大演習林事務所などのある須後まで電気が入ったのだが、茂野はその恩恵に浴さなかった。それを機に、村人たちは一斉に村を捨てたと聞く。旧茂野村は、失われた過去へのノスタルジックなロマンを秘めて、ゆっくりと大自然に還りつつある。（前中　藝）

山行ブームの中で京都一周トレイル・東山が選定されてから早や二年近くなる。

このトレイルは比較的整備されているが、少しお願いを述べさせて頂くと、①道標の矢を案内図にも記してほしい。②道標の矢印の行き先と距離を書いて欲しい。既に心ある人によって記されている個所も散見するが。

すべてがトレイル通りの道では興が薄いという、山に愛着のある方に出発点から今熊野までの脱道を案内しよう。

JR藤森駅から表参道の石畳をまっすぐ進んで本殿へ。参拝して本殿左横の石段を登り、さらに右へとって千本鳥居を潜り、奥社に至る。左方の鳥居を抜けすぐ右へ脱道を登る。急に人通りがなくなり深い木立ちの中を進むと神宝神社の前へ出る。この辺りは「竹ノ下道」と名付けられている。

ここで一汗拭い、左側木立ち、右側竹藪の中を行くと滝の音が聞こえてくる。弘法の滝である。中央が右側になった道をそのまま進み青木ケ滝を過ぎ、日本印刷大社の前を通り、白菊ノ滝に着く。ここから稲荷山西麓の深い谷へ入る。右に御剣社が鎮座する。右側はせせらぎが流れ、かなりの勾配の舗装道がずっと奥へ延びていて、時々末社へ信者の参詣があるほかは静寂と陶淳が身に沁みてくる。

末広社の所で道は二つに分かれ、左手は急なジグザグ坂で一の峯の直下に出る。右の道はお家群の中を渡るようにして石段が続き、最も高所の大岩神社から、伏見区と山科区の境界あたりのピーク207mに達し、尾根を辿って一の峯に着く。

一の峯からは裏参道のいくつかの石段を下り、春繁社の前を過ぎ、薬方社の茶店の横から、「右大石街道へ」の石標に従い右へとる。鳥の鳴声だけが聞こえ、人の気配のない山腹を行くと、五社の滝から山科西野山へ抜ける道に出る。

昔、12月の義士祭の時は小学生達がこの道を越えて大石寺へ参詣したものだが、今では雨水の浸蝕に加えて台風のため倒木が重なりすっかり荒道化している。先の合流点から右へ国有林界のバリケード沿いに進み、山科の市街を竹藪越しに眺めながら平坦な尾根が続き、やがて東山テニスクラブの上部に出る。テニスクラブから左石蹴へ出る。ここからも山科の里の眺望よく、十億円の費用がたのしめる。

峠からは府道勧修寺今熊野線なりに西へ下り、正規のトレイルNo.10の道標に出会う。ここまで所要時間はゆっくり歩いても約2時間である。（芝野　泰明）

10月山行等報告

6日　Ⅱ△白矢岳下見。

7～8日　やまと地形図の会案内。

鈴鹿兵衛沼。高野辻へ、22名。

10日　点のつどい例会案内。Ⅱ△白矢岳へ。参加34名。

15日　Ⅲ△貝留弥山下見。

16日　大和歩歩会例会案内。東海自然歩道（大野寺～門森峠～草穴神社～宇野川橋）。参加28名。

18～19日　大和歩歩会有外案内。

経塚右下～開拓～感望石～イチタボ～小滝温泉泊　晩り文谷の滝。水分社～流川寺～北山辺。15名。

21日　関西地区の会例会案内。中太郎生～Ⅳ△清水平～仙山峠～Ⅲ△貝留尊山～太郎滝。参加117名。

23日　Ⅲ△大森（2万5千「十津川温泉」）へ。計340点　87%。

25日　伏見公民館　大和水紀行案内。みたらい渓谷。参加35名。

（上田　伸弘）

九州の最高峰・日本百名山
宮之浦岳に一番近い宿
屋久島安房巻山口

屋久島グリーンホテル

〒891-43
鹿児島県熊毛郡屋久町安房
電話　0997-46-3021

ハイキング・キャンプに！
鈴鹿国定公園

鈴鹿渓谷　あさげ茶屋

〒510-12
三重県三重郡菰野町千草
電話　0593-93-1789

○「せせらぎ」欄は自由投稿です。最新の情報をお寄せください。

山行の報告文・思い出・感想など。又山歩きやハイキングについての提言やご意見、自然に関するさまざまな情報をお待ちしています。

一行15字詰めで20行（300字）程度にまとめてお寄せください。常時投稿可。

新ハイキング関西編集室

山行計画

新ハイキングクラブ関西

このページの山行計画には、「会員に限る」と特記してあるほかは会員外の方でも参加できます。一人ずつ往復ハガキに記入例によって申込んでください。「費用」のほかに参加名簿代、その他の資料代実費を頂くことがあります。

山行申し込み後参加できなくなった場合は急いで係に連絡してください。体調の悪い方、幼児と飛び入りはお断りします。

例会の参加者全員に傷害保険がかけられています。出発点呼の際、係に保険料（日額50円、宿泊日帰りの場合は2日になり100円）を支出して頂きます。（AIU保険会社と契約）

傷害保険特約内容は次の通りです。

死亡・後遺障害保険金額		1000万円
入院保険金	日額	5000円
通院保険金	日額	2500円

保険の対象は集合時から解散時まで。事故があった場合は解散までに係に申し出て下さい。この保険に該当しないものには次の通りです。①ピッケル・5本爪以上のアイゼン・ザイル・ハンマー・ワカンを持参することを明記した山行　②スキー使用の山行　③沢・岩・氷雪登はんを目的とした山行　④宿泊場所内の事故（詳細は係まで）

（記入例）

（往復ハガキを使用）

山行き申込み書

山行

期日

住所 〒

電話番号

氏名

会員番号
（会員でない方は会員外と記入）

生年月日

緊急時の連絡先

返信ハガキの宛て名欄にご自分の住所氏名を記入してください。

比良・権現山から蓬莱山（中級向き）

期　日　1月7日(祝)　日帰り
集　合　京阪出町柳駅バスターミナル8時
コース　出町柳駅（バス）平ーアラキ峠ー権現山ーホッカ山ー小女郎池ー蓬莱山ー打見山（ゴンドラ）山麓駅（バス）志賀駅（解散16時30分頃）
費　用　約4000円（交通費）
地　図　昭文社＝「46比良山系」
係　◎村田智俊　○吳比裕美
申込み　〒610ー01城陽市寺田大薮10の10　村田まで
雪原の比良南部を縦走する。アイゼン持参のこと。小雨決行

平日木曜ハイク17

新年会山行

二ノ瀬ユリから鞍馬寺（一般向き）

期　日　1月11日(木)　日帰り
集　合　叡山電鉄出町柳駅8時30分
コース　出町柳（叡山電鉄）二ノ瀬ー夜泣峠ー滝谷峠ー奥貴船橋ー貴船神社ー鞍馬寺ー仁王門ー「杉の里」（新年会）ー鞍馬駅（電車）
費　用　約5000円（交通費）
地　図　昭文社＝「57大合ケ原」
係　◎山田義治　○山田義治
申込み　〒610ー01城陽市寺田大薮10の10　村田まで
定員40名

雪水のきれいな明神平をめざします。小雨決行

鈴鹿・御所平（やや健脚向き）

期　日　1月27日(日)　日帰り
集　合　JR関西本線亀山駅前8時30分
コース　亀山駅ー坂本ー石水渓ー御所谷ー御所平ー御所谷ー石水渓ー坂本ー亀山駅
費　用　100円（交通費各自）
地　図　5万5千＝伊船
係　◎尾崎英五　○稲垣愛夫
申込み　〒519ー03鈴鹿市大久保町2065　稲垣まで

御所谷から登ります。雨天の場合、コース変更あり。雨天決行

＊マイカー参加の人はその旨を申込ハガキに記して下さい。

大峰・弥涼山から四寸岩山（中級向き）

期　日　1月28日(日)　日帰り

出町柳（解散18時10分頃）
費　用　8000円（交通費・保険代・宴会費・文献金共）
地　図　昭文社＝「47吉野北山」
係　◎前中　敏
申込み　〒610ー01城陽市寺田大薮10の10　新ハイキング関西まで

北山の代表的なユリ道の二ノ瀬ユリを歩く。鞍馬寺で初詣のあと新年会。鞍馬地蔵のすき焼きはうまい！　ご期待下さい。雨天決行

養老・養老山系（一般向き）

期　日　1月14日(日)　日帰り
集　合　養老公園バス停9時
コース　養老公園ー三方山ー笹ケ原ー小倉山ー笹ケ原ーアセビ平ー養老公園
費　用　保険代50円（交通費各自）
地　図　2万5千＝養老
係　◎賀見　宏康
申込み　〒610ー01城陽市寺田大薮10の10　新ハイキング関西まで

冬子伝説で有名な養老の滝を懐に抱く養老山系を訪ねます。絶景から雄大な濃尾平野の眺望を望みます。小雨決行

＊マイカーの人は養老公園に駐車場があります。

内吉野・ドウトク山から百貫岳（一般向き）

期　日　1月15日(祝)　日帰り
集　合　近鉄下市口駅9時20分
コース　下市口駅（タクシー）清水ー地蔵峠ー鳳凰寺ー百貫岳ー吉野山ー吉野駅（解散）
費　用　約3000円（交通費）
地　図　2万5千＝中戸・吉野山
係　◎福本的作
申込み　〒545大阪市阿倍野区西田辺町1の1の7　福本まで
定員20名（会員に限る）

山頂からの展望は望めませんが、静かな山歩きが楽しめます。若干数コギがあります。軽アイゼン持参のこと。雨天中止

台高・明神平（中級向き）

期　日　1月21日(日)　日帰り
集　合　近鉄榛原駅前8時
コース　榛原駅（バス）大又ー大又林道ー明神平ー大又（往復コース）（バス）榛原駅（18時30分頃解散）
費　用　約5000円（交通費）
地　図　昭文社＝「57大合ケ原」
係　◎村田智俊　○山田義治
申込み　〒610ー01城陽市寺田大薮10の10　村田まで
定員40名

鈴鹿・御所平（やや健脚向き）

期　日　1月27日(日)　日帰り
集　合　JR関西本線亀山駅前8時30分
コース　亀山駅ー坂本ー石水渓ー御所谷ー御所平ー御所谷ー石水渓ー坂本ー亀山駅
費　用　100円（交通費各自）
地　図　2万5千＝伊船
係　◎尾崎英五　○稲垣愛夫
申込み　〒519ー03鈴鹿市大久保町2065　稲垣まで

御所谷から登ります。雨天の場合、コース変更あり。雨天決行

＊マイカー参加の人はその旨を申込ハガキに記して下さい。

大峰・弥涼山から四寸岩山（中級向き）

期　日　1月28日(日)　日帰り

新ハイ特別企画

アンナプルナ・ダウラギリ・パノラマトレッキング（一般向き）

期　日　4月6日～14日
コース　成田＝カトマンズ(泊)＝チャンドラコット(泊)ーガンドルン(泊)ータタパニ(泊)ーナヤコラパニ(泊)ーカトマンズ(泊)ー(機中泊)ー羽田
費　用　約27万3千円
申込み　〒330人宮市宮原町4の87の1　高柳生雄(係)へ2月29日まで

春のシャクナゲトレッキングです。申込み者には後日詳細を連絡します。関西空港でも帰宅できます。わからないことは左記に電話下さい。

電話　0430ー86ー0218　高柳または

アルパインツアーサービス株式会社　（担当）見末　証

電話　03ー3503ー1911

集　合　近鉄下市口駅9時30分
コース　下市口駅（タクシー）栃
滝―栃原山―稜線―新栃
原峠―四寸岩山―青根ガ
峰―鎧岳の滝―大滝（バ
ス）―上市駅（解散）
費　用　約4000円（交通費）
地　図　2万3千＝吉川・新子
昭文社―「52大峰山脈」
係　◎福本清作
申込み　〒545大阪市阿倍野区
西田辺町1の1の7　福
本まで
定員20名（会員に限る）
柏原山から大峰山系の展望は素晴らしい。四寸岩山は数の中。尾根道は一部崩れをコギますが、下山はよく踏まれた表登山道へ出ます。アイゼン持参のこと。雨天中止

京都北山歩き40
桟敷ケ岳（一般向き）
期　日　2月4日(日)　日帰り
集　合　京都地下鉄北大路駅下車
北大路通烏丸西北角滋賀
銀行前9時
コース　北大路駅（タクシー）祖
父谷林道―郡ながめの岩
鉄塔広場―桟敷ケ岳―鉄
塔広場―西谷―岩屋橋バ
ス停（バス）北大路駅・
出町柳駅
費　用　約3000円（タクシー
代等交通費）
地　図　昭文社＝「47京都北山1」
係　◎山西紀行　○前定保夫
申込み　〒610―01城陽市寺
田大畔10の10　村田まで
雪の桟敷ケ岳を最短ルートで登ります。下山は愛宕峠への尾根道を西谷へ下ります。小雨決行

平日水曜ハイク1
愛宕山（一般向き）
期　日　2月7日(水)　日帰り
集　合　清滝バス停9時
コース　清滝バス停―梨の木谷―首振地
蔵―愛宕山三角点―愛宕
神社―月輪寺―空海の滝―
清滝バス停（解散16時頃）
費　用　保険代50円（交通費各自）
地　図　昭文社＝「47京都北山1」
2万5千＝京都西北部
係　◎湯浅次男　○岡田　昇
申込み　〒610―01城陽市寺
田大畔10の10　新ハイキ
ング関西まで
皆さんに親しまれている愛宕山の雪中登山を試みます。冬山歩きのトレーニングに。小雨決行

笠岡諸島めぐり
白石島と真鍋島（初級向き）
期　日　2月11日(祝)～12日(日)
1泊2日
集　合　JR京都駅7時46分発・
大阪駅8時22分発の急行
行きに乗車
コース　（11日）京都・大阪（電
車）笠岡駅・港（乗船）
白石港―白石島めぐり
（3時間）―白石港（乗
船）真鍋港―宿（泊）
（12日）宿―真鍋島めぐ
り（3時間）―真鍋港
（定期船）笠岡港・駅
（解散）大阪・京都（解
散9時頃）
費　用　約25000円（交通費・
宿泊代・保険代）
宿　真鍋島「久乃屋別館」
地　図　2万5千＝白石島
係　◎村田智愛　○山崎義治
申込み　〒610―01城陽市寺
田大畔10の10　村田まで
定員20名（会員に限る）
暖かい瀬戸内の島をめぐる。白石島では立石山へ、真鍋島では山の神へ。早春の花がいっぱい咲いています（本誌14号28頁参照）。雨天決行

文学歴史散歩28
飛鳥に石造物を訪ねて
（一般向き）
期　日　2月18日(日)　日帰り
集　合　近鉄橿原神宮前駅前9時
橿原神宮前駅（バス）飛
鳥入仏前―国立飛鳥資料
館―飛鳥坐神社―酒船石―
石舞台古墳―川原寺―亀
石―鬼の雄　雷丘―橘寺―
岩屋山古墳―木ノ子塚古
墳―益田の岩船―岡寺駅
（解散）
費　用　約2000円（近鉄阿倍
野橿原駅起点交通費・保険
代・入館料）
地　図　2万5千＝畝傍山
係　◎松永憲一
申込み　〒580松原市岡2の2
の22　松永まで
自分の足で飛鳥の土を踏んでみると、思わぬ幻想がわいたりします（本号60頁参照）。雨天決行

尾張本宮山・信貴山（初級向き）
期　日　2月18日(日)　日帰り
集　合　大山市大県神社10時
コース　大県神社―信貴山―本宮
山―大県神社
費　用　保険代50円（交通費各自）

地　図　2万5千＝大山・小牧
係　◎鷲見守康
申込み　〒610―01城陽市寺
田大畔10の10　新ハイキ
ング関西まで
尾張三山の一つ、本宮山とその隣の信貴山を訪ねます。小雨決行

音羽山・高塚山（一般向き）
期　日　2月18日(日)　日帰り
集　合　京阪京津線大谷駅前9時
コース　大谷駅―音羽山―パノラ
マ台―千頭岳―高塚山―
醍醐三宝院（解散16時頃）
費　用　保険代50円（交通費各自）
地　図　2万5千＝京都東部南部
係　◎村田智愛　○上村　豊
申込み　〒610―01城陽市寺
田大畔10の10　村田まで
展望のよい音羽山に登り、パノラマ台から千頭岳・高塚山に足を延ばし三宝院に下る。小雨決行

平日木曜ハイク18
北摂・中山（一般向き）
期　日　2月22日(木)　日帰り
集　合　阪急宝塚駅10時
コース　宝塚駅―中山寺奥ノ院―
中山三角点―宝塚駅西口―
最明寺―阪急山本駅（解
散15時30分頃）
費　用　保険代50円（交通費各自）
地　図　昭文社＝「50北摂の山々」
係　◎前中　毅
申込み　〒610―01城陽市寺
田大畔10の10　新ハイキ
ング関西まで
好展望の中山連山を縦走する。下山路には岩場があり、慎重な行動が望まれます。雨天中止

逆三山から鎧岳（一般向き）
期　日　2月25日(日)　日帰り
集　合　南海高野線三日市駅改札
口8時40分（解散発8時
00分の急行で）
コース　三日市駅―延命寺―グヌ
ギ峠―田山―府庁山―鎧
岳―南海千早口駅（解
散15時30分頃）
費　用　約1200円（難波より）
地　図　昭文社＝「52金剛山・岩湧山」
係　◎奥村誠治
申込み　〒646泉本市城山台2
の39の7　奥村まで
大阪近郊の低山で、冬でも手軽に静かな山歩きが楽しめます。小雨決行

山行報告

新ハイキングクラブ関西

太田の滝から峰山高原
9月3日(日)　曇りのち晴れ
JR琵琶湖駅9・10（集合）20（発）
JR寺前駅10・20（発）南小田発
電所11・20―太田の滝12・40（昼
食）13・15―太田池13・40～14・
00―峰山レークセンター15・40～
17・10（着）JR琵琶湖駅18・20
（解散）
太田の滝へのコースに林道が開かれ登山道探しに時間をくう。山上湖では近代的な雰囲気にカメラのシャッターを押し、峰山レークセンターまでは開通間もない林道を歩き、晩秋山を中心とする峰山高原の展望を楽しんだ。晩秋山は次回にしてセンターの温泉で疲れを癒しサッパリして帰途につく。
（参加者）島田芳子　千葉千枝子
中尾　勉　奥村三枝　三木良子
深坂　寛　深坂昌子　中山浩志
吉田誠宏　岡田　昇　西田恵美子
中村晋吾　小田潤子　藤岡京子
葉田幸子　細　久子　井上　保
今村　眞　三宅　明　西西英一
○今津省司　◎奈良岡　緝
（計22名）

丹波・白髪山（地図続み12）
9月3日(日)　小雨のち晴れ
JR京都駅8・40（発）9・00―
佐山9・35～10・10―林道終点10・
45―白髪山12・30（昼食）13・50―
松尾山分岐14・40―四ツ辻14・55―
文保寺15・00～20―JR篠山口駅
16・25（解散）
前後来の雨は駅着合時には止んだ。地図続みの勉強をしながら歩き山頂に達したが、ガスが湧くて速度が利かなかったのが残念。7
22名の山にしてはハードなコースだった。
（参加者）佐藤敏夫　小出九三雄
増田國宏　川上久雄　下川三千子
松井郁水　四方静美　四方静子
吉岡信男　福井清之　原田義美
原田克子　山崎貞夫　山下知金子
前田敬雄　和田直樹　山科静彦
浦長久男　辻本富子　野口　修
布施清美　青木一雄　阪口千鶴子
岩崎邦夫　○中村　豊　上田千枝子
◎藤元一彦　（計29名）

三谷山から天ケ森（北山歩き37）

9月10日(日) 曇り一時雨

出町柳駅バスターミナル9・00（集合）～05（バス）三谷口9・30～40－第二展望地10・30～40－第三展望地11・10～15－三谷山稜線11・50－三谷峠手前鞍部12・15（昼食）13・10－三谷峠13・30－天ケ森14・00－街道百井線（橋下の河原）15・20～50－小出石バス停16・00～10（バス）出町柳駅16・30（解散）

曇り空でせっかくの展望地からの眺めがなかった。やや蒸し暑く大汗をかいて登った。ほとんどが樹林帯だったが、一所によって伐採が進み、よい展望地になっている。

（参加者）本間俊次　布施清美　西川泰太　前田政雄　宮本真幸　宮木悦子　入江武史　渡辺達郎　横田昌憲　船越利明　鵜越みよ子　森川信之　今津省司　新田愛子　藤岡　格　西村義測　小笠原喜峰　長村健男　宮前孝喜　小笠原愛子　三宅　暁　木村雅恵　家入敏元　家入親子　高橋憲治　高橋由紀子　加藤元彦　平尾繁和　杉村安代　岡原定矢　川上久堅　松本　博　桜田敬子　小倉泰雄　橋本喜久夫　多賀久子　仲秋豊子　隆　嘉子　深坂　寛　深坂昌子　高橋雅治　吉岡義枝　原田雅美　原田幸子　米川大蔵　上坂廉枝　中島ミツエ　永井哲男　美村孝治　松本光次　風見陽子　平　幸子　堀内勇蔵　富岡隆子　山口明治　松坂須志子　吉田直二　林　政三　山口恵美子　田中貞子　松尾美幸　土居美枝子　竹内正三　呉山繁二　○岩佐拾美　○中西信行　○山崎義治　◎村田智俊（計68名）

桃太郎ケ岳から祖父谷峠・狼尾根（木曜ハイク14）

8月14日(木) 雨

北大路駅8・45（タクシー）岩屋　大助9・15～30－葵師峠9・55～10・05－鉄塔広場11・30（昼食）12・10－桃太郎ケ岳12・20～25－ナベクロ峠12・50－祖父谷峠13・05～15（祖父谷を経て）狼峠14・03～15－オ梅谷降り口15・25－祖父谷林道16・10～15－岩屋橋16・50～17・05（バス）北大路駅17・45（解散）＝出町柳駅18・00

初から降り続いた雨にもめげず北山のコングコースを元気に歩いた。祖父谷林道では30㍍ほどもあるオオサンショウウオがうごめいていたので谷へ戻してやった。

（参加者）高岡信男　梶本喜二郎　野口　修　井上正恵　越智ヨシミ　藤田光彦　東　義美　阪口子鶴子　春田芳神　今井　治　堅田美奈子　小林伊佐子　南　寛子　長沢佑美　佐々木昌子　高橋明美　北尾信枝　中村英雄　三宅　明　和井和子　諏訪経子　加上　明　木島久治郎　豊田孝一　吉岡義枝　内形幸三郎　山口明治　鷹山義治　辻　嘉一郎　若木俊二　辻村延夫　田中まゆ子　大井　洋　竹田善吳　築山信夫　松井徳永　今西光男　水見喜妙子　明神成行　林　定男　口村和子　熊木秀雄　◎前中　毅（計43名）

奈良・竜門ケ岳

9月23日(日) 曇り

近鉄桜井駅南口9・45（集合）9・00（バス）不動滝9・25～35－大峰10・35～45－三茶峠11・25～35－竜門ケ岳12・05（昼食）13・10－竜門滝13・40－14・05－山口15・03（スポーツセンターで休憩）16・20（バス）大和上市駅16・40（解散）

台風14号が接近していたが、近畿への影響は少なく雨も降らず久しぶりに涼しい風の中を歩いた。

（参加者）森澤元博　森澤淑子　野口志郎子　野口　修　加藤元彦　三浦弘幸　新山多子　梅田　貢　川端　進　吉橋　清　梅田政雄　真田久子　平嶋芙子　小田潤子　中村啓一　千葉千枝子　今西光男　青木一雄　浦良次郎　中村恵喜　佐野幸一　横井恭子　川上久堅　吉田義宏　明神敏行　神井清之　永井哲男　医科義治　中西　昭　小林　昇　仲秋豊子　竹田利夫　魚水秀男　中井ひろみ　平　幸子　鍬谷豊子　日高早紀　武田悦子　○高橋　寛　○貝定保夫　◎中西信行（計32名）

北山・魚谷山（地図読み13）

10月1日(日) 曇りのち雨

出町柳駅バスターミナル8・30（集合）40（バス）岩屋橋9・30～40－オ梅谷林道分岐10・15－林道終点10・45－魚谷峠11・04～11・10－魚谷山11・15（昼食）12・07－滝谷峠13・10～25－二ノ滝ユリ展望地14・15～20－教電二ノ滝駅14・56～15・10（電車）出町柳駅15・35（解散）

年前50%午後80%の降雨確率予報のため35人の参加予定が7人に減ってしまった。予定のコースを

歩きながら地図読みの勉強を実施。魚谷山で昼食を終え下山する頃に雨になった。歩きを早めて二ノ滝駅着は予定より30分早くなった。

（参加者）森澤元博　森澤淑子　真田久子　高岡信男　村上孝代　中西宏枝　◎森元一彦（計7名）

雲生・亀山峠から宮元山

10月1日(日) 曇りのち雨

近鉄名張駅東口9・00（集合）10（バス）宮原高原9・55－お亀池10・15－亀山峠10・40－亀山10・50～11・00－長尾峠11・15－後古光山12・00－フカタワ12・15（昼食）13・00－太郎路13・50～14・30（バス）名張駅15・10（解散）

曽爾高原のススキ原は秋、この頃が一番すばらしい。フカタワで昼食時に雨が降りだし、急坂の古光山はカットした。太郎路へ下山して早めの帰途についた。

（参加者）前田政雄　入江武史　近藤　哉　吉橋　清　横田昌憲　三浦弘幸　森川信之　梅田　貢　中山法恵　岩城尊子　青木一雄　脇田和洋　湯浅依男　加藤光彦　熊木秀雄　徳永美雄　中西　昭　中村美雄　岡田　昇　岡田恵美子　真田久子　平嶋芙子　千葉千枝子　今西光男　杉村安代　佐田依男　今津省司　布施清美　木村雅恵　富岡隆子　岡本政一　竹田利夫　明神成行　三木民子　宋　喜淑　松井徳永　美村孝治　美村三枝　奥村誠治　川人郁子　深坂　寛　深坂昌子　木島清子　野口　修　梶本芳雄　高田清子　飯田　昇　稲垣逸夫　○岩佐拾美　◎増田智俊（計35名）

丹生山系・屏風谷

10月8日(日) 小雨のち晴れ

JR三田駅9・30（集合）35（バス）屏風谷バス停10・00～15－屏風谷口10・40～45－大峰と緑の道出合11・20－河原11・50（昼食）12・50－天下辻分岐13・00－谷上吉河分岐13・40－鍋谷峠駅14・40（解散）

小雨の屏風谷を通行したが、水量が少なく歩きやすかった。所々にダイモンジソウが咲いていて、人に会わない静かなコースだった。

（参加者）奥村清一　高田光子　前田政雄　新出愛子　星野正弘　岩城尊子　井上　保　青木一雄　桜田敬子　大崎程信　水島久治郎　小林　昇　船越利明　船越みよ子　永井哲男　木村　晃　森実喜寿子　吳原清子　松井徳永　熊山千枝子　隆　嘉子　田口米香　山崎多恵子　湯浅依男　高橋　寛　石田フサ子　横田昌憲　呉山裕美　清江亜美子　坂本正次　三木民子　宮村孝次郎　○村田智俊　◎今津省司（計34名）

三峰・白髭山

10月8日(日) 雨

近鉄・JR松阪駅8・40（車）国道166号・太郎平動務9・15～40－大石幼稚園9・55－車道終点10・45－矢ノ津出合11・20－小ピーク・石塚橋現在11・40－白髭山12・00（昼食）12・50－石塚橋現在13・00－宮野・東原14・40－宮野寺14・00－国道166号・深野バス停14・35－大石幼稚園15・00（解散）

雨のち雨雨のあいにくの天候。でも花がまれいだった。アキノキリンソウ、ジュウメイギク、キキョウ等。

（参加者）脇田和洋　川端恵美子　小堀中男　石田敏章　森　美香子　本村好和　大野　博　大野芳子　大野毛裕　大野晴紀　阪本尖子子　酒野良一　伊藤勝一　稲垣恵美子　波田結香　○尾崎英五　◎稲垣逸夫（計17名）

栃木・三国岳

10月10日(日) 晴れ

JR安曇川駅8・00（集合）20（バス）古屋9・20～45－ロクロベット谷水場10・15～25－岩谷峠11・00～10－三国岳12・00（昼食）13・20－下山道分岐13・10～20－林道14・30－桑原橋14・45～15・30（バス）安曇川駅16・40（解散）16・52発（電車）大阪・京都へ

絶好の登山日和に恵まれ、ブナ林の原根道を歩いた。山頂に50人で満員だった。道標も的確にあり、よく整備された歩きやすいコースだった。

（参加者）野岡達夫　前田政雄　今井　治　中尾　勉　今村真智子　堀原勇蔵　藤岡　格　前田幸子　屋野正弘　村上孝代　木全正秀　沖　伸　沖　紀子　青木一雄　湯浅依男　中川博史　城戸　勝　林　正義　宮木真幸　宮本豊子　中村英雄　前田栄二　安田文美江　米川大蔵　南　寛子　高橋明夫　若木俊二　響山義治　内海幸三郎　血原清男　血原智子　藤見千恵子　寺本幸男　隣　孝子　市橋清美　川上久堅　渡辺俊一　岡本政一　林　稔子　小林　稔　深坂　寛　深坂昌子　松田智子　鍬田キクエ

渡辺達郎　熊木義雄　倉元ミツヱ
永井哲男　本田博子　木村昌志
岡部定夫　里井昌子　美村孝治
細井和子　呉比裕美　山本京智子
稲本芳雄　高橋栄治　高橋山紀子
松尾美幸　横井　徹　横井義子
仲秋尋子　上坂延枝　川西美智子
山口明治　芝野泰明　山下知余子
日高実雄　林　弘毅　宮村孝次郎
岡田正治　河合正彦　河邊牧男
加藤元彦　能塚健治　鳳部義ちず
西村泰治　松下　武　上井忠義子
稲田節子　阿部邦彦　久保田栄次
青木和子　小笠　学　石川和芳
平　幸子　塚野さよみ
○今津省司　○村田智俊
◎出口泰次　（計91名）

三国谷から武奈ケ岳（木曜ハイク15）

10月12日(木)　晴れ
JR比良駅8・46（バス）イン谷口8・55～9・06―青ガレ10・03～15―金糞峠10・53～11・00―中峠11・50―口の深谷源流12・03（昼食）40―ワサビ峠12・50―武奈ケ岳13・23～40―八雲ケ原14・25～40―北比良峠15・00―大山口16・05～25―イン谷口16・42～17・05（バス）比良駅17・15（解散）

快晴の武奈ケ岳からの展望は抜群で、中でも紅葉の琵琶湖が印象的だった。西南麓に咲くリンドウや八雲ケ原一帯のススキの大群落に、深まりゆく秋を感じた。
（参加者）浦上　明　橋本哲二郎　米川大輔　高橋明美　堅田天弟子　藤田光彦　北尾信枝　下川三千子　藤本一夫　第山信夫　水島久治郎　長浜佐実　富岡光男　今西光男　山口明治　用見義子　小林政男　松井徳永　太井　洋　山本千鶴子　伊藤理扮　◎前中　毅（計22名）

播州・千ケ峰

10月15日(日)　曇り
JR新大阪駅7・30（集合）35（バス）JR西脇市駅バス停9・10（バス）門村登山口10・00～10―三谷渓谷登山口10・30―谷から尾根登り口11・10―千ケ峰11・50（昼食）12・40―市原峠13・40―林道終点登山口13・55―キャンプ場14・25―丹治15・05（バス）西脇市駅15・30（バス）新大阪駅17・50（解散）
三谷渓谷から千ケ峰への急登を一気に登り、素晴らしい眺望を満喫した。市原峠から下山した。
（参加者）野口　修　野口志津子　岡田　昇　岡田恵美子　竹田芳美　中尾　勉　奥村誠治　栗原弟子　川端　進　安田文美江　松田紀子　今津省司　呉比裕美　国三政雄　青木一雄　湯浅次男　高橋　寛　英村孝治　西沢広二　松井徳永　村山智俊　横田昌雄　山本武臣　山本今子　表栄喜美子　藤岡天宝　今村　眞　篠原しのぶ　都藤徳子　伊藤和代　川上香代子　石川芳代子　○須藤岡　裕　◎井上　保　（計35名）

鈴鹿・銚子ケ口山系

10月22日(日)　晴れ
JR近江八幡駅8・00（集合）05（バス）杠葉尾登山口9・00～20―長尾峠山南尾根10・35―水谷11・10―東峰11・45―銚子ケ口11・53―中峠12・00（昼食）12・50―西峰13・10～20―南峰13・50～55―銚子ケ口14・10―東峰14・15～30―長尾山南尾根15・20～30―杠葉尾16・15～30（バス）近江八幡駅17・40（解散）
色づき始めた銚子ケ口山系を巡る。各峰々からは、まさに「絶景の展望台」で、素晴らしい展望だ。西峰から水舟の池を見たが、時間がなくカットした。
（参加者）芝野泰明　上井忠義子　前田敬雄　橋田昌雄　今村武智子　麓岡　格　松本　博　梶原孝蔵　中川光国　沖　伸　加藤元彦　米川大輔　林　冷子　河原美代子　小林　稔　宮本哲平　宮本哲子　成清　茂　林原寿生　田中喜美江　田中　誠　渡辺信二　中村啓一　川端　進　武田隆雄　阪口千鶴子　呉比裕美　木村綾恵　小森孝子　井上正恵　村上俊子　稲本芳雄　永井徳永　松井徳永　増田国宏　佐田次男　中西　純　辻　孟一郎　永井哲一　下西　純　寺本孝男　直原清男　血原智子　宮崎孝次郎　高木泰次　山科武彦　高木泰次郎　若木修二　中村利子　善見士恵子　青木一雄　林　正敏　横井義子　杉村友代　石川和芳　河村忠夫　前田啓子　湯浅次男　中井ひろみ　上坂延枝　松林立美　渡辺達郎　高橋明美　小西清雄　山脇邦彦子　隣　勝子　明神成行　里井昌子　竹内正三　宮岡憲子　小林　昇　倉田悦子　美村孝治　安田文美江　和田直樹　岡田　昇　岡田恵美子　則定俊夫　畠川民代　森本高智子　吉田誠宏　小林　修　下川三千子　○川上久堅　○今津省司　○五野　明　◎村田智俊（計93名）

陶器山から天野山金剛寺（文学・歴史・散歩26）

10月23日(日)　晴れ
泉ヶ丘駅9・00（集合）30―陶器山10・40―河内ふるさとの道休憩所11・40（昼食）12・20―下里総合運動場13・40～50―天野山金剛寺14・45（往復）天野山バス停16・08（バス）河内長野駅16・30（解散）
マチバシイ・ギンナン・シイ・ムカゴ・カヤノミ等の秋の出迎えをうけた河内ふるさとの道のぶらぶら歩き。昼食にはお茶を沸かしおやつを食べ、楽しい一日でした。
（参加者）木島久治郎　栗原弟子　新井智之　伊藤隆絵香　松永めぐみ　◎松永重一（計9名）

高野町石道

10月26日(日)　晴れのち曇り
南海九度山駅8・40（集合）―慈尊院9・00～10―一六三町石9・40～45―二六三町石10・45～55―子安地蔵11・30（昼食）12・20―矢立13・30～35―大門15・30～40―根本大塔15・50～16・05（解散）―千手院16・15発（バス）高野山駅
高野山の紅葉が映える初々しい秋の一日、さすが新ハイキング組、20キロの登りコースを全員平然と歩いた。
（参加者）前田啓雄　森川惟之　梅田　豊　前田久子　木島久治郎　平田英子　布施清美　松井徳永　三木高子　渡辺次男　千葉千枝子　坂本正次　高野敬雄　岡田真介　本島智子　西沢広二　山高多恵子　山岡義治　高橋　寛　測定厚夫　青木一雄　○岡田　昇　◎奥村誠治　（計23名）

新ハイキングクラブ関西

入会のすすめ

このページの山行別会を通して正しい山歩きを、たのしい山仲間たちと味わいませんか。リーダー（後）はすべて無償の奉仕で、各自で切符を買い各代を払い、宿泊料もすべてワリカンです。
あなたも新ハイキングクラブ関西に入会してたのしい仲間になりませんか。会員には年号「新ハイキング・新世関西の山」（年間原価6冊分）をお届けします。会員は山行別会に優先参加できます。
入会金　600円（バッジ代）
年会費　2500円（資料共）
新ハイキングクラブ関西への入会申し込みはこの雑誌に挿入の振替用紙をご利用下さい。第何号から送本せよとご明示下さい。
尚、定期購読を御希望される方も会員になって頂きますと、掲号流実にお手元に届きますので便利です。

山行リーダー募集

新ハイキングクラブ関西では、会員の増加に伴って、山行別会を増やす必要があります。リーダーは2か月に一回程度の山行計画を立案し、実施して頂きます。
申し込みの受け付けなど、いろいろな用件がありますが、経験のある方や、やってみたいと思われる方は、当会本部（村田）までご連絡下さい。

○新入会員紹介（2587―まで）
伊藤理扮　川端勝子　相原悠紀子
河合晶行　河邊雅子　藤井義郎
木村　晃　梅澤幸司　久保田信代
金光新一　金光智美　美和真代
奥田真雄　土田泰造　川上喜代子
高木泰三　知田良男　河原美代子
河野治男　田中康光　田中和子
親家明子　中田茂子　村上美佐子
城戸　勝　友国和男　伊藤　真
角田吉夫　角田郁子　高野真智子
井上信明　近本新一　大西ミヤ子
前田　保　前田恵子　若木修二
中光宗夫　上田直子　村田國雄
田村能和　岡崎幸子　溝江征智子
萩野信也　小川敏子　森　清彦子
浅田啓男　森　道広　鍋智世美子
岡田春美　樋矢勝利　上木宏子
石田豊美　横山良子　河合正彦
石田修一　榎本康美　平島市紀夫
川端保雄　岡処定治　丸林加代子
宇恵光昭　伊藤勝子　熊瀬ツタ子
熊瀬信男　北村道夫　別府ユリ子
北村　旗　高尾　哲　鴨田知子
後藤清治　後藤勝子　奥井宗生
鍋　和也　杉浦新利　森田順子
小林和郎　高木　晋　佐々木治郎

訂正と謝罪

25号（解説）P93中段30行目伺われは嘱われが正しい。
25号（解説）P93下段2行目「イッヒ・アイキ…」は「イッヒ・アオキ…」が正しい。（編集部）

毎号お求めになりたい方へ―
前もって書店に毎号ほしいと「購読予約」をされますと、どこの書店でもお買い求めいただけます。風数月の20日ごろ（編集部）の発売です。